

教 科	国語	科 目	現代の国語	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	-------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	筑摩書房「現代の国語」
副教材等	問題集、便覧

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
授業の進め方、 学習方法	1. 評論では、段落相互の関係をつかみ、論理の展開や要旨を的確に捉えていく。また、具体例とその抽象化・一般化の手法を学ぶ。新鮮な視点と柔軟な思考で物事を捉え、物事を根本から考える姿勢を学ぶ。 2. 実用的文章などを用いながら探究的な取り組みを行う。読むこと、書くこと、聞くこと、話すことなどを粘り強く、学習課題に沿って、具体的な言語活動を行う。 3. 単元の順序・教材の精選は適宜状況に応じて行う。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	読解『境目』	①「～の境目」ということばで表現できる過去の経験や出来事を書き出す。 ②グループ内で書き出した内容を紹介し、発表する。③グループで話し合ったことをふまえて、クラスの前で発表する。	【知識・技能】 言葉に認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】
	読解『ことばとは何か』	①日本語にあってほかの言語にはない名詞にはどのようなものがあるか調べ、互いに発表する。②他の言語における気象用語に関して、日本語とは「含まれている意味の厚みや興行きが違う」例をグループで調べ、それぞれ発表する。 ③①②で挙げたことをグループ内で発表し、興味深い「問い」と興味深いと感じた理由を説明する。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。比喩、例示、言換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く要点を把握し学習課題に沿って視点を変えてみることを理解し、自ら論点における課題を調べようとしている。
	読解『デジタル社会』	①「パノプティコン」「超パノプティコン」「ポスト・パノプティコン」のそれぞれの内容を簡潔にまとめ、数人のグループになって話し合う。②「質量」「メディア」「権力」という術語の意味を、複数の辞書で調べる。③②で調べた術語について、辞書で示されている意味と、本文中の意味の違いを考える。	【知識・技能】 ことばについて書かれた本教材を通して、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】
	読解『身体、この速きもの』	①ふだんは意識しないじぶんの身体を特に意識してしまうのはどんなときか考える。②わたしと身体との関係を述べる筆者の論理を理解する。③本文中の比喩的な表現が具体的に何を指すのか考える。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く解釈についての筆者の考えを理解し、学習課題に沿って、本文の要点をまとめようとしている。
2 学期	読解『〈私〉時代のデモクラシー』	①「近代社会」と「現代的な社会」を比較し、「近代社会」の特徴を箇条書きでまとめる。 ②デモクラシーの成り立ちを調べ、グループで共有する。 ③筆者の意見をふまえて、関心を持った社会問題やニュースについて議論する。	【知識・技能】 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 【思考・判断・表現】
	読解『マルジャーナの知恵』	①グループで印象に残っている昔話や寓話、エピソードを持ち寄り、なぜそれらが語り継がれてきたのかを話し合う。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。 【主体的に学習に取り組む態度】
	読解『記憶する体』	②①の物語の中に、現代の私たちにとってどのような意味や教訓が発見できるか、話し合う。 ③②で見つけた意味や教訓が明確に伝わるように表現の仕方を工夫して、グループごとに物語を発見する。	【主体的に学習に取り組む態度】 積極的にメディアを使って情報を収集し、学習課題に沿って各メディアの特徴や長所や短所について話し合い、自分の考えを深めようとしている。
	読解『賛沢の条件』	①グループで「機械的時間」と「手仕事の時間」にあてはまる具体例について話し合う。	【知識・技能】 言葉に認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】
3 学期	読解『来るべき民主主義』	②①で挙げた具体例を「機械的／手仕事の」という二項対立を使って400字以内でまとめる。	「話すこと・聞くこと」において論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
	読解『主体という物語』	①自身が感銘を受けたことのある他者のことばをメモに書き出す。 ②①をグループで共有し、質問・説明しあう。 ③一つの言葉を選び、身近な問題にあてはめて短い文章にまとめる。	議論の前提を明確化する学習の内容に関心を持っている。 〈発問・授業時の態度〉/発表の態度は積極的にほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。
	読解『リスクと近代社会』	①主張したい仮説を立てる。 ②①で立てた仮説について、関連する情報を集め、仮説を裏付けするものがないか分析する。 ③リサーチ結果を発表する。	【知識・技能】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切な敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 【思考・判断・表現】
	読解『名づけと所有』	①「アメリカ」ということばの働きについて本文をふまえてまとめる。 ②自分の住んでいる都道府県名が、いつ、どのような形で決められていたのか、またそれ以前はどのように呼ばれていたかを調べ、その意味を考える。 ③近代社会を象徴するようなことばを選び、その成り立ちや働きなどを調べ、ことばの力について話し合う。 ④考えを小論文に組み立てる。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて、叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く筆者の考えと引用を読み解き、学習課題に沿って実社会における生き方について筆者の主張を理解し、自分の考えをまとめようとしている。

成績評価方法	1 定期考査においては、知識、技能、思考、判断、表現を評価する。 2 学習態度などの平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点、及び伸長の状況などを評価する。 (3) 問題集やレポートの提出状況・課題テスト・小テストなどを評価する。 以上の全てを対象に、総合的に判断する。
--------	--

教 科	国語	科 目	言語文化	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
使用教科書	数研出版「言語文化」								
副教材等	問題集、古文文法書、漢文句形書								

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 1. 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。 3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
授業の進め方、学習方法	1. 文学的な文章・詩歌に描かれた人物・情景・心情などを、表現に即して読み味わい、的確にとらえる。 2. 文や文章の組み立て、語句の意味・用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。 3. 文語のきまり(歴史的仮名遣い、用言・助動詞の用法、係り結び、敬語法、音便等)を理解する。 4. 訓読のきまり(訓点、書き下し文)を理解し、漢文特有の表現に親しむ。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	古文学習の基礎 ・歴史的仮名遣い ・古語と現代語 ・五十音図といはる歌 古文 説話「児のそら寝」 小説「羅生門」	古文を読むための基礎を身につける。 文中の主語の省略を補って古文を読む。 品詞の区別ができるようにする。動詞の活用を覚える。 古典の授業開きとし、今後の古典学習のガイダンスとする。 平安期を想定した小説に親しみ、話の展開や主題を読み取る。 作品に即して描かれた場面や作中人物の心情を的確にとらえる。	【知識・技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。
	漢文学習の基礎「入門」 返り点、送り仮名、書き下し文、置き字、再読文字・語順 漢文「故事」 矛盾、狐借虎威、古文随筆「徒然草」「ある人弓射ることを習ふに」 物語「伊勢物語」 芥川 東下り 短歌・俳句	漢文を読むための基礎を身につける。 現在の言語生活にも生きる故事成語について、理解と関心を深める。 随筆を読み、昔も今も変わらない人間の心理を探る。 歌物語を通して登場人物の心情を読み取り、叙情性を味わう。 古文の表現について理解と関心を深め、観賞する力を養う。 形容詞・形容動詞の活用、助動詞の活用、意味、接続を理解する。 短歌・俳句の言葉のはたらきを知り、表現の特色を理解する。 それぞれの作品について鑑賞文を作り、相互に批評し合う。	【知識・技能】 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。句切れ・季語・不定型などの知識が理解できたか。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで漢文の特色や訓読のきまりを理解し、見通しをもって、古典を学ぶ意味について考えを持とうとしている。
2学期	古文 物語「竹取物語」天人の迎へ 漢文 故事成語「矛盾」「朝三暮四」 小説「城の崎にて」	物語に描かれた平安時代の人々のものの見方や感じ方について知る。 伝奇物語の世界を通し、夢や空想の世界にふれる楽しさを味わう。 漢文における論理展開と簡潔な表現とを読み味わう。 故事成語のについての理解を深める。漢文の重要表現の種類と用法を確認し、整理する。 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	【知識・技能】 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで訓読のきまりを理解し、学習課題に沿って、話の展開や登場人物の言動を読み取り、寓話に込められた意図について考えようとしている。
	古文 日記文学「土佐日記」 門出 帰京 漢文「唐詩」 静夜思 山行 送元二使安西 八月十五日～ 漢文 史話「管鮑之交」	月の異名、方角、時刻を理解する。 日記文学に触れ、心情がどのように描かれているかを理解する。 日記の表現上の特色について、理解と関心を深める。 漢詩文を読み、特有の表現に慣れ、内容を理解する。 漢詩の形式を理解する。 情景描写に注意して作者の心情を味わう。 史話のおもしろさを味わい、中国の歴史に親しむ心を養う。	【知識・技能】 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、五感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考・判断・表現】 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで漢詩の形式ときまりを理解し、学習課題に沿って、漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、優れた表現に親しもうとしている。
3学期	古文 和歌 「万葉集・古今集・新古今集」 漢文 論語 孟子 文章 雑説	和歌の魅力を知る。 三つの歌集の特徴を把握し、時代の変化との関連について考察する。 孔子、孟子の生き方、考え方を学び、学問・人生・政治について考える。	【知識・技能】 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 【思考・判断・表現】 孔子の思想に興味を持ち、ものの見方や考え方を豊かにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで桜に関して書かれた多様な形式の作品を読み比べ、学習課題に沿って、日本文化における桜のありようを探ろうとしている。

成績評価方法	【知識・技能】 授業に取り組む姿勢、定期考査、提出物等を元に判断する。 【思考・判断・表現】 授業に取り組む姿勢、定期考査、提出物等を元に判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に取り組む姿勢、提出物等を元に判断する。
--------	---

教 科	国語	科 目	論理国語	学年・類型	2年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
使用教科書	筑摩書房「論理国語」								
副教材等	啓隆社「入試漢字2500＋1」								

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	
授業の進め方、 学習方法	・段落相互の関係をつかみ、論理の展開や要旨を的確に捉えていく。また、具体例とその抽象化・一般化の手法を学ぶ。新鮮な視点と柔軟な思考で物事を捉え、物事を根本から考える姿勢を学ぶ。 ・単元の順序・教材の精選は適宜状況に応じて行う。	

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	アイオワの玉葱 物語るという欲望	①ことばの性質とともに、日常生活で感じた小さな違和感や気づきに問題を見つけ、考えを深めていく筆者の思考のありかたに注目する。 ②本文中で、言語と文化に関する筆者のどのような考えが表れているかを考える。 ③日本語のことわざや慣用語と同じ意味を持つ表現をさまざまな言語から探し、表現の仕方の違いや、その印象について話し合う。 ①解釈に関する筆者の考え方を学ぶ。 ②例示を効果的に使った文章展開に注目する。 ③映画を見て、一見意味のなさそうな映像に「奇妙な抵抗感」を覚えたことはなかったか、それぞれの経験を話し合う。 ④筆者の主張を踏まえて、メディアで取り上げられているニュースについて関心のあるものを選び、どのような「解釈」がされているか、考えてみる。	【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
	地図の想像力 本当は怖い「前提」の話	①本文の論理構成を追い、人間と世界との多様な関係について考える。 ②さまざまな地図についてその特色を話し合う。 ③関心のある情報について、発信者の価値基準に着目して比較・分析をする。 ①本文を読んで「前提」を見直し、情報と情報との関係を理解する。 ②特定の主張や価値観を前提にした表現が用いられている事例を身の回りから探し、発表する。 ③自分自身の言動の中に、気づかないうちに「当然の前提」としてしまっていることがないか、振り返ってまとめる。	【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
2学期	人新世における人間 現代日本の開化 荘子	①本文を読んで、科学者たちが提唱した「人新世」という新しい語が、社会にどのような視点を提供したのか、考える。 ②事典などを用いて「地層」に基づく年代区分について調べ、まとめる。 ③もし自分が「未来の地質学者」ならば、21世紀初めの地球環境をめぐる議論をどう位置づけるか、自分なりに想像してまとめる。 ①本文を読んで「いつ・どこで・誰が、どんな立場から」語った文章なのかを意識する。 ②本文を読んで、観客を前にした講演ならではのレトリックに注目する「事実」に対してどのような態度を持つことが必要か、本文を踏まえてまとめる。 ①本文を読んで古典の意義はどこにあるのか、歴史を終た数智がさまざまな解釈によってよみがえることを学ぶ。 ②本文に引用されている漢文の書き下し文と、その現代語訳を朗読し、それぞれの文章が与える印象の違いはどのような点に起因するか話し合う。	【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
	貧困は自己責任なのか 模倣と「なぞり」	①本文を読んで、引用の中の語句を解釈しながら自説を組み立てる論法に留意する。 ②本文を読んで、筆者の考え方を理解し、現代社会の問題点に光を当てる視座の見いだし方を学ぶ。 ③貧困問題を抱える社会にとって豊かさとは何か、本文の議論を踏まえた上で話し合う。 ①本文を読んで、対比的に書かれた筆者の主張を論理的に捉える。 ②本文を読んで具体例に基づいて説得力ある議論を組み立てる手法を学ぶ。 ③「なぞり」によって身に付けたものにはどのようなものがあるか、話し合う。 ④「模倣」について自分なりのテーマを定め「序論」→「反論」→「結論」という構成で論じる。	【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
	トリアージ社会 「である」ことと「する」こと	①本文を読んで、ことばの変遷を追うことによって社会の実像が見えてくるということを知る。 ②治療において「トリアージ」が導入されることについてどのように考えるか、自分の意見をまとめる。 ③本文をもとに、自分は人間をどのような存在だと考えるか、自分の考えをまとめる。 ①本文を通して、ことばの意味を吟味し、この社会の原理や原則を形づくることばが、どんな思想や行動に支えられているかという分析を突き詰める文章の手法を学ぶ。 ②自分たちの生活の中にある「である」価値と「する」価値について、具体例を挙げて話し合う。 ③夏目漱石「現代日本の開化」と読み比べ、二人の筆者の主張の共通点をまとめたうえで、それに対する自分の考えを書く。	【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。

成績評価方法	【知識・技能】 考査・課題テスト・小テスト 【思考・判断・表現】 考査・課題テスト 【主体的に学習に取り組む態度】 普段の授業に取り組む姿勢、態度 ・ 問題集やレポート、ノートの提出状況
--------	--

教 科	国語	科 目	古典探究	学年・類型	2年文系	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
-----	----	-----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	桐原書店(古探721)『探求 古典探究 古文編』／桐原書店(古探722)『探求 古典探究 漢文編』
副教材等	尚文出版『古典常識も学べる 新明説総合古典文法』／啓隆社『漢文学習必携』三訂増補版／数研出版『プレミアムカラー国語便覧』改訂版／桐原書店『古文単語315』四訂版

学習目標	1. 「言語文化」の学習に続き、様々な教材を取り上げ、幅広く学習することで、古典の内容を的確に捉え、理解する力を高める。 2. 古典に用いられている語句の意味や用法、表現上の特色や構造への理解、文章に表れた思想や感情の読み取りなどを通して、国語についての認識を高め、言語感覚を養う。 3. 優れた表現に親しみ、特に日本と中国の文化の関係を考える。 4. 古典に表れたその時代の思想や感情に触れ、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにするとともに、古典に親しむ態度を身に付ける。
授業の進め方、学習方法	① 古典としての古文を読む能力を養うために、文法の手を付け、語彙を増やす基礎的な作業を継続的、反復的に行う。 ② 漢文については、句法の手を付け、個々の漢字の意味の広がり、熟語の正確な理解、故事成語、四字熟語などの知識を確実に積み上げる。 ③ 単なる解釈にとどまらず、総合的に古典の世界をつかむために、古典の理解に欠かせない歴史的背景や文化、制度についての知識を強化する。 ④ 文化の継承という広い展望に立ち、現代と伝統との結びつきを意識することで、古典に親しみ、学ぶことの意義を深く自覚する。 ⑤ 2・3年の2年間の学習に資するため、本年度の教材の精選・単元の順序変更は適宜状況に応じて行う。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	古文 説話 『宇治拾遺物語』歌を詠みて罪を許さること 随筆 『徒然草』家居のつきづきしく・あだし野の露消ゆるときなく 故事・寓話 画竜点睛・漱石枕流・病入膏肓	・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。 ・古文の読み慣れ、古典に親しむ。・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を正しく理解し、把握する。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・それぞれの故事成語の本来の意味を理解し、現代に於ける意味や用法を習得する。 ・故事成語を生んだ文を原文で読むことによって、中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し、日本文化と中国文化との関係について考える。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。
	古文 随筆『方丈記』行く川の流れ・安元の大火 歌物語 『伊勢物語』初冠・月やあらぬ・行く蜩 漢文 史伝 『三国志』赤壁の戦い『史記』背水の陣	・物語を読み、古典に対する親しみを深める。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・長文の漢文に読み慣れることによって、文章の構成や展開を正しく理解する。 ・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・表現技法や修辞、文体などの特色を理解し、その巧みな描写、簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、学習課題に沿ってまとめようとしている。
2学期	古文 物 語 『源氏物語』光源氏誕生・光源氏と藤壺・若紫との出会い 漢文 史伝『史記』鴻門の会	・長文の漢文に読み慣れることによって、文章の構成や展開を正しく理解する。 ・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・『史記』の表現技法や修辞、文体などの特色を理解し、その巧みな描写、簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
	古文 物 語 『大鏡』花山天皇の出家・道長と伊周の競射『平家物語』忠度の都落ち 随筆『枕草子』うつくしきの 漢文 史伝『史記』四面楚歌 漢詩	・物語のおもしろさを読み味わう。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・和歌や歌謡の特色を理解し、その主要な作品を味読する。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 ・『史記』の表現技法や修辞、文体などの特色を理解し、その巧みな描写、簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
3学期	古文 日記 『更級日記』門出・物語 物語 『大和物語』姥捨 『雨月物語』浅茅が宿 漢文 思想 『孟子』 『荀子』	・文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・文章の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 ・作者や作中人物の、人間・社会・自然などに対する様々な考えや感情を的確に読み取ることによって、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。 ・古代中国の思想家たちの、人間・社会・自然などに対する様々な考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。 ・古代中国を代表する思想書を読むことによって、日本文化との関係について考える。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。

成績評価方法	1 定期考査においては、知識、技能、思考、判断、表現を評価する。 2 学習態度などの平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点、及び伸長の状況などを評価する。 (3) 問題集やレポートの提出状況・課題テスト・小テストなどを評価する。 以上の全てを対象に、総合的に判断する。
--------	--

教 科	国語	科 目	古典探究	学年・類型	2年理系	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	桐原書店(古探721)『探求 古典探究 古文編』／桐原書店(古探722)『探求 古典探究 漢文編』
副教材等	尚文出版『古典常識も学べる 新明説総合古典文法』／啓隆社『漢文学習必携』三訂増補版／数研出版『プレミアムカラー国語便覧』改訂版／桐原書店『古文単語315』四訂版

学習目標	1. 「言語文化」の学習に続き、様々な教材を取り上げ、幅広く学習することで、古典の内容を的確に捉え、理解する力を高める。 2. 古典に用いられている語句の意味や用法、表現上の特色や構造への理解、文章に表れた思想や感情の読み取りなどを通して、国語についての認識を高め、言語感覚を養う。 3. 優れた表現に親しみ、特に日本と中国の文化の関係を考える。 4. 古典に表れたその時代の思想や感情に触れ、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにするとともに、古典に親しむ態度を身に付ける。
授業の進め方、学習方法	① 古典としての古文を読む能力を養うために、文法の手を付け、語彙を増やす基礎的な作業を継続的、反復的に行う。 ② 漢文については、句法の手を付け、個々の漢字の意味の広がり、熟語の正確な理解、故事成語、四字熟語などの知識を確実に積み上げる。 ③ 単なる解釈にとどまらず、総合的に古典の世界をつかむために、古典の理解に欠かせない歴史的背景や文化、制度についての知識を強化する。 ④ 文化の継承という広い展望に立ち、現代と伝統との結びつきを意識することで、古典に親しみ、学ぶことの意義を深く自覚する。 ⑤ 2・3年の2年間の学習に資するため、本年度の教材の精選・単元の順序変更は適宜状況に応じて行う。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	古文 説 話 『宇治拾遺物語』歌を詠みて罪を許さるること 随筆 『徒然草』家居のつきづきしく 故事・寓話 画竜点睛・漱石枕流・病入膏肓	・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。 ・古文の読み慣れ、古典に親しむ。・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を正しく理解し、把握する。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・それぞれの故事成語の本来の意味を理解し、現代に於ける意味や用法を習得する。 ・故事成語を生んだ文を原文で読むことによって、中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し、日本文化と中国文化との関係について考える。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。
	古文 随筆『方丈記』安元の大火 歌物語 『伊勢物語』初冠・月やあらぬ 漢文 史伝 『三国志』赤壁の戦い『史記』背水の陣	・物語を読み、古典に対する親しみを深める。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・長文の漢文に読み慣れることによって、文章の構成や展開を正しく理解する。 ・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・表現技法や修辞、文体などの特色を理解し、その巧みな描写、簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、学習課題に沿ってまとめようとしている。
2学期	古文 物 語 『源氏物語』光源氏誕生 若紫との出会い 漢文 史伝『史記』鴻門の会	・長文の漢文に読み慣れることによって、文章の構成や展開を正しく理解する。 ・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・『史記』の表現技法や修辞、文体などの特色を理解し、その巧みな描写、簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
	古文 物 語 『大鏡』花山天皇の出家・道長と伊 周の競射 随筆『枕草子』うつくしきの 漢文 史伝『史記』四面楚歌 漢詩	・物語のおもしろさを読み味わう。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・和歌や歌謡の特色を理解し、その主要な作品を味読する。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 ・『史記』の表現技法や修辞、文体などの特色を理解し、その巧みな描写、簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
3学期	古文 日記 『更級日記』物語 物語 『雨月物語』浅茅が宿 漢文 思 想 『孟子』 『荀子』	・文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・文章の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 ・作者や作中人物の、人間・社会・自然などに対する様々な考えや感情を的確に読み取ることによって、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。 ・古代中国の思想家たちの、人間・社会・自然などに対する様々な考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。 ・古代中国を代表する思想書を読むことによって、日本文化との関係について考える。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。

成績評価方法	1 定期考査においては、知識、技能、思考、判断、表現を評価する。 2 学習態度などの平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点、及び伸長の状況などを評価する。 (3) 問題集やレポートの提出状況・課題テスト・小テストなどを評価する。 以上の全てを対象に、総合的に判断する。
--------	--

教 科	国語	科 目	論理国語	学年・類型	3年文系	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
使用教科書	筑摩書房『論国710 論理国語』								
副教材等	ラーンズ『入試につながる現代文』								
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。								
授業の進め方、 学習方法	・段落相互の関係をつかみ、論理の展開や要旨を的確に捉えていく。また、具体例とその抽象化・一般化の手法を学ぶ。新鮮な視点と柔軟な思考で物事を捉え、物事を根本から考える姿勢を学ぶ。 ・単元の順序・教材の精選は適宜状況に応じて行う。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	『『自然を守る』ということ』 「虚ろなまなざし」 「貨幣共同体」	①本文の議論の展開を追いつながら、単純な二項対立構造を越えて、新たな思考の枠組みを導き出す筆者の主張を正確に読み取る。 ①本文の「主体化」ということばに注意しながら筆者の論旨を把握するとともに、「行動する主体」としての自分自身のふるまいについて、考える。 ①本文を通して、「貨幣共同体」の成り立ちについて学び、その不思議な性質についてどのような表現を用いて説明しているかを読み取る。 ②筆者の論旨を参考にしながら、グローバル化した現代の世界経済における通貨の「危機」について、具体的な例を挙げて話し合う。	【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
	「ぼくらの民主主義なんだぜ」 「ポピュリズムとは何か」	①本文を通して、タイトル、具体例や引用の使い方などの表現技法を意識し、効果的な主張の仕方について考える。 ②クラスで意見を集め、何かを決めていくときに、どのような手順で話し合いを進めているか、手順を図にする。 ①本文を通して、「ポピュリズム」の特徴や構造を読み取り、その構造の中でことばの力がどのように働いているか、捉える。 ②賛成か反対かに大きく分かれて社会的議論が起こった「政治的アジェンダ」にはどのようなものがあるか、図書館の本や新聞、インターネット上のニュースなど、多様なメディアを用いて調べる。	【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
2学期	「思考の誕生」 「主義は広大なるべき事」	①本文を通して、抽象的なことばや、当然のことのように語られる意見に流されない議論の態度を学ぶとともに、「他人」の捉え方に関する問題点の指摘に注目する。 ①本文を通して、漢文訓読体の格調高い文章に親しむと共に、なにが筆者の主張の「わかりやすさ」を支えているのか、文章の構成の工夫に注目する。 ②本文に使われていることばや表現でなじみのないものについて、意味や使い方を調べる。 ③本文が書かれた時代や、本文が掲載された新聞『時事新報』を筆者が創刊したいきざつについて調べる。	【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
	「ものとこと」 「過剰性と稀少性」	①本文の読解を通して、認識をめぐることばや記号の高度な働きについて理解を深める。 ②本文の主張を支えている根拠となる事例や考え方についてまとめる。 ①本文の読解を通して、高度に抽象的な文章を理解する読解力を磨く。 ②現代社会における「相互模範的な欲望」にはどのようなものがあるか、具体例を挙げながら話し合う。	【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
3学期	共通テスト試験問題演習 記述試験問題演習	・共通テストに向けた長文読解 ・記述試験に向けた長文読解	【主体的に学習に取り組む態度】意欲的に取り組んでいるか。 ・人間・社会・自然・芸術などについての考え方を学び、読解を深めることができるか。 ・人間・社会・自然・芸術などについての考え方を学び、読解を深め、記述力を伸ばすことができるか。
	成績評価方法	【知識・技能】【思考・判断・表現】 1定期考査においては、知識、技能、思考、判断、表現を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点、及び伸長の状況などを評価する。 (3) 問題集やレポートの提出状況・課題テスト・小テストなどを評価する。 以上の全てを対象に、総合的に判断する。	

教 科	国語	科 目	論理国語	学年・類型	3年理系	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
使用教科書	筑摩書房『論国710 論理国語』								
副教材等	ラーンズ『入試につながる現代文』								
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。								
授業の進め方、学習方法	・段落相互の関係をつかみ、論理の展開や要旨を的確に捉えていく。また、具体例とその抽象化・一般化の手法を学ぶ。新鮮な視点と柔軟な思考で物事を捉え、物事を根本から考える姿勢を学ぶ。 ・単元の順序・教材の精選は適宜状況に応じて行う。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	『『自然を守る』ということ』 「虚ろなまなざし」 「貨幣共同体」	①本文の議論の展開を追いながら、単純な二項対立構造を越えて、新たな思考の枠組みを導き出す筆者の主張を正確に読み取る。 ①本文の「主体化」ということばに注意しながら筆者の論旨を把握するとともに、「行動する主体」としての自分自身のふるまいについて、考える。 ①本文通して、「貨幣共同体」の成り立ちについて学び、その不思議な性質についてどのような表現を用いて説明しているかを読み取る。 ②筆者の論旨を参考にしながら、グローバル化した現代の世界経済における通貨の「危機」について、具体的な例を挙げて話し合う。	【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
	「ぼくらの民主主義なんだぜ」 「ポピュリズムとは何か」	①本文を通して、タイトル、具体例や引用の使い方などの表現技法を意識し、効果的な主張の仕方について考える。 ②クラスで意見を集め、何かを決めていくときに、どのような手順で話し合いを進めているか、手順を図にする。 ①本文を通して、「ポピュリズム」の特徴や構造を読み取り、その構造の中でことばの力がどのように働いているか、捉える。 ②賛成か反対かに大きく分かれて社会的議論が起こった「政治的アジェンダ」にはどのようなものがあるか、図書館の本や新聞、インターネット上のニュースなど、多様なメディアを用いて調べる。	【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
2学期	「思考の誕生」 「主義は広大なるべき事」	①本文を通して、抽象的なことばや、当然のことのように語られる意見に流されない議論の態度を学ぶとともに、「他人」の捉え方に関する問題点の指摘に注目する。 ①本文を通して、漢文訓読体の格調高い文章に親しむと共に、なにが筆者の主張の「わかりやすさ」を支えているのか、文章の構成の工夫に注目する。 ②本文に使われていることばや表現でなじみのないものについて、意味や使い方を調べる。 ③本文が書かれた時代や、本文が掲載された新聞『時事新報』を筆者が創刊したいきさつについて調べる。	【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
	「ものとこと」 「過剰性と稀少性」	①本文の読解を通して、認識をめぐることばや記号の高度な働きについて理解を深める。 ②本文の主張を支えている根拠となる事例や考え方についてまとめる。 ①本部の読解を通して、高度に抽象的な文章を理解する読解力を磨く。 ②現代社会における「相互模範的な欲望」にはどのようなものがあるか、具体例を挙げながら話し合う。	【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
3学期	共通テスト試験問題演習 記述試験問題演習	・共通テストに向けた長文読解 ・記述試験に向けた長文読解	【主体的に学習に取り組む態度】意欲的に取り組んでいるか。 ・人間・社会・自然・芸術などについての考え方を学び、読解を深めることができるか。・人間・社会・自然・芸術などについての考え方を学び、読解を深め、記述力を伸ばすことができるか。

成績評価方法	【知識・技能】【思考・判断・表現】 1定期考查においては、知識、技能、思考、判断、表現を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点、及び伸長の状況などを評価する。 (3) 問題集やレポートの提出状況・課題テスト・小テストなどを評価する。 以上の全てを対象に、総合的に判断する。
--------	---

教 科	国語	科 目	古典探究	学年・類型	3年文系	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
-----	----	-----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	数研出版(古探709)『古典探究 古文編』／数研出版(古探710)『古典探究 漢文編』								
副教材等	数研出版『読解を大切にす る 体系古典文法 九訂版』／尚文出版『精選漢文』／ラーズ『入試につながる古文』・『入試につながる漢文』								

学習目標	1. 様々な教材を取り上げ、幅広く学習することで、古典の内容を的確に捉え、理解する力を高め、古典に用いられている語句の意味や用法、表現上の特色や構造への理解、文章に表れた思想や感情の読み取りなどを通して、国語についての認識を高め、言語感覚を養う。 2. 優れた表現に親しみ、特に日本と中国の文化の関係を考える。 3. 古典に表れたその時代の思想や感情に触れ、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにするとともに、古典に親しむ態度を身に付ける。								
授業の進め方、学習方法	① 古典としての古文を読む能力を養うために、文法の力をつけ、語彙を増やす基礎的な作業を継続的、反復的に行う。 ② 漢文については、句法の力をつけ、個々の漢字の意味の広がり、熟語の正確な理解、故事成語、四字熟語などの知識を確実に積み上げる。 ③ 単なる解釈にとどまらず、総合的に古典の世界をつかむために、古典の理解に欠かせない歴史的背景や文化、制度についての知識を強化する。 ④ 文化の継承という広い展望に立ち、現代と伝統との結びつきを意識することで、古典に親しみ、学ぶことの意義を深く自覚する。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	日記文学/鎌倉への出立(十六夜日記) 物語/車争ひ(源氏物語) 物語/須磨(源氏物語)	・物語のおもしろさを読み味わう。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの 見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・和歌や歌謡の特色を理解し、その主要な作品を味読する。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
	物語/紫の上の苦悩(源氏物語) 物語/継母の策謀(住吉物語) 史伝/伯夷・叔斉	・物語のおもしろさを読み味わう。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの 見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・和歌や歌謡の特色を理解し、その主要な作品を味読する。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
2学期	歴史物語/貫之と躬恒(大鏡) 歴史物語/最後の除目(大鏡) 史伝/廉頗・藺相如	・物語のおもしろさを読み味わう。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの 見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・和歌や歌謡の特色を理解し、その主要な作品を味読する。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
	評論/清少納言と紫式部(無名草子) 評論/俊成自讃歌のこと(無名抄) 漢詩/古体詩	・物語のおもしろさを読み味わう。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの 見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・和歌や歌謡の特色を理解し、その主要な作品を味読する。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
3学期	共通テスト試験問題演習 記述試験問題演習	・共通テストに向けた長文読解 ・記述試験に向けた長文読解	【主体的に学習に取り組む態度】 ・意欲的に取り組んでいるか。 ・古典文学についての考え方を学び、読解を深めることができるか。
	成績評価方法	【知識・技能】【思考・判断・表現】 1定期考查においては、知識、技能、思考、判断、表現を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点、及び伸長の状況などを評価する。 (3) 問題集やレポートの提出状況・課題テスト・小テストなどを評価する。 以上の全てを対象に、総合的に判断する。	

成績評価方法	【知識・技能】【思考・判断・表現】 1定期考查においては、知識、技能、思考、判断、表現を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点、及び伸長の状況などを評価する。 (3) 問題集やレポートの提出状況・課題テスト・小テストなどを評価する。 以上の全てを対象に、総合的に判断する。		
--------	--	--	--

教 科	国語	科 目	古典探究	学年・類型	3年理系	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	数研出版(古探709)『古典探究 古文編』／数研出版(古探710)『古典探究 漢文編』
副教材等	数研出版『読解を大切にす る 体系古典文法 九訂版』／尚文出版『精選漢文』／ラーズ『入試につながる古文』・『入試につながる漢文』

学習目標	1. 様々な教材を取り上げ、幅広く学習することで、古典の内容を的確に捉え、理解する力を高め、古典に用いられている語句の意味や用法、表現上の特色や構造への理解、文章に表れた思想や感情の読み取りなどを通して、国語についての認識を高め、言語感覚を養う。 2. 優れた表現に親しみ、特に日本と中国の文化の関係を考える。 3. 古典に表れたその時代の思想や感情に触れ、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにするとともに、古典に親しむ態度を身に付ける。
授業の進め方、学習方法	① 古典としての古文を読む能力を養うために、文法の力をつけ、語彙を増やす基礎的な作業を継続的、反復的に行う。 ② 漢文については、句法の力をつけ、個々の漢字の意味の広がり、熟語の正確な理解、故事成語、四字熟語などの知識を確実に積み上げる。 ③ 単なる解釈にとどまらず、総合的に古典の世界をつかむために、古典の理解に欠かせない歴史的背景や文化、制度についての知識を強化する。 ④ 文化の継承という広い展望に立ち、現代と伝統との結びつきを意識することで、古典に親しみ、学ぶことの意義を深く自覚する。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	日記文学/鎌倉への出立(十六夜日記) 物語/車争ひ(源氏物語) 物語/須磨(源氏物語)	・物語のおもしろさを読み味わう。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの 見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・和歌や歌謡の特色を理解し、その主要な作品を味読する。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
	物語/紫の上の苦悩(源氏物語) 物語/継母の策謀(住吉物語) 史伝/伯夷・叔斉	・物語のおもしろさを読み味わう。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの 見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・和歌や歌謡の特色を理解し、その主要な作品を味読する。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
2学期	歴史物語/貫之と躬恒(大鏡) 歴史物語/最後の除目(大鏡) 史伝/廉頗・藺相如	・物語のおもしろさを読み味わう。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの 見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・和歌や歌謡の特色を理解し、その主要な作品を味読する。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
	評論/清少納言と紫式部(無名草子) 評論/俊成自讃歌のこと(無名抄) 漢詩/古体詩	・物語のおもしろさを読み味わう。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの 見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・和歌や歌謡の特色を理解し、その主要な作品を味読する。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
3学期	共通テスト試験問題演習 記述試験問題演習	・共通テストに向けた長文読解 ・記述試験に向けた長文読解	【主体的に学習に取り組む態度】・意欲的に取り組んでいるか。 ・古典文学についての考え方を 学び、読解を深めることができるか。

成績評価方法	【知識・技能】【思考・判断・表現】 1定期考查においては、知識、技能、思考、判断、表現を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点、及び伸長の状況などを評価する。 (3) 問題集やレポートの提出状況・課題テスト・小テストなどを評価する。 以上の全てを対象に、総合的に判断する。
--------	---

教 科	地理歴史	科 目	地理総合	学年・類型	2年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
使用教科書	高等学校新地理総合(帝国書院), 新詳高等地図(帝国書院)								
副教材等	新詳地理資料COMPLETE2025(帝国書院), ウィニングコンパス地理の整理と演習2024(とうほう), 地理統計要覧2024(二宮書店)								
学習目標	社会的事象の地理的な見方や考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び、社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。								
授業の進め方 学習方法	教科書、副教材、ICT機器を使用しながら、系統的に地理的な学習を進めていく。学習は教室における講義形式を主とするが、グループワークやアクティブラーニングを導入し、生徒の主体性を高める。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	地図と地理情報システム 結びつきを深める現代世界 現代世界の国家と領域	日常生活で見られる様々な地図や地形図の読図をもとに、地図や地理情報システムの役割や有用性について理解する。地図の発達と世界観の変化について理解を深め、公正な世界観の形成を促す。国土地理院のwebサイトで、電子データ化された地理院地図の活用方法を学び、社会生活の中での活用を促す。GIS、全球測位衛星システム、リモートセンシング、ビッグデータに関する知識を深め、利用のメソッドを学び、活用を促す。 国境、国家、位置と領域に関して知識を高め、平和で公正な国際社会づくりにむけた高い倫理観を持てるようにする。国連の役割や地域ごとの結びつきについて学び、グロー-バルな視点でその役割や課題を考察する。	【知識・技能】 世界の自然環境やグローバル化が進む世界について、系統地理的に理解している。また、地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 地図や電子地図、地理情報、GISのしくみを理解し活用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界の自然環境やグローバル化が進む世界について、関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。
	世界の地形と人々の生活 持続可能な地域つくりと私たち	地球表面、新期造山帯、古期造山帯、安定陸塊、日本列島の地形の学習を通して、世界や日本の地形の特色を理解するとともに、日本の地形図の学習を通して地形図の読図技能を身につける。 自然災害や生活圏で見られる災害への備え、対応など地域性を踏まえて考察し、重要性を理解する。	【知識・技能】 世界の自然環境について、系統地理的に理解している。 また、地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 世界の自然環境について、人々の生活に与える影響について考察できる。その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界の自然環境について、関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。
2学期	世界の気候と人々の生活	大気と水の大循環、モンスーン、気象災害、世界の気候区分の学習を通して、気候環境や気候区分の特色を理解するとともに、気候区分の方法を身につける。それぞれの気候区について、暮らしや営みについて具体的事例に基づき地誌的内容ともリンクさせながら理解を深める。また、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	【知識・技能】 世界の自然環境について、系統地理的に理解している。 また、地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 世界の自然環境について、人々の生活に与える影響について考察できる。その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界の自然環境について、関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。
	生活文化の多様性と国際理解 複雑にからみ合う地球的課題 地球環境問題 食糧問題	自然環境と農業、世界の農業地域の分布とその特色、人々の生活と農業地域、産業の発展の学習を通して、産業の発展に関する地域性を理解する。世界全体・途上国・先進国の食料問題の学習を通して、飽食と飢え、食料供給の地域差、途上国の食料問題の自然的要因と人為的要因、先進国における栄養の偏りや過剰生産について理解し、考察する。また、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	【知識・技能】 農業を中心とする自然環境について系統地理的に理解している。 さらに、その知識を事例として取り上げた地域に適用し、地誌的にも理解を深めている。また、地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 世界の環境問題や食糧問題について、多面的・多角的に捉え、課題解決に向けて考察し、その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 環境・食糧問題について関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。
	生活文化の多様性と国際理解 資源・エネルギー問題 人口問題 都市・居住問題 世界の生活文化 世界の民族・宗教	資源・エネルギーの生産と消費や有限性、資源利用の拡大、資源ナショナリズム、生産と消費の地域性、資源の有限性、輸入に依存する日本の資源に関して理解し、考察する。 資料・統計を活用させ、途上国と先進国の視点から、人口・食料問題の地域性について考察し、問題解決方法を考える。村落・都市の機能と立地・形態について理解し、世界の村落や都市の形成・発達や分布に共通性と異質性があることに気づく。 発展途上国と先進国の視点から、居住・都市問題の現状と課題を理解し、居住・都市問題の地域性について考察する。また、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 民族・領土問題の発生地域の共通性と異質性に着目し、その背景を考察し、民族・領土問題の複雑さと問題解決にむけた動きや仕組みについて理解する。	【知識・技能】 人口・村落・都市、民族・宗教・国家について、系統地理的に理解している。さらに、それらを事例として取り上げた地域に適用し、地誌的にも理解を深めている。地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 学習内容について多面的・多角的に捉え、将来のより良い世界像について考察し、その成果を表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 地球規模化する世界の諸課題に対する関心と課題意識を高め、課題解決に向けて世界的視野から各地域の環境条件と関連づけて追究する学習に意欲的に取り組み、望ましい世界や国際関係のあり方を探究しようとしている。

成績評価方法	【知識・技能】 系統地理や地誌の知識・技能を統合し、様々な地理的事象や地域的特性について理解・考察する。また、地図や図表などの資料から、系統地理や地誌の学習内容を読み取る技能を身につける。 【思考・判断・表現】 様々な地理的事象や地域的特性について、多面的・多角的に捉え、考察を深める。地球規模の課題解決に向けての取り組みを把握し、その現状と未来について考察する。それらの成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 地理的事象や地域についての関心と課題意識を高め、様々な観点から意欲的に探究しようとしている。
--------	---

教 科	地理歴史	科 目	歴史総合(文)	学年・類型	2年文系	履修形態	全員履修	授業時数	4単位
-----	------	-----	---------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	詳述歴史総合(実教出版)
副教材等	詳述歴史総合 マイノート(実教出版) 世界史 重要語句Check List(啓隆社) 最新世界史図説タペストリー(帝国書院) 要点整理ゼミナール日本史(浜島書店) 新詳日本史(浜島書店)

学習目標	近代以降の日本と世界の歴史を相互に関連付けながら学習することで、現代につながる歴史についての知識を身に付け、総合的に歴史や社会について考えることのできる技能を培う。 過去から現在に至る歴史的経緯や日本および各国を形成してきた文化的背景を理解することで、現在の社会や未来の世界について深く考察できる歴史的思考力、現在や未来をよりよく生きるために役立つ判断力、それらを適切に自身の意見として文章や言葉にする表現力を養う。 語句の暗記に終始するのではなく、歴史的事象を題材に積極的な言語活動を促すことで、歴史に対する興味・関心を持たせ、主体的に学習に向かう態度を身に付けさせる。
授業の進め方、学習方法	文系クラスでは、日本史分野と世界史分野で授業を分けることで、詳細で高度な歴史学習を促す授業を展開する。授業内容は、教科書に則って歴史的事象や歴史の流れを講義することを中心に進めていく。また適宜、日本史・世界史それぞれ専門性の高い資料集を用いて、地図や文書資料や 絵画・写真などを確認し、より歴史に対する造詣を深められるように読取作業や言語活動をおこなわせる。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成 第3章 アジアの変容と日本の近代化	1.1. 歴史総合を学習する意義を確認する。 1.1. 歴史総合を学習する方法を確認する。 1.2. イギリスの市民革命、アメリカの独立、フランス革命、産業革命という 4つの変革を軸にヨーロッパの近代化について学習する。【世】 1.2. 自由主義・民族主義の台頭、イタリア・ドイツの統一、ロシアによる 東方問題と近代化を通じて、国民国家と帝国主義の形成について学習する。【世】 1.3. 江戸幕府と世界のつながり、江戸時代の社会、アジアとヨーロッパの貿易について学習する。【日】 1.3. ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争、黒船来航と江戸幕府の滅亡について学習する。【日】 1.3. 明治維新による日本の近代化について学習する。【日】	①=知識・技能②=思考・判断・表現③主体的に学習に取り組む態度 ①市民社会と国民国家の形成、資本主義社会の経緯について資料を読み取り、理解している。 ②「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容、市民革命および産業革命の経緯などから諸改革の意義と現代社会との関わりについて考察し、みずからの言葉で表現している。 ③18世紀の世界交易、市民革命や産業革命が、現代に与えた影響と課題について追究しようとしている。
	第1編 近代化と私たち 第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成 第3章 アジアの変容と日本の近代化 第4章 帝国主義の時代	1.2. 自由主義・民族主義の台頭、イタリア・ドイツの統一、ロシアによる 東方問題と近代化を通じて、国民国家と帝国主義の形成について学習する。【世】 1.4. 日清戦争、日露戦争について学習する。【日】 1.4. 日露戦争の影響(韓国併合、民族運動の激化、清朝の滅亡)について学習する。【日】	①江戸時代の社会、アジアと欧米諸国との貿易とその影響の経緯について資料を読み取り、理解している。 ②国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化、アジアにおける「西洋の衝撃」の歴史的意義について考察し、みずからの言葉で表現している。 ③国民国家や帝国主義政策、欧米諸国による進出による明治維新も含めたアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
2学期	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	2.5. 第一次世界大戦、ロシア革命について学習する。【世】 2.5. ヴェルサイユ体制、東アジア・トルコと中東・インドの民族運動、ヨーロッパの復興と大衆社会の出現について学習する。【世】 2.5. 日本における大衆社会(大正デモクラシー)について学習する。【日】	①国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序について、資料を読み取り、理解している。 ②第一次世界大戦の情勢と新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、みずからの言葉で表現している。日清戦争・日露戦争に伴う日本とアジアと欧米諸国の関係の変化と、辛亥革命など各国の変化の要因を考察し、表現している。 ③国際秩序と大衆社会の到来、現代社会について追究しようとしている。
	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第6章 経済危機と第二次世界大戦	2.6. 世界恐慌、ファシズムの台頭について学習する。【世】 2.6. 満州事変、日中戦争について学習する。【日】 2.6. 第二次世界大戦について学習する。【世】・【日】 2.6. 戦後の国際秩序、東西冷戦、戦後のアジア諸国の動向について学習する。【世】 2.6. 戦後日本の民主化と独立について学習する。【日】	①世界恐慌から第二次世界大戦の終戦、日本の戦後に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解している。 ②なぜファシズム体制が形成され、大衆がなぜ戦争に協力していったのか、また戦後はどのような動向になったのかを考察し、みずからの言葉で表現している。 ③世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力、戦後の復興や国際連合の結成が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
3学期	第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する世界 第9章 グローバル化と現代世界	3.7. 米ソ対立(冷戦)の緊張と緩和について学習する。【世】 3.7. 冷戦下の日本(55年体制、安保闘争、高度経済成長)について学習する。【日】 3.7. 冷戦下での第三勢力(アジア・アフリカ諸国)の形成と脱植民地化、パレスチナ問題(中東戦争)について学習する。【世】 3.7. ベトナム戦争、アメリカの公民権運動について学習する。【世】 3.7. 1970・80年代の日本の経済・外交について学習する。【日】 3.8. アジア・南米の情勢、イスラーム革命、冷戦の終結とソ連の崩壊について学習する【世】 3.8. 冷戦後の世界と超大国アメリカと中東情勢について学習する。【世】 3.8. 国際環境の変化と日本について学習する。【日】 3.9. グローバル化による国際社会の変容について学習する。【世】・【日】	①冷戦下の緊張と緩和の経緯、日本の高度経済成長と外交、脱植民地化を目指す動き、冷戦後の世界について、資料を読み取り、理解している。 ②冷戦下の緊張と緩和の経緯、日本の高度経済成長と外交、脱植民地化を目指す動き、冷戦後の世界について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、みずからの言葉で表現している。 ③冷戦下の緊張と緩和の経緯、日本の高度経済成長と外交、脱植民地化を目指す動き、冷戦後の世界について、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。

成績評価方法	定期考査の点数、課題の提出状況・提出内容、出席状況、授業態度・授業内での活動、を総合的に勘案して、観点別に評価を行う。 観点別評価の内容は、①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の三項目に分け、各学習内容にあわせたそれぞれの評価規準を設ける。
--------	--

教 科	地理歴史	科 目	歴史総合(理)	学年・類型	2年理系	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	------	-----	---------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	詳述歴史総合(実教出版)
副教材等	詳述歴史総合 マイノート(実教出版) 要点整理ゼミナール歴史総合(浜島書店) 最新世界史図説タペストリー(帝国書院) 新詳日本史(浜島書店)

学習目標	近代以降の日本と世界の歴史を相互に関連付けながら学習することで、現代につながる歴史についての知識を身に付け、総合的に歴史や社会について考えることのできる技能を培う。 過去から現在に至る歴史的経緯や日本および各国を形成してきた文化的背景を理解することで、現在の社会や未来の世界について深く考察できる歴史的思考力、現在や未来をよりよく生きるために役立つ判断力、それらを適切に自身の意見として文章や言葉にする表現力を養う。 語句の暗記に終始するのではなく、歴史的現象を題材に積極的な言語活動を促すことで、歴史に対する興味・関心を持たせ、主体的に学習に向かう態度を身に付けさせる。
授業の進め方、 学習方法	理系クラスは、日本史と世界史の分野を総合的・横断的に学習できるように授業を展開する。授業内容は、教科書に則り、歴史的現象や歴史の流れを講義することを中心に進めていく。 また適宜、資料集を用いて、地図や文書資料や絵画・写真などを確認し、近現代の歴史を総合的に学習できるように読取作業や言語活動をおこなわせる。授業内容に応じて、学習内容を復習したり学習内容を応用するためにワークノートを活用させて、課題や演習をおこなう。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成	1.1. 歴史総合を学習する意義を確認する。 1.1. 歴史総合を学習する方法を確認する。 1.2. イギリスの市民革命、アメリカの独立、フランス革命、産業革命という4つの変革を軸にヨーロッパの近代化について学習する。【世】 1.2. 自由主義・民族主義の台頭、イタリア・ドイツの統一、ロシアによる東方問題と近代化を通じて、国民国家と帝国主義の形成について学習する。【世】	①=知識・技能②=思考・判断・表現③主体的に学習に取り組む態度 ①市民社会と国民国家の形成、資本主義社会の経緯について資料を読み取り、理解している。 ②「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容、市民革命および産業革命の経緯などから諸改革の意義と現代社会との関わりについて考察し、みずからの言葉で表現している。 ③18世紀の世界交易、市民革命や産業革命が、現代に与えた影響と課題について追究しようとしている。
	第1編 近代化と私たち 第3章 アジアの変容と日本の近代化 第4章 帝国主義の時代	1.3. 江戸幕府と世界のつながり、江戸時代の社会、アジアとヨーロッパの貿易について学習する。【日】 1.3. ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争、黒船来航と江戸幕府の滅亡について学習する。【日】 1.3. 明治維新による日本の近代化について学習する。【日】 1.4. 日清戦争、日露戦争について学習する。【日】 1.4. 日露戦争の影響(韓国併合、民族運動の激化、清朝の滅亡)について学習する。【日】	①江戸時代の社会、アジアと欧米諸国との貿易とその影響の経緯について資料を読み取り、理解している。 ②国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化、アジアにおける「西洋の衝撃」の歴史的意義について考察し、みずからの言葉で表現している。 ③国民国家や帝国主義政策、欧米諸国による進出による明治維新も含めたアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
2学期	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	2.5. 第一次世界大戦、ロシア革命について学習する。【世】 2.5. ヴェルサイユ体制、東アジア・トルコと中東・インドの民族運動、ヨーロッパの復興と大衆社会の出現について学習する。【世】 2.5. 日本における大衆社会(大正デモクラシー)について学習する。【日】	①国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序について、資料を読み取り、理解している。 ②第一次世界大戦の情勢と新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、みずからの言葉で表現している。日清戦争・日露戦争に伴う日本とアジアと欧米諸国の関係の変化と、辛亥革命など各国の変化の要因を考察し、表現している。 ③国際秩序と大衆社会の到来、現代社会について追究しようとしている。
	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第6章 経済危機と第二次世界大戦	2.6. 世界恐慌、ファシズムの台頭について学習する。【世】 2.6. 満州事変、日中戦争について学習する。【日】 2.6. 第二次世界大戦について学習する。【世】・【日】 2.6. 戦後の国際秩序、東西冷戦、戦後のアジア諸国の動向について学習する。【世】 2.6. 戦後日本の民主化と独立について学習する。【日】	①世界恐慌から第二次世界大戦の終戦、日本の戦後に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解している。 ②なぜファシズム体制が形成され、大衆がなぜ戦争に協力していったのか、また戦後はどのような動向になったのかを考察し、みずからの言葉で表現している。 ③世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力、戦後の復興や国際連合の結成が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
3学期	第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する世界 第9章 グローバル化と現代世界	3.7. ミソ対立(冷戦)の緊張と緩和について学習する。【世】 3.7. 冷戦下の日本(55年体制、安保闘争、高度経済成長)について学習する。【日】 3.7. 冷戦下での第三勢力(アジア・アフリカ諸国)の形成と脱植民地化、パレスチナ問題(中東戦争)について学習する。【世】 3.7. ベトナム戦争、アメリカの公民権運動について学習する。【世】 3.7. 1970・80年代の日本の経済・外交について学習する。【日】 3.8. アジア・南米の情勢、イスラム革命、冷戦の終結とソ連の崩壊について学習する【世】 3.8. 冷戦後の世界と超大国アメリカと中東情勢について学習する。【世】 3.8. 国際環境の変化と日本について学習する。【日】 3.9. グローバル化による国際社会の変容について学習する。【世】・【日】	①冷戦下の緊張と緩和の経緯、日本の高度経済成長と外交、脱植民地化を目指す動き、冷戦後の世界について、資料を読み取り、理解している。 ②冷戦下の緊張と緩和の経緯、日本の高度経済成長と外交、脱植民地化を目指す動き、冷戦後の世界について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、みずからの言葉で表現している。 ③冷戦下の緊張と緩和の経緯、日本の高度経済成長と外交、脱植民地化を目指す動き、冷戦後の世界について、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。

成績評価方法	定期考査の点数、課題の提出状況・提出内容、出席状況、授業態度・授業内での活動、を総合的に勘案して、観点別に評価を行う。 観点別評価の内容は、①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の三項目に分け、各学習内容にあわせてそれぞれの評価規準を設ける。
--------	--

教 科	地理歴史	科 目	世界史探究	学年・類型	3年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	4単位
使用教科書	詳説世界史探究(山川出版社)								
副教材等	ニューステージ世界史詳覧(浜島書店)、世界史用語集(山川出版社)、世界史重要語句Checklist2024(啓隆社)、新世界史研究ノート応用編(啓隆社)								
学習目標	世界の歴史への興味・関心を高め、主体的に探究していく態度を身につける。 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、地理的条件や日本の歴史とも関連付けながら理解する。 文化の多様性と現代世界の特徴を多角的かつ広い視野から考察し、歴史的思考力を培う。 世界史についての資料を適切に選択し、資料に基づいて考察した結果を適切に表現する力を身につける。 現代社会が直面する諸課題について、歴史的観点から考察し、主体的な追求を通して認識を深める。								
授業の進め方、 学習方法	重要語句を暗記する学習に終始するのではなく、世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解したうえでそれぞれの事象の位置づけを行うことができるような学習が望ましい。そのために、まずはしっかりと教科書の通読を行い、近代史の大きな流れを理解してください。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	第1章文明の成立と古代文明の特質 第2章中央ユーラシアと東アジア世界 第3章南アジア世界と東南アジア世界の展開 第4章西アジアと地中海周辺の国家形成 第5章イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 第6章イスラーム教の伝播と西アジアの動向	・世界各地の古代文明について、地理的特質を把握し、文明の形成とそれぞれの文明の特徴、国家形成の過程などについて理解する。 ・中国は五代十国時代まで、インドはヴァルダナ朝の滅亡とラージプット時代まで、ヨーロッパはギリシア・ローマから中世封建社会の成立まで、西アジアはイスラームの拡大と分裂までを体系的に学び、歴史の流れを理解する。 ・各地域・時代の東西交流や民族の移動を把握し、文化の広がりや現代への影響について考察する。	【知識・技能】 基本的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 教科書・図表等に掲載された資料を活用し、考察したことを自分の言葉で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 各事項の意義や影響について探究しようとしている。
	第7章ヨーロッパ世界の変容と展開 第8章東アジア世界の展開とモンゴル帝国 第9章大交易・大交流の時代 第10章アジア諸国の繁栄	・西ヨーロッパ世界の拡大と中世ヨーロッパ諸国の動きについて理解する。 ・中国では遊牧諸勢力が台頭し、征服王朝が成立、明清時代に繁栄を迎えた。 ・ヨーロッパでは大航海時代の到来によって世界の一体化の始まり、オスマン帝国、サファヴィー朝が繁栄するなど、特にアジア諸地域の繁栄が目覚ましいことを理解する。 ・同時代性に注目して主題を設定し、世界史を空間的なつながりに着目して整理・表現する技能を身につける。	【知識・技能】 基本的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 教科書・図表等に掲載された資料を活用し、考察したことを自分の言葉で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 各事項の意義や影響について探究しようとしている。
2 学期	第11章近世ヨーロッパ世界の動向 第12章産業革命と環大西洋革命 第13章イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第14章アジア諸地域の動揺 第15章帝国主義とアジアの民族運動 第16章第1次世界大戦と世界の変容	・ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、近代国家の原型となる主権国家体制など、体制の形成に向かうヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。 ・市民革命や産業革命が起こり、資本主義体制が確立され、近代民主政治が誕生・成長していく過程を理解する。 ・ヨーロッパの拡大によるアジア・アフリカ諸地域の植民地化について理解する。 ・帝国主義列強による世界分割から支配を受けた地域の民族運動が高揚したことを理解し、列強を中心として第1次世界大戦となり、その中でドイツ・オーストリア・ロシアの王朝が崩壊したことを理解する。	【知識・技能】 基本的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 教科書・図表等に掲載された資料を活用し、考察したことを自分の言葉で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 各事項の意義や影響について探究しようとしている。
	第17章第2次世界大戦と新しい国際秩序の形成 第18章冷戦と第3世界の台頭 第19章冷戦の終結と今日の世界	・世界恐慌への対策や列強の対立から第2次世界大戦に繋がる過程と戦争規模の拡大、米ソの国際的地位の高まりを理解する。 ・冷戦構造の中で米ソ両大国の動揺と国際的な影響力の減退、第3世界の台頭について理解する。 ・ソ連の解体や90年代の情報技術革命	【知識・技能】 基本的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 教科書・図表等に掲載された資料を活用し、考察したことを自分の言葉で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 各事項の意義や影響について探究しようとしている。
3 学期	まとめ	先史時代から現代までのまとめを行う。	【知識・技能】 基本的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 教科書・図表等に掲載された資料を活用し、考察したことを自分の言葉で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 各事項の意義や影響について探究しようとしている。

成績評価方法	【知識・技能】 定期考査の点数(知識・技能配点分) 【思考・判断・表現】 定期考査の点数(思考・判断・表現配点分)、課題の提出内容、授業内での活動内容 【主体的に学習に取り組む態度】 課題の提出状況・内容、出席状況、授業態度・授業内での活動内容
--------	---

教 科	地理歴史	科 目	日本史探究	学年・類型	3年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	4単位
使用教科書	詳説日本史探究								
副教材等	「新編資料日本史」とうほう「図説日本史通覧」帝国書院								
学習目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。								
授業の進め方、学習方法	日本の歴史の展開、文化と伝統の特色について重点的に取り扱い、歴史的思考力を培って国際社会に主体的に生きること課題意識を持って、追究していく。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	第 1 章 日本文化のあけぼの	日本の旧石器時代から縄文時代の生活や文化を遺跡、遺物などを通して理解する。 弥生文化の形成と、身分の分化や階級の成立にみられる社会の変化について理解する。また、ヤマト政権が西日本を中心とした各地の首長の連合体として形成され、統一国家に向かっていったことと、その政権の特質について理解する。	旧石器時代と縄文時代の人々の生活や社会、文化についての基本的な事柄を自然条件の変化や大陸とのかわりや関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 弥生時代から古墳時代の社会の変化や人々の生活、国家の形成過程についての基本的な事柄を東アジア世界の状況と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
	第 2 章 律令国家の形成	大和朝廷の国内統一と飛鳥に朝廷があった時代、律令体制の成立から奈良時代に至る政治の動向、および律令に基づく土地と人々に対する統治の体制が整備されてきたことを理解する。	大和朝廷による統一から奈良時代までの社会の変化や人々の生活、文化についての基本的な事柄を、国家形成と律令体制の確立過程、東アジア世界との交流などと関連付けて理解し、その知識を身につけている。
	第 3 章 貴族政治と国風文化	東アジア世界との関係の変化、地方における支配体制の動揺、公領の変質や荘園の拡大と武士の台頭などに着目させ、律令体制の変質に伴って摂関政治や院政が展開したことをする。	平安時代の社会の変化や人々の生活、文化についての基本的な事柄を、東アジア世界との関係の変化、地方における支配体制の動揺などと関連付けて理解し、その知識を身につけている。
2学期	第 4 章 中世社会の成立	荘園支配の動向と地方社会のあり方と武士の台頭を関連づけて理解する。また、文化の面で武士や庶民の生活が反映されたことに着目させ、古代社会の変化の中に中世社会の萌芽が見られたことを理解する。	院政と平氏政権から鎌倉幕府の成立・進展・衰退、鎌倉武士と農村、鎌倉文化についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。 建武の新政、室町幕府の成立と南北朝の動乱から戦国時代までの社会の変化や人々の生活、文化についての基本的な事柄を、日本の諸地域の動向、東アジア世界との交流、庶民の台頭と関連付けて理解し、その知識を身につけている。
	第 5 章 武家社会の成長	武士社会の成立とその成長を鎌倉時代から室町時代にかけてその限界とともに理解する。また、日本の諸地域の動向に着目し、交通の発達などによって流通経済が進展したことを理解する。その際、アイヌとの交易や琉球の中継貿易、日民貿易が日本の貨幣流通に大きな影響を与えたことなど東アジア世界との交流にも留意する。	
	第 6 章 幕藩体制の確立	織豊政権と桃山文化とその歴史的な意味を理解する。	織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化についての基本的な事柄をヨーロッパ諸勢力との接触と鎖国による対外関係と関連付けて理解している。
	第 7 章 幕藩体制の展開	徳川家康から家光に至る治世に確立した幕藩体制と対外関係を構造的にとらえさせるとともに、大名等の統制のあり方や鎖国の実態について考える。	文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質についての基本的な事柄を欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて理解している。
	第 8 章 幕藩体制の動揺	文治政治的な傾向を強めた幕府政治が展開されるに至った背景をとらえさせるとともに、商品経済の発展が封建制に及ぼした影響を考え、幕政改革の諸相を理解する。また、庶民文化としての江戸期の文化のあり方を理解する。	幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解している。
3学期	1 年間の復習	既習事項の定着を目的として、入試問題など演習を行う。	通史、文化史、分野史についての基本的・標準的な知識を身につけている。

成績評価方法	「考査」を中心に、提出課題、学習への取り組み方などを考慮して総合的に評価する。
--------	---

教 科	地理歴史	科 目	日本史探究	学年・類型	3年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	4単位
-----	------	-----	-------	-------	-------	------	------	------	-----

使用教科書	詳説日本史探究
副教材等	「新編史料日本史」とうほう「図説日本史通覧」帝国書院「日本史重要語句Check List」啓隆社

学習目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
授業の進め方、 学習方法	日本の歴史の展開、文化と伝統の特色について重点的に取り扱い、歴史的思考力を培って国際社会に主体的に生きることに課題意識を持って、追究していく。

学 習 計 画				
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準	
1学期	第 1 章 日本文化のあけぼの	日本の旧石器時代から縄文時代の生活や文化を遺跡、遺物などを通して理解する。 弥生文化の形成と、身分の分化や階級の成立にみられる社会の変化について理解する。また、ヤマト政権が西日本を中心とした各地の首長の連合体として形成され、統一国家に向かっていったことと、その政権の特質について理解する。	旧石器時代と縄文時代の人々の生活や社会、文化についての基本的な事柄を自然条件の変化や大陸とのかわわりと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 弥生時代から古墳時代の社会の変化や人々の生活、国家の形成過程についての基本的な事柄を東アジア世界の状況と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	
	第 2 ・ 3 章 古墳と大和政権 律令国家の形成 第 4 ・ 5 章 貴族政治の展開 院政と武士の躍進	大和朝廷の国内統一と飛鳥に朝廷があった時代、律令体制の成立から奈良時代に至る政治の動向、および律令に基づく土地と人々に対する統治の体制が整備されてきたことを理解する。 東アジア世界との関係の変化、地方における支配体制の動揺、公領の変質や荘園の拡大と武士の台頭などに着目させ、律令体制の変質に伴って摂関政治や院政が展開したことをする。	大和朝廷による統一から奈良時代までの社会の変化や人々の生活、文化についての基本的な事柄を、国家形成と律令体制の確立過程、東アジア世界との交流などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 平安時代の社会の変化や人々の生活、文化についての基本的な事柄を、東アジア世界との関係の変化、地方における支配体制の動揺などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	
2学期	第 6 ・ 7 章 武家政権の成立 武家社会の成長 第 8 ・ 9 章 近世の幕開け 幕藩体制の成立と展開	荘園支配の動向と地方社会のあり方や武士の台頭を関連づけて理解する。また、文化の面で武士や庶民の生活が反映されたことに着目させ、古代社会の変化の中に中世社会の萌芽が見られたことを理解する。 武士社会の成立とその成長を鎌倉時代から室町時代にかけてその限界とともに理解する。また、日本の諸地域の動向に着目し、交通の発達などによって流通経済が進展したことを理解する。その際、アイヌとの交易や琉球の中継貿易、日民貿易が日本の貨幣流通に大きな影響を与えたことなど東アジア世界との交流にも留意する。	院政と平氏政権から鎌倉幕府の成立・進展・衰退、鎌倉武士と農村、鎌倉文化についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 建武の新政、室町幕府の成立と南北朝の動乱から戦国時代までの社会の変化や人々の生活、文化についての基本的な事柄を、日本の諸地域の動向、東アジア世界との交流、庶民の台頭と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	
	第10・11章 幕藩体制の動揺 近世から近代へ 第12・13章 近代国家の成立 近代国家の展開	織豊政権と桃山文化とその歴史的な意味を理解する。 徳川家康から家光に至る治世に確立した幕藩体制と対外関係を構造的にとらえさせるとともに、大名等の統制のあり方や鎖国の実態について考える。 文治政治的な傾向を強めた幕府政治が展開されるに至った背景をとらえさせるとともに、商品経済の発展が封建制に及ぼした影響を考え、幕政改革の諸相を理解する。また、庶民文化としての江戸期の文化のあり方を理解する。	織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化についての基本的な事柄をヨーロッパ諸勢力との接触と鎖国による対外関係と関連付けて理解している。 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質についての基本的な事柄を欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて理解している。 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解している。	
	第14～18章以降	授業の進度により前倒しで進めていく		
	3学期	1 年間の復習	既習事項の定着を目的として、入試問題など演習を行う。	通史、文化史、分野史についての基本的・標準的な知識を身に付けている。

成績評価方法	「考査」を中心に、提出課題、学習への取り組み方などを考慮して総合的に評価する。
--------	---

教 科	地理歴史	科 目	地理探究	学年・類型	3年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	4単位
使用教科書	新詳地理探究(帝国書院)、新詳高等地図(帝国書院)								
副教材等	新編 地理資料2024年(とうほう)、地理の整理と演習2024年(とうほう)、統計要覧 2024(二宮書店)								
学習目標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる人としての自覚と資質を養う。								
授業の進め方、 学習方法	教科書、副教材を使用しながら、系統的に地理的な学習を進めていく。学習は教室における講義形式を主とするが、適宜グループワークも行う。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	エネルギー資源の種類と利用 資源・エネルギーをめぐる課題 日本の資源・エネルギー問題 工業の発達と種類 工業の立地 世界の工業地域 日本の工業	エネルギー・原料資源の生産・分布の偏在性を把握し、生産国と消費国それぞれの産業構造の特色の傾向と、エネルギー・原料資源の国際的流通の関係を理解する。 工業地域の形成に共通する立地条件を把握し、条件の変化による立地移動を考察するとともに、世界の工業生産分布の地域性を理解する。	【知識・技能】世界の資源・産業について系統地理的に理解している。さらに、その知識を事例として取り上げた地域に適用し、地誌的にも理解を深めている。また、地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】世界の資源・産業について、多面的・多角的に捉え、現在の国際関係や将来の世界像についても考察し、その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】世界の資源・産業について関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。
	世界を結ぶ交通・通信 世界の貿易 人口、村落・都市 生活文化、民族・宗教、国家 現代世界の国家と国家群	世界を結ぶ交通や通信について、その発達や特徴について理解する。グローバリゼーションの進展と世界の貿易や商業・観光業について様々な資料を活用して理解する。村落・都市の機能と立地・形態について理解し、世界の村落や都市の形成・発達や分布に共通性と異質性があることを把握する。資料・統計を活用し、発展途上国と先進国の視点から人口・食料問題や都市問題の地域性と課題を理解し、課題解決に向けて考察する。 民族・領土問題の発生地域の共通性と異質性に着目し、その複雑な背景を考察し、問題解決に果たす国際的取り組みを把握する。国家群の現状と課題を理解し、それらがグローバリゼーションの進展に果たす役割について考察する。	【知識・技能】交通・通信・貿易、人口・村落・都市、民族・宗教・国家について、系統地理的に理解している。 【思考・判断・表現】学習内容について多面的・多角的に捉え、将来のより良い世界像について考察し、その成果を表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】課題解決に向けて世界的視野から各地域の環境条件と関連づけて追究する学習に意欲的に取り組み、国際協力のあり方を探究しようとしている。
2 学期	現代世界の地誌的考察 アジア アフリカ ヨーロッパ ロシア アングロアメリカ	今までに学習してきた系統地理の知識を再構築し、それらを各地域や国家での事例に適用し、地誌的な理解を深める。 また、系統地理では触れなかった各地域・国家の特色を把握し、より多面的・多角的に地誌を考察する。	【知識・技能】学習してきた系統地理の知識・技能を、取り上げる地域に適用し、地誌的に理解を深めている。 【思考・判断・表現】取り上げた地域について、多面的・多角的に捉え、他の地域との比較などを通じて考察を深める。また、その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】取り上げた地域についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。
	ラテンアメリカ オセアニア 両極地方	今までに学習してきた系統地理の知識を再構築し、それらを各地域や国家での事例に適用し、地誌的な理解を深める。 また、系統地理では触れなかった各地域・国家の特色を把握し、より多面的・多角的に地誌を考察する。	【知識・技能】学習してきた系統地理の知識・技能を、取り上げる地域に適用し、地誌的に理解を深めている。 【思考・判断・表現】取り上げた地域について、多面的・多角的に捉え、他の地域との比較などを通じて考察を深める。また、その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】取り上げた地域についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。
3 学期	系統地理および地誌についての総合的探究	系統地理と地誌の知識を統合し、様々な地理的事象について探究する。	【知識・技能】系統地理と地誌の知識・技能を統合し、様々な地理的事象について理解を深める。地図や図表から学習内容を読み取る技能を深める。 【思考・判断・表現】取り上げた地理的事象や地域について、多面的・多角的に捉え、さらに考察を深める。また、その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】取り上げた地理的事象や地域についての関心と課題意識を高め、様々な観点から意欲的に探究しようとしている。

成績評価方法	【知識・技能】 系統地理や地誌の知識・技能を統合し、様々な地理的事象や地域的特性について理解・考察する。また、地図や図表などの資料から、系統地理や地誌の学習内容を読み取る技能を身につける。 【思考・判断・表現】 様々な地理的事象や地域的特性について、多面的・多角的に捉え、考察を深める。地球規模の課題解決に向けての取り組みを把握し、その現状と未来について考察する。それらの成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 地理的事象や地域についての関心と課題意識を高め、様々な観点から意欲的に探究しようとしている。
--------	---

教 科	公 民	科 目	公 共	学年・類型	1 年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2 単位
使用教科書	新版 公共(数研出版)								
副教材等	入試対策問題集 ステップアップ公共(第一学習社)、政治・経済 最新公共資料集2025(第一学習社)								
学習目標	① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身につける。 ② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。								
授業の進め方、学習方法	教科書、資料集で得た知識を活用するワークショップ形式の授業を実施する。学習の成果をレポートにまとめ、発表する。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	公共的な空間をつくる私たち	青年期の意義と課題 生きることと考えること 世界の宗教	【知識・技能】 青年期の課題を知り、先哲たちの思想を理解することができる。 【思考・判断・表現】 先哲たちの思想から、今の自分とどういう点が異なるのかを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 青年期の課題を解決するために、今の自分にできることは何かを考え、行動にうつすことができる。
	公共的な空間における人間としてのあり方生き方	近代科学の考え方 人間の尊厳と幸福	
	公共的な空間における基本原理	民主政治の始まりと基本的人権の保障 権力分立と法の支配	【知識・技能】 民主政治の考え及び憲法の意義を理解できる。 【思考・判断・表現】 民主政治についての理解をもとに、人権が保障される意義を改めて考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 社会の一員として社会課題の解決に積極的に取組み、主権者としての役割を果たすことができる。
2 学期	現代の民主政治と政治参加の意義	日本国憲法と基本原理 平等兼・自由権 国会、内閣のしくみと役割	
	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	探究のプロセスを学び、プチ探究に取り組む	【知識・技能】 企業の働きや市場の仕組みを理解できる。 【思考・判断・表現】 市場がなぜそのように動くのかを考え、様々な状況での市場の問題点を表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループで考えた問いに対して積極的に取組み、課題を解決しようとする態度がみられる。
	現代の経済社会と経済活動のあり方	企業の働きと役割 市場経済のしくみ	
3 学期	現代の経済社会と経済活動のあり方	財政の役割 金融の役割 消費者問題 労働者の権利	【知識・技能】 財政や金融のしくみを理解できる。また、司法権を理解すると同時に、裁判に関する基本的知識を理解できる。 【思考・判断・表現】 様々な場面で、我々の人権が保障されていることを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 人権が侵害されないように裁判を行うために、これからの裁判のあり方を考えることができる。
	現代の民主政治と政治参加の意義	日本の裁判制度と人権保障 司法参加の意義	
	国際政治の動向	国際社会と国際法 国際連合の成立と組織 戦後の国際情勢	【知識・技能】 国際社会のルールとしくみを理解する。 【思考・判断・表現】 国際社会のルールとしくみについての知識を活用し、様々な国際問題について、解決の道筋を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な国際問題についての情報に積極的にアクセスし、自らその解決について考える。
	国際経済の動向と国際協力	国際経済のしくみ 戦後の国際経済・国際貿易体制 地域経済統合 日本企業とSDGs	

成績評価方法	【知識・技能】 定期テストの結果や課題の提出状況で評価を行う。 【思考・判断・表現】 レポート課題や授業内での発表によって評価を行う。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の観察やテスト・提出物に対する取組み状況によって評価を行う。
--------	---

教 科	公 民	科 目	倫 理	学年・類型	3年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
使用教科書	倫理(東京書籍)								
副教材等	最新図説倫理(浜島書店), 4ステージ演習ノート倫理(数研出版)								
学習目標	1. 自己の生きる課題とのかかわりにおいて、青年期の意義と課題を理解するとともに、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深める。 2. 現代に生きる人間の倫理的な課題について思索を深め、自己の生き方の確立をめざす。 3. よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深める。								
授業の進め方、 学習方法	1. 画像・映像・原典資料等を活用し、教科書の内容についての解説を行い、先哲の思想内容の理解を深めていく。 2. 生徒同士や先哲との対話や、現代課題の視座を踏まえた学習を通して、思想への理解を深めるとともに、自らの生き方について振り返る。 3. 問題演習を通して、学習内容の確認を行う。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	人間の心のありかた さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ	・青年期の特徴・発達課題や、心理学について著名な学者の研究成果を手掛かりに学習するとともに、青年期の生き方を心理学的な観点から学ぶ。 ・古代ギリシャ思想としての自然哲学、ソクラテス、プラトン、アリストテレスやヘレニズム時代の思想を特徴をつかみながら理解する。 ・「三大宗教(キリスト教・イスラーム・仏教)」について、それぞれの教えの特徴を把握し、宗教的な生き方に触れるとともに今日の世界情勢の理解にもつなげる。 ・中国の古代思想を、儒教を開いた孔子を中心に、彼との対比をとおして 他の中国思想(墨子～老荘思想)の特徴も理解する。	【知識・技能】 心理学の知見や概念を正確にしている。古代ギリシアの思想変遷や、三大宗教の成立過程、各思想家の考えを理解している。 【思考・判断・表現】 心理学の知見から自らの問題を説明することができる。各思想家について、その違いや共通点を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 青年期を自己の問題として関心をもち、その課題に取り組もうとしている。先哲の考えから自己を見つめようとしている。
	さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ	・中世ヨーロッパを打ち砕く動きとしてのルネサンス・宗教改革やモラリストの思想を、歴史的背景を踏まえて理解する。 ・近代科学の誕生につながる認識論について理解する。 ・近代市民の成立とともに、社会契約説や観念論が誕生したこと、それらの思想が現代社会や現代思想に与えた影響について理解し考える。 ・資本主義の発展を背景に、功利主義や社会主義思想思想が誕生したこととその内容を理解する。 ・近現代社会における人間そのものや人間性についての疑問から、実存主義思想や現代思想が誕生したことや、各思想家の主張や考えについて理解を深める。	【知識・技能】 歴史的な背景をもとに諸思想が発生したこと、そして諸思想が与えた社会的影響について理解している。各思想の考えについて正確に理解している。 【思考・判断・表現】 近代市民の誕生や社会問題が思想を形成したこととその意義について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 近世から現代にいたるまでの思想の変遷から、現代の諸課題を見つめ解決しようとする姿勢がある。
2学期	国際社会に生きる日本人としての自覚	・日本人の宗教観・倫理観について考察する。 ・日本に移入された仏教が時代とともに変容していく概要をつかむ。 ・日本に伝えられた儒教が、徳川幕藩体制成立のころから日本化されていく過程を理解する。 ・石門心学や報徳運動など町人文化の隆盛とともに起こった町人や農民の学問・運動を理解する。 ・幕末以降の近代日本に登場した著名な思想家・学者・社会運動家らの思想を学ぶ。 ・終戦後の我が国に登場し、社会的に大きな影響力をもった学者・思想家の思想について学ぶ。	【知識・技能】 日本が伝統的に尊重してきた価値観・倫理観について理解している。現代の日本は、古来からの思想とさまざまな外来思想が融合して成立していることを理解している。 【思考・判断・表現】 理解をひろげ、歴史的変遷や現代社会における日本の思想の在り様についての認識を深めるようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本の伝統的な思想に親しむとともに、学習内容から現代の日本を理解しようとしている。
	現代の諸課題と倫理	・生命・自然・科学技術・福祉・文化と宗教・平和の6つの観点から、現代の諸課題を理解するとともに、その課題をめぐる倫理的な意見対立について、これまで触れてきた思想をもとに考える。	【知識・技能】 各観点における現代の諸課題と、諸課題をめぐる倫理的な意見対立について理解している。 【思考・判断・表現】 これまで学習した思想をもとに、現代の諸課題と意見対立を整理・説明し、自分の意見を述べることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 現代社会に生きる一人の人間として、学習内容から諸課題を解決しようとする姿勢がある。
3学期		・これまでの学習を振り返るとともに、思想家の考えをふまえて、自分や現代の社会をもう一度見つけなおす。 ・問題演習を通して、1年間の学習内容を復習し、各人の理解度について確認する。	【知識・技能】 学習内容を振り返り、正確な理解にもとづいて設問に対して正しい解答を導くことができる。 【思考・判断・表現】 思想家の考えを根拠に考えたことを適切に判断したり表現したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 現代の倫理的諸課題を自己の課題につなげる意欲をもつとともに、現代に生きる人間としてのあり方生き方について、主体的に探究しようとしている。

成績評価方法	【知識・技能】 定期考査の点数 【思考・判断・表現】 定期考査の点数、課題の提出内容、授業内での活動内容 【主体的に学習に取り組む態度】 課題の提出状況・内容、出席状況、授業態度・授業内での活動状況
--------	---

教 科	公民	科 目	政治經濟	学年・類型	3年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	------	-------	-------	------	------	------	-----

使用教科書	政治・経済(東京書籍)
副教材等	政治・経済資料2024(とうほう)、ステップアップ政治・経済(第一学習社)

学習目標	1 民主主義の本質について理解を深めさせるとともに、理論的・体系的に理解させる。 2 現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させる。 3 現代の諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を育成していく。
授業の進め方、 学習方法	授業の進行は、講義形式を基本とする。適宜プリントを配布し、テーマにより調べ学習や発表形式を取り入れる。また、問題演習などを加えながら、理解を深めさせる。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	1節 民主政治の基本原則 1～4 2節 日本国憲法の基本原則 1～3 3節 日本の政治機構 1～4	- 立憲政体が形成された歴史的経緯を学び、憲法に規定された原則の意味を知る。 - 日本国憲法の成立の経緯、前憲法との相違について学ぶ。 - 憲法の三大原則である「基本的人権の保障」「国民主権」「平和主義」についての理解を深める。 - 三権相互の関係、そして国会・内閣・裁判所のしくみ、さらには立法権・行政権・司法権の機能について学ぶ。	①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ①憲法とは何かが、世界史的流れとともに理解できたか。 ①基本的人権の種類やそれぞれの人権の現実的な意味について知ることができたか。 ②わが国の議院内閣制のしくみが理解できたか。 ③立法権・行政権・司法権とは具体的にどのようなかを学ぶことができたか。
	4節 現代政治の特質と課題 1～3 5節 現代の国際政治 1～7	- 政党の意義・歴史について学ぶ。 - 現在のわが国の選挙制度とその問題点について学ぶ。 - 世論形成においてマスコミの果たす役割とその問題点について学習する。 - 国際社会成立の過程とその発展について歴史的な観点で学ぶ。 - 国際連合のしくみ・役割・問題点について学習する。 - 戦後国際社会の歴史的流れと現状・課題などについて認識を深める。	①政党・選挙制度・マスコミについて実社会と関連付けて理解できているか。 ①国際社会の意味や現状を、その歴史的流れを踏まえて知ることができたか。 ②国際連合の意義やしくみが学べたか。 ③世界の中で生じた紛争の原因やそれを抑止する仕組みや具体的行動について認識は深まったか。
2学期	1節 現代の資本主義経済 1～2 2節 現代経済のしくみ 1～6	- 資本主義経済・社会主義経済の成立と変遷、それぞれの経済体制の特徴と違いについて学ぶ。 - 資本主義経済の基本的な仕組みとして以下の項目について学習する。 『経済主体』『価格機構』『経済指標』『金融と金融政策』『財政と財政政策』	①経済とは、資本主義経済とは、社会主義とは…それらについて理解できているか。 ①資本主義経済の変遷と現在の状況について学ぶことはできたか。 ②資本主義経済の原則的メカニズムを知ることができたか。 ③金融・財政政策の目的と仕組みが理解できたか。
	3節 日本経済の発展と産業構造の変化 1～3 4節 福祉社会と日本経済の課題 1～6 5節 国民経済と国際経済 1～5	- 戦後日本社会の経済史を主な出来事をたどりつつ学ぶ。 - 戦後日本社会が抱えてきた経済上の問題点に関する以下の事柄について学習する。『公害と環境保全』『消費者問題』『農業・食糧問題』『中小企業の現状と課題』『雇用と労働問題』『社会保障と福祉』 - 自由貿易主義と保護貿易主義の違いと、それに関する現在の国際経済の状況について学ぶ。 - 貿易に関わる基本的な制度である『外国為替制度』のしくみについて学習する。 - 国際経済に関する組織や抱える問題点について学ぶ。 - 国際経済の今日的動きである『地域主義』『グローバル化』について理解を深める。	①戦後の日本経済がたどってきた歩みとそれを背景とした現在の状況を知ることができたか。・環境問題に関してこれまで生じてきた問題とそれに対する政府の対応、さらには現在の課題などについて理解できたか。 ②様々な消費者問題について、自分の問題として学ぶことができたか。・戦後わが国の農業政策の変遷や農業の現状と課題について、現実問題として理解できたか。・わが国社会の経済の二重構造とそれに関わる問題点について現状認識できたか。・雇用形態についての新たな動きや労働関係や条件に関する諸問題を知ることができたか。・現在のわが国の社会保障制度のしくみと問題点が理解できたか。・自由主義貿易のメリットが保護貿易主義との比較において理解できたか。・『円高・円安』について制度的・原理的な理解が達成できているか。・国際経済の中でわが国の位置づけ、さらに果たすべき役割が、世界の現状や構造を踏まえて理解できているか。・経済のグローバル化についての現状を知ることができたか。
	3学期	問題演習を通して、1年間の学習内容を復習し、各人の理解度を確認する。	①問題の設問に対して正確な解答を導くことができたか。

成績評価方法	定期考査の点数、課題の提出状況・提出内容、出席状況、授業態度・授業内での活動、を総合的に勘案して、観点別に評価を行う。 観点別評価の内容は、①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の三項目に分け、各学習内容にあわせたそれぞれの評価規準を設ける。
--------	--

教 科	数 学	科 目	数学A	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
使用教科書	数研出版「数学A」								
副教材等	傍用問題集(サクシード数学Ⅰ＋A)、参考書(基礎からのチャート式数学Ⅰ＋A)								
学習目標	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。								
授業の進め方、学習方法	1.公式や定理の成り立ちや成立過程を含めて必要性を実感するようにする。2.「予習→授業→復習」のサイクルの確立。3.計算力をつける演習をする。4.自分で考え、解く時間をとる。5.事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、自分の考えを数学的に表現し、わからないことについて議論する。6.事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。7.定期考査前の演習、長期休業を利用して発展的な課題にも挑戦し、より高い視点で物事を眺められるようにし、さらに自己内に新たな疑問の萌芽を養成する。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	第1章 場合の数と確率 1. 場合の数	具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せについて理解し、事象を数学的に考察し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	【知識・技能】 事象に応じて、和の法則、積の法則を使い分けて場合の数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 具体的な問題に対して、どのような場合に、円順列、重複順列の考え方が適用できるかを見極めて、それらの公式を使うことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 組合せの考え方を利用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。
	2. 確率	具体的な事象の考察などを通して、不確定な事象を数量的にとらえることことの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し、処理できるようにする。	【知識・技能】 確率の定義を理解し、確率の求め方がわかる。 【思考・判断・表現】 加法定理などを利用して、複雑な事象の確率や、複雑な独立試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求めることができる。 反復試行の意味を理解し、その確率の求め方がわかる。 【主体的に学習に取り組む態度】 条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。
2学期	第2章 図形の性質 1. 平面図形 2. 空間図形	三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 平面図形で培った図形のいろいろな概念や定理をさらに空間の図形に対しても応用できるようにする。さらに、体積などの求積も行う。	【知識・技能】 三角形の五心に関する性質を証明することができる。円の接線の性質を利用して、図形の性質を証明できる。 【思考・判断・表現】 平面図形に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な空間図形や多面体に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。
	第3章 数学と人間の活動 1. 約数倍数素数と因数分解 2. GCM/LCM整数の割り算	整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。	【知識・技能】 GCMとLCMに成り立つ性質を利用して、2数のGCM、LCMが既知のときに2数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 互いに素な整数の性質を利用して、簡単な命題を証明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自然数を素因数分解したときの素因数に着目して解く応用的な問題について、その考え方に興味をもち、取り組もうとする。
3学期	3. ユークリッド互除法 4. 1次不定方程式 5. 記数法	整数に関する数学史に興味をもち、主体的に学習し、数学のよさを認識する。	【知識・技能】 ユークリッドの互除法を用いて、最大公約数を求めることができる。また、それらを活用して1次不定方程式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 互除法の計算から最大公約数を表す式が導かれることを具体例から考察し、一般にも適用できることに気付く。 整数に関する問題を、1次不定方程式に帰着させることができ、問題を解くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 整数に関する数学史に興味をもち、主体的に学習し、数学のよさを認識し、意欲的に課題に取り組むことができる。

成績評価方法	【知識・技能】 平常時の授業内において問題演習やグループワークなどを通して、数学的な知識・技能が活用できるかどうかを評価する。 定期考査内にてこの観点の評価する問題を出題し、総合的に評価する。 【思考・判断・表現】 平常時の授業内において問題演習やグループワークを行ったり、発表や説明する機会を用いて、数学的な思考・判断・表現ができるかどうかを評価する。 定期考査内にてこの観点の評価する問題を出題し、総合的に評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 平常時の授業内において授業に取り組む姿勢や態度を評価する。 演習ノートやレポートの提出状況、課題テストや小テストの成績を用いて総合的に評価する。
--------	--

教 科	数学	科 目	数学Ⅱ	学年・類型	2年文系	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	-----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	数研出版「数学Ⅱ」
副教材等	数研出版「サクシード 数学Ⅱ+B+C」「チャート式新課程基礎からの数学Ⅱ+B+C〔ベクトル〕」

学習目標	1.指数関数・対数関数・三角関数及び微分・積分についての基礎的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけようとする。 2.数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
授業の進め方、 学習方法	1.公式や定理の成り立ちや成立過程を含めて必要性を実感するようにする。2.「予習→授業→復習」のサイクルの確立。 3.計算力をつける演習をする。4.自分で考え、解く時間をとる。5.事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、自分の考えを数学的に表現し、わからないことについて議論する。6.事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたことなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。7.定期考査前の演習、長期休業を利用して発展的な課題にも挑戦し、より高い視点で物事を眺められるようになり、さらに自己内新たな疑問の萌芽を養成する。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	第4章 三角関数 第1節 三角関数 4. 三角関数のグラフ 5. 三角関数の応用 第2節 加法定理 6. 加法定理	- 三角関数のグラフを書くことにより、三角関数の諸性質がより明確に把握することができる。 - 三角関数の最大の特徴である周期性を正しく理解する。 - 三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 - 三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。 - 三角関数の加法定理を確実に記憶し、利用することができる。	【知識・技能】 三角関数の値の変化やグラフの特徴および三角関数の相互関係や加法定理について理解する。 【思考・判断・表現】 ・三角関数の加法定理から新たな性質を導く。 ・三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・周期性を中心に三角関数の特徴について理解する。 ・実際にグラフを書いて考察する。
	7. 加法定理の応用 8. 三角関数の合成 第5章 指数関数・対数関数 第1節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数	- 加法定理から、正弦・余弦・正接の2倍角の公式、半角の公式を導き、三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 - 三角関数の合成の公式を利用することで、三角方程式・三角不等式を解くことができる。 - 有理数を指数に持つ累乗を定義し、指数法則で計算ができる。 - 累乗根の計算方法を理解する。 - 指数関数のグラフを用いて、指数方程式・指数不等式の解法を理解する。	【知識・技能】 ・三角関数の2倍角の公式、三角関数の合成について理解する。 ・指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて、数や式の計算ができる。 【思考・判断・表現】 指数関数の式とグラフの関係について多面的に考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 いろいろな変数 x の値に対する関数の値を求めることによってグラフの概形を書いて考察する。
2 学期	第2節 対数関数 1. 対数とその性質 2. 対数関数 3. 常用対数 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数	- 対数を定義し、その基本的な性質を学び、対数の値を求めることや簡単な式の計算ができるようにする。 - 常用対数について取扱いの練習をする。 - 対数関数を定義し、対数関数のグラフがかけらる。 - 関数の平均変化率の極限值として微分係数を定義し、その幾何学的な意味を学ぶ。 - 導関数の公式をつくり、整関数を微分する計算を身につける。	【知識・技能】 ・簡単な対数の計算で、対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 ・微分係数や導関数についての意味を理解し、関数の導関数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・指数と対数を相互に関連付けて考察する。 ・対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。 ・関数と導関数の関係について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・指数と対数の関係からそれぞれの性質や関数の理解を深め、事象の考察に活用することができる。 ・微分係数や微分の定義を理解することで、整関数の微分や接線の方程式の考察に活用できる知識を身につけている。
	第2節 導関数の応用 3. 接線 4. 関数の値の変化 5. 最大値・最小値 6. 関数のグラフと方程式・不等式	$f'(x)$の符号と関数値の増減の関係を調べ、極値について学びます。 - また、その過程ではグラフがしっかりかけらる。 - 変域の限られた関数の最大・最小を考察できる。 - 方程式の実数解の個数や不等式の証明が、微分法の応用として扱えるようにする。	【知識・技能】 導関数を用いて関数の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形を書く方法を理解する。 【思考・判断・表現】 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 極限を直感的にとらえることで曲線の接線の意味を明らかにし、接線の傾きの変化から曲線の増減や概形を意図的に調べようとする。
	第3節 積分法 7. 不定積分 8. 定積分 9. 面積	- 不定積分を定義し、導関数の公式を使って不定積分の公式を導き、整関数についての不定積分の計算ができる。 - 定積分と原始関数との関係を理解し、整関数についての定積分が求められる。 - 曲線で囲まれた平面図形の面積が、定積分によって求められることを理解し、実際に計算できる。	【知識・技能】 不定積分および定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求める。 【思考・判断・表現】 微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 微分の逆演算として定義される積分に関心を示し、直線や放物線で囲まれる図形の面積などに積極的に活用しようとし、直感的・視覚的に理解し、考察する。
3 学期			

成績評価方法	【知識・技能】 平常時の授業内において問題演習やグループワークなどを通して、数学的な知識・技能が活用できるかどうかを評価する。 定期考査内にてこの観点の評価する問題を出題し、総合的に評価する。 【思考・判断・表現】 平常時の授業内において問題演習やグループワークを行ったり、発表や説明する機会を用いて、数学的な思考・判断・表現ができるかどうかを評価する。 定期考査内にてこの観点の評価する問題を出題し、総合的に評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 平常時の授業内において授業に取り組む姿勢や態度を評価する。 演習ノートやレポートの提出状況、課題テストや小テストの成績を用いて総合的に評価する。
--------	--

教 科	数 学	科 目	数学B,C(文)	学年・類型	2年文系	履修形態	全員履修	授業時数	2単位,1単位
使用教科書	数研出版「数学B」「数学C」								
副教材等	数研出版「サクシード 数学Ⅱ+B+C」「チャート式 新課程 基礎からの数学Ⅱ+B+C(ベクトル)」								
学習目標	数列では、等差数列、等比数列などの数列について一般項や第n項までの和を求めたり、記号Σの意味を理解しそれを用いたりできるようにする。さらに、漸化式と数学的帰納法について理解する。統計的な推測では、確率変数とその分布について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。ベクトルでは平面上のベクトルおよび空間におけるベクトルの意味や演算、成分および内積などの概念を理解し、ベクトルを用いて図形の性質を考察する。								
授業の進め方、学習方法	1.公式や定理の成り立ちや成立過程を含めて必要性を実感するようにする。2.「予習→授業→復習」のサイクルの確立。3.計算力をつける演習をする。4.自分で考え、解く時間をとる。5.事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、自分の考えを数学的に表現し、わからないことについて議論する。6.事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。7.定期考査前の演習、長期休業を利用して発展的な課題にも挑戦し、より高い視点で物事を眺められるようにし、さらに自己内に新たな疑問の萌芽を養成する。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	数学B 第1章 数列 第1節 いろいろな数列の和	和を求める上で工夫が必要な数列について学ぶ。 第n項までの和を求める過程を理解し、その和を求めることができるようにする。 隣接する2項および3項または2つの数列の関係を把握し、工夫することで、漸化式を用いて表された数列の一般項を導くことができるようにする。	【知識・技能】 Σの意味を理解し、階差数列など色々な数列の表し方ができる。 【思考・判断・表現】 数列の規則性に着目し、一般項や和について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数列の規則性に関心を持ち、その良さを活用しようとしている。
	数学B 第1章 数列 第2節 数学的帰納法 数学C 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算	数学的帰納法の意味を理解し、それを用いて証明可能な命題を示す。 証明手順が決まっているので、書き方を理解させる。 ベクトルの内積の意味を理解し、平面図形の性質の考察に内積を活用することができるようにする。	【知識・技能】 数学的帰納法の原理を理解している。平面上のベクトルの演算と成分および内積の性質や公式について理解している。ベクトルを用いて図形の性質を考察することを理解している。 【思考・判断・表現】 座標による解析的な図形の性質についてベクトルを用いて見通しをもって論理的に考察できる。ベクトルを用いて図形の性質について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 実生活にある事象をベクトルを用いて数学的に処理する態度を養い、その有用性を認識している。
2学期	数学C 第1章 平面上のベクトル 第2節 ベクトルと平面図形	位置ベクトルを活用することによって、図形に関する事柄について形式的な処理ができることを理解し、平面図形の性質の考察に活用することができるようにする。	【知識・技能】 平面上のベクトルの演算と成分および内積の性質や公式について理解している。ベクトルを用いて図形の性質を考察することを理解している。 【思考・判断・表現】 座標による解析的な図形の性質についてベクトルを用いて見通しをもって論理的に考察できる。ベクトルを用いて図形の性質について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 実生活にある事象をベクトルを用いて数学的に処理する態度を養い、その有用性を認識している。
	数学C 第2章 空間のベクトル	空間座標の概念を導入し、その意味や表し方について理解し、 内積や成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して、空間ベクトルを理解する。	【知識・技能】 空間のベクトルの演算と成分および内積の性質や公式について理解している。ベクトルを用いて図形の性質を考察することを理解している。 【思考・判断・表現】 平面上のベクトルの性質がそのまま空間のベクトルでも成り立つことの有用性を認識できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 平面上のベクトルの性質をもとに空間のベクトルの性質を考えようとしている。
3学期	数学B 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測	確率変数とその分布、統計的な推測について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。 二項分布、正規分布について理解し、二項分布が正規分布で近似できることを知り、それらを事象の考察に活用する。 標本調査の考え方について理解し、標本を用いて母集団の傾向を推測できることを知る。	【知識・技能】 確率変数の平均(期待値)と分散・標準偏差の意味とその定義式を理解している。正規分布について基本的な知識を身に付けている。母平均の推定を理解し、信頼区間を計算できる。 【思考・判断・表現】 具体例を通して確率変数と確率分布について考察し、応用することができる。標本調査の意義を知り、その基礎となる母集団と標本について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 正規分布の性質や統計的な推測に関心を持ち、データ処理に関する問題に活用しようとしている。

成績評価方法	【知識・技能】 平常時の授業内において問題演習やグループワークなどを通して、数学的な知識・技能が活用できるかどうかを評価する。 定期考査内にてこの観点の評価する問題を出題し、総合的に評価する。 【思考・判断・表現】 平常時の授業内において問題演習やグループワークを行ったり、発表や説明する機会を用いて、数学的な思考・判断・表現ができるかどうかを評価する。 定期考査内にてこの観点の評価する問題を出題し、総合的に評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 平常時の授業内において授業に取り組む姿勢や態度を評価する。 演習ノートやレポートの提出状況、課題テストや小テストの成績を用いて総合的に評価する。
--------	--

教 科	数 学	科 目	数学B,C(理)	学年・類型	2年理系	履修形態	全員履修	授業時数	2単位,1単位
-----	-----	-----	----------	-------	------	------	------	------	---------

使用教科書	数研出版「数学B」「数学C」
副教材等	数研出版「サクシード 数学Ⅱ+B+C」「サクシード 数学Ⅲ+C」「チャート式 新課程 基礎からの数学Ⅱ+B+C(ベクトル)」「チャート式 新課程 基礎からの数学Ⅲ+C(複素数平面 式と曲線)」

学習目標	数列では、等差数列,等比数列などの数列について一般項や第n項までの和を求めたり,記号Σの意味を理解しそれを用いたりできるようにする。さらに,漸化式と数学的帰納法について理解する。統計的な推測では,確率変数とその分布について理解し,それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。ベクトルでは平面上のベクトルおよび空間におけるベクトルの意味や演算,成分および内積などの概念を理解し,ベクトルを用いて図形の性質を考察する。複素数平面では,複素数を複素数平面上の点として表示し,加法・減法,および絶対値のもつ幾何学的意味を明らかにし,その有用性を認識する。
授業の進め方,学習方法	1.公式や定理の成り立ちや成立過程を含めて必要性を実感するようにする。2.「予習→授業→復習」のサイクルの確立。3.計算力をつける演習をする。4.自分で考え、解く時間をとる。5.事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、自分の考えを数学的に表現し、わからないことについて議論する。6.事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。7.定期考査前の演習,長期休業を利用して発展的な課題にも挑戦し、より高い視点で物事を眺められるようにし、さらに自己内に新たな疑問の萌芽を養成する。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	数学B 第1章 数列 第1節 いろいろな数列の和 第2節 数学的帰納法	和を求める上で工夫が必要な数列について学ぶ。 第n項までの和を求める過程を理解し、その和を求めることができるようにする。 隣接する2項および3項または2つの数列の関係を把握し、工夫することで、漸化式を用いて表された数列の一般項を導くことができるようにする。 数学的帰納法の意味を理解し、それを用いて証明可能な命題を示す。 証明手順が決まっているので書き方を理解させる。	【知識・技能】 Σの意味を理解している。漸化式と数学的帰納法の意味を理解している。 【思考・判断・表現】 数列の規則性に着目し、一般項や和について考察することができる。数列の漸化式から一般項を推定し証明するなどの考察を通して、論理的な思考力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 数列の規則性に関心をもち,その良さを活用しようとしている。自然数に関する命題を証明する方法として数学的帰納法の有用性について考えようとしている。
	数学C 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形	ベクトルの内積の意味を理解し、平面図形の性質の考察に内積を活用することができるようにする。 位置ベクトルを活用することによって図形に関する事柄について、形式的な処理ができることを理解し、平面図形の性質の考察に活用することができるようにする。	【知識・技能】 平面上のベクトルの演算と成分および内積の性質や公式について理解している。ベクトルを用いて図形の性質を考察することを理解している。 【思考・判断・表現】 座標による解析的な図形の性質についてベクトルを用いて見通しをもって論理的に考察できる。ベクトルを用いて図形の性質について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 実生活にある事象をベクトルを用いて数学的に処理する態度を養い,その有用性を認識している。
2学期	数学C 第2章 空間のベクトル	空間座標の概念を導入し、その意味や表し方について理解し、内積や成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して、空間ベクトルを理解する。	【知識・技能】 空間のベクトルの演算と成分および内積の性質や公式について理解している。ベクトルを用いて図形の性質を考察することを理解している。 【思考・判断・表現】 平面上のベクトルの性質がそのまま空間のベクトルでも成り立つことの有用性を認識できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 平面上のベクトルの性質をもとに空間のベクトルの性質を考えようとしている。
	数学B 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測	確率変数とその分布,統計的な推測について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。 二項分布,正規分布について理解し,二項分布が正規分布で近似できることを知り,それらを事象の考察に活用する。 標本調査の考え方について理解し,標本を用いて母集団の傾向を推測できることを知る。	【知識・技能】 確率変数の平均(期待値)と分散・標準偏差の意味とその定義式を理解している。正規分布について基本的な知識を身に付けている。母平均の推定を理解し,信頼区間を計算できる。 【思考・判断・表現】 具体例を通して確率変数と確率分布について考察し,応用することができる。標本調査の意義を知り,その基礎となる母集団と標本について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 正規分布の性質や統計的な推測に関心をもち,データ処理に関する問題に活用しようとしている。
3学期	数学C 第3章 複素数平面	複素数平面と複素数の極形式,複素数の実数倍,和,差,積及び商の図形的な意味を理解し,それらを事象の考察に活用する。 ド・モアブルの定理について理解する。	【知識・技能】 複素数の極形式の基本的な性質を理解している。複素数平面を用いて図形の性質を調べることができる。 【思考・判断・表現】 複素数の諸演算と複素数平面上の点の移動との関係を考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 複素数平面や複素数の極形式に関心をもち,それらを複素数平面上の図形の性質の考察に活用しようとしている。

成績評価方法	【知識・技能】 平常時の授業内において問題演習やグループワークなどを通して、数学的な知識・技能が活用できるかどうかを評価する。 定期考査内にてこの観点の評価する問題を出題し、総合的に評価する。 【思考・判断・表現】 平常時の授業内において問題演習やグループワークを行ったり、発表や説明する機会を用いて、数学的な思考・判断・表現ができるかどうかを評価する。 定期考査内にてこの観点の評価する問題を出題し、総合的に評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 平常時の授業内において授業に取り組む姿勢や態度を評価する。 演習ノートやレポートの提出状況、課題テストや小テストの成績を用いて総合的に評価する。
--------	--

教 科	数 学	科 目	数学Ⅱ	学年・類型	3年文系	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
使用教科書	数学Ⅱ（数研出版）								
副教材等	新課程メジアン数学演習ⅠⅡABC（ベクトル）								
学習目標	学習した内容の一層の深化と定着を図る。								
授業の進め方、 学習方法	問題集を中心とした問題演習 生徒の解答を利用し、記述の解答作成の留意点などを共有する。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	XI ベクトルA問題	・ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し、いろいろな事象の考察に活用する。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。
	X 数列A問題	・簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを用いて事象を数学的に考察し処理する。	【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
	X 数列A問題		
	VIII 三角・指数・対数関数A問題	・三角関数、指数関数及び対数関数について理解し、関数についての理解を深めそれらを具体的な事象の考察に活用する。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。
2学期	III 式と証明・論理AB問題	・整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 等式や不等式の性質を用いて式の証明を行い、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。	【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
	III 式と証明・論理AB問題		
	II 関数と方程式・不等式AB問題	・一次不等式及び二次方程式についての理解を深め、それらを活用する。 ・二次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現 することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象 の考察や二次不等式を解くことなどに活用する。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。
	XI ベクトルB問題	B問題の演習でさらに思考力を養い、粘り強く問題に取り組む姿勢を養う。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
3学期	X 数列B問題	B問題の演習でさらに思考力を養い、粘り強く問題に取り組む姿勢を養う。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。
	IX 微分法積分法B問題		
	VII 図形と式B問題	・プリント等を利用した実践的な演習	【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。
	入試問題演習		【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
3学期	入試問題演習	・プリント等を利用した実践的な演習	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。
	入試問題演習		
	入試問題演習		【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。
	入試問題演習		【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。

成績評価方法	1. 定期考査の成績 * 定期考査においては、知識・技能・処理、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、数学的な考え方ををみるための問題を出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点および伸長の状況などを評価する。 (3) 指定された問題において、提出した解答の内容や質を評価する。 以上のすべてを対象に、総合的に判断する。
--------	--

教 科	数 学	科 目	数学Ⅲ	学年・類型	3年理系	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	-----	-----	-----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	新課程 数学Ⅲ(数研出版)
副教材等	サクシード数学Ⅲ、チャート式基礎からの数学Ⅲ・C、スタンダード数学演習ⅠⅡABC(ベクトル)

学習目標	平面上のいろいろな曲線についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすと共に、それらを積極的に活用する態度を育てる。 学習した内容の一層の深化と定着を図る。
授業の進め方, 学習方法	教科書をベースに講義形式で内容を伝え、問題集を利用した演習等によりその理解の定着と深化を図る。 問題集を中心とした問題演習 生徒の解答を利用し、記述の解答作成の留意点などを共有する。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	第2章 式と曲線 第1節 2次曲線 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 6. 2次曲線の性質	・2次曲線を、それぞれの条件の下での点の軌跡として定義し,その標準形を導く。 ・2次曲線の平行移動の考えを利用して,複雑な2次方程式で表される図形の性質を明らかにさせる。 ・2次曲線と直線との位置関係についても,円と直線との位置関係の発展として,簡単なものについて調べる。特に,接線については, その公式も導き出せるようにする。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
	XI ベクトルA問題 Ⅶ 図形と方程式A問題 X 数列A問題 Ⅳ 整数の性質A問題 Ⅴ 場合の数と確率A問題	・ベクトルについての概念を理解し, 図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し, いろいろな事象の考察に活用できるようにする。 ・座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに, その有用性を認識し, いろいろな図形の考察に活用できるようにする。 ・簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し, それらを用いて事象を数学的に考察し処理する。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
2学期	Ⅲ 式と証明・論理A問題 Ⅱ 関数と方程式・不等式A問題 Ⅵ 図形と性質A問題 Ⅷ 三角・指数・対数関数A問題	・関数について理解し, 関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに, それを具体的な事象の考察や不等式を解くことなどに活用できるようにする。 ・一次不等式及び二次方程式についての理解を深め, それらを活用できるようにする。 ・三角関数, 指数関数及び対数関数についての理解を深め, それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
	スタンダードB問題 入試問題演習	・関数について理解し, 関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに, それを具体的な事象の考察や不等式を解くことなどに活用できるようにする。 ・一次不等式及び二次方程式についての理解を深め, それらを活用できるようにする。 ・三角関数, 指数関数及び対数関数についての理解を深め, それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
3学期	入試問題演習	・プリント等を利用した実践的な演習	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。

成績評価方法	1. 定期考査の成績 ＊ 定期考査においては, 知識・技能・処理, 思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、数学的な考え方ををみるための問題を出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点および伸長の状況などを評価する。 (3) 指定された問題において、提出した解答の内容や質を評価する。 以上のすべてを対象に、総合的に判断する。
--------	---

教 科	数 学	科 目	数学C(文)	学年・類型	3年文系	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
使用教科書	数学C(数研出版)								
副教材等	新課程メジアン数学演習 I II AB〔ベクトル〕								
学習目標	学習した内容の一層の深化と定着を図る。								
授業の進め方、 学習方法	問題集を中心とした問題演習 生徒の解答を利用し、記述の解答作成の留意点などを共有する。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	I 数と式 A問題	・式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字に置き換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。
	IV 整数の性質 A問題	・様々な人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を数学を用いて考察できるよう力を培う。	【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
	IV 整数の性質 A問題	・様々な人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を数学を用いて考察できるよう力を培う。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。
	V 場合の数・確率 A問題	・場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
	IX 微分法・積分法 A問題		
2学期	IX 微分法・積分法 A問題	・微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに事象の考察に活用できるようにする。 ・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。
	VII 図形と式 AB問題	・座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ・B問題の演習でさらに思考力を養い、粘り強く問題に取り組む姿勢を養う。	【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
	VIII 三角・指数・対数関数 B問題	・B問題の演習でさらに思考力を養い、粘り強く問題に取り組む姿勢を養う。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。
	IV 整数の性質 B問題	・B問題の演習でさらに思考力を養い、粘り強く問題に取り組む姿勢を養う。	【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。
	V 場合の数・確率 B問題 入試問題演習	・B問題の演習でさらに思考力を養い、粘り強く問題に取り組む姿勢を養う。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
3学期	入試問題演習	・プリント等を利用した実践的な演習	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。

成績評価方法	1. 定期考査の成績 * 定期考査においては、知識・技能・処理、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、数学的な考え方ををみるための問題を出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点および伸長の状況などを評価する。 (3) 指定された問題において、提出した解答の内容や質を評価する。 以上のすべてを対象に、総合的に判断する。
--------	--

教 科	数 学	科 目	数学C(理)	学年・類型	3年理系	履修形態	全員履修	授業時数	1単位
-----	-----	-----	--------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	新課程 数学C(数研出版)
副教材等	サクシード数学C、チャート式基礎からの数学Ⅲ・C、スタンダード数学演習 I II ABC[ベクトル]

学習目標	平面上のいろいろな曲線についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすと共に、それらを積極的に活用する態度を育てる。 学習した内容の一層の深化と定着を図る。
授業の進め方, 学習方法	教科書をベースに講義形式で内容を伝え、問題集を利用した演習等によりその理解の定着と深化を図る。 問題集を中心とした問題演習 生徒の解答を利用し、記述の解答作成の留意点などを共有する。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	第2章 式と曲線 第1節 2次曲線 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 6. 2次曲線の性質	・2次曲線を、それぞれの条件の下での点の軌跡として定義し,その標準形を導く。 ・2次曲線の平行移動の考えを利用して,複雑な2次方程式で表される図形の性質を明らかにさせる。 ・2次曲線と直線との位置関係についても,円と直線との位置関係の発展として,簡単なものについて調べる。特に,接線については, その公式も導き出せるようにする。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
	XI ベクトルA問題 Ⅶ 図形と方程式A問題 X 数列A問題 Ⅳ 整数の性質A問題 Ⅴ 場合の数と確率A問題	・ベクトルについての概念を理解し, 図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し, いろいろな事象の考察に活用できるようにする。 ・座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに, その有用性を認識し, いろいろな図形の考察に活用できるようにする。 ・簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し, それらを用いて事象を数学的に考察し処理する。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
2学期	Ⅲ 式と証明・論理A問題 Ⅱ 関数と方程式・不等式A問題 Ⅵ 図形と性質A問題 Ⅷ 三角・指数・対数関数A問題	・関数について理解し, 関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに, それを具体的な事象の考察や不等式を解くことなどに活用できるようにする。 ・一次不等式及び二次方程式についての理解を深め, それらを活用できるようにする。 ・三角関数, 指数関数及び対数関数についての理解を深め, それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
	スタンダードB問題 入試問題演習	B問題の演習でさらに思考力を養い、粘り強く問題に取り組む姿勢を養う。 ・プリント等を利用した実践的な演習	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
3学期	入試問題演習	・プリント等を利用した実践的な演習	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。

成績評価方法	1. 定期考査の成績 ＊ 定期考査においては、知識・技能・処理、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、数学的な考え方ををみるための問題を出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点および伸長の状況などを評価する。 (3) 指定された問題において、提出した解答の内容や質を評価する。 以上のすべてを対象に、総合的に判断する。
--------	---

教 科	数 学	科 目	発展数学X	学年・類型	3年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	4単位
-----	-----	-----	-------	-------	-------	------	------	------	-----

使用教科書	数学Ⅲ（数研出版）
副教材等	サクシード数学Ⅲ、チャート式基礎からの数学Ⅲ、オリジナル・スタンダード 数学演習ⅢC

学習目標	微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
授業の進め方、 学習方法	教科書をベースに講義形式で内容を伝え、問題集を利用した演習等によりその理解の定着と深化を図る。 問題集を中心とした問題演習 生徒の解答を利用し、記述の解答作成の留意点などを共有する。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	第5章 積分法 第2節 定積分	いろいろな関数の定積分が求められるようにする。また、定積分と和の極限の関係を理解し、いろいろな問題に活用できるようにする。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
	第6章 積分法的应用		
		積分法の有用性を認識し、図形の面積や立体の体積を求めることなどに活用できるようにする。	
	第6章 積分法的应用 Ⅳ 極限 A問題	積分法の有用性を認識し、図形の面積や立体の体積を求めることなどに活用できるようにする。 数列・関数の極限について、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求められる方法を考察できるようにする。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
2学期	Ⅴ 微分法とその応用 Ⅵ 積分法 Ⅶ 積分法的应用 A問題	様々な関数について、接戦の方程式を求めたり、グラフの概形を描いたりできるようにするとともに、関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決する力を養う。 積分法の有用性を認識し、図形の面積や立体の体積を求めることなどに活用できるようにする。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
	オリジナル・スタンダード B問題	B問題の演習でさらに思考力を養い、粘り強く問題に取り組む姿勢を養う。	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。
3学期	入試問題演習	・プリント等を利用した実践的な演習	【知識・技能】 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 【思考・判断・表現】 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。

成績評価方法	1. 定期考査の成績 ＊ 定期考査においては、知識・技能・処理、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、数学的な考え方ををみるための問題を出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点および伸長の状況 などを評価する。 (3) 指定された問題において、提出した解答の内容や質を評価する。 以上のすべてを対象に、総合的に判断する。
--------	--

教 科	数学	科 目	発展数学Y	学年・類型	3年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	4単位
-----	----	-----	-------	-------	-------	------	------	------	-----

使用教科書	
副教材等	スタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C

学習目標	学習した内容の一層の深化と定着を図る。
授業の進め方、 学習方法	問題集を中心とした問題演習

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	数学Ⅱ	・複素数と2次方程式 ・図形と方程式 ・三角関数 ・指数・対数関数 ・微分法・積分法	【知識・技能】 公式の理解 【思考・判断・表現】 問題文からの立式からの論証 【主体的に学習に取り組む態度】 毎時間課される問題への取り組み
	数学Ⅰ	・式と計算 ・2次関数 ・図形と軽量 ・データの分析	【知識・技能】 公式の理解 【思考・判断・表現】 問題文からの立式からの論証 【主体的に学習に取り組む態度】 毎時間課される問題への取り組み
2学期	数学B	・ベクトル ・数列	【知識・技能】 公式の理解 【思考・判断・表現】 問題文からの立式からの論証 【主体的に学習に取り組む態度】 毎時間課される問題への取り組み
	数学A	・場合の数と確率 ・図形の性質 ・整数の性質	【知識・技能】 公式の理解 【思考・判断・表現】 問題文からの立式からの論証 【主体的に学習に取り組む態度】 毎時間課される問題への取り組み
3学期		入試問題等を活用した実践的な演習	【知識・技能】 公式の理解 【思考・判断・表現】 問題文からの立式からの論証 【主体的に学習に取り組む態度】 毎時間課される問題への取り組み

成績評価方法	【知識・技能】定期考査、小テスト 【思考・判断・表現】 定期考査 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中に課される問題への取り組み
--------	--

教 科	理科	科 目	物理基礎	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
使用教科書	物理基礎(数研出版)								
副教材等	新課程リードα 物理基礎(数研出版)								
学習目標	さまざまな物理現象を取り扱い、観察、実験などを通して物理的に考察する能力と態度を身につける。 物理現象を説明するためのことば(物理量)を覚え、物理量と物理量の間にある関係(物理法則)を理解し、それらを使って物理現象を説明していく。								
授業の進め方、 学習方法	物理現象を理解するための物理量や物理法則の説明が授業の中心となる。また、理解を深めるために適宜、問題演習や実験などを行う。 提出課題としては、指定問題集の考查範囲の問題を考查ごとに解答し、提出する。授業では受け身にならず、自ら物理現象を説明できるように積極的に手と頭を働かせて取り組んでいかなければならない。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	運動の表し方	指数の計算法、有効数字について学ぶ。 速度と速度の合成、相対速度について学ぶ。 等速直線運動について学ぶ。 x-tグラフ、v-tグラフについて学ぶ。 加速度について学ぶ。 等加速度直線運動の3公式について学ぶ。	【知識・技能】 ・物体の速度等が求められる。 ・等加速度直線運動の3公式を使用し、計算できる。 【思考・判断・表現】 ・x-t、v-tグラフから物体の運動が説明できる。 ・式を使用し、物体の運動について考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。
	落体の運動 力のつりあい	落体の運動が等加速度運動であることを学ぶ。 物体に働く力である、重力・垂直抗力・張力・弾性力の性質について学ぶ。 物理法則である、作用反作用の法則を学ぶ。 静止している物体にはたらく力のつり合いについて学ぶ。	【知識・技能】 ・落体の運動について単純な計算ができる。 ・物体に働く様々な力の作図ができる。 【思考・判断・表現】 ・落体の運動について複雑な計算ができる。 ・力のつり合いの式から力の大きさと向きを求める。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。
2学期	運動の法則 仕事と力学的エネルギー	さまざまな現象について、運動方程式の使い方を学ぶ。 さまざまな力のする仕事について学ぶ。 仕事の原理について学ぶ。 仕事率について学ぶ。 運動エネルギー、位置エネルギー、弾性エネルギーについて学ぶ。 力学的エネルギー保存の法則について学ぶ。	【知識・技能】 ・運動方程式を立てることができる。 ・仕事とエネルギーについての式を立てて計算できる。 【思考・判断・表現】 ・摩擦や複数の物体の運動方程式を計算できる。 ・仕事とエネルギーの関係を正確に考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。
	熱とエネルギー 波の性質	セルシウス温度と絶対温度について学ぶ。 熱量保存の法則と熱容量、比熱の関係を学ぶ。 熱力学第1法則について学ぶ。 波動現象の基本である等速円運動と単振動を学ぶ。 縦波と横波、正弦波の式、位相について学ぶ。	【知識・技能】 ・温度の意味を理解し、熱量の計算ができる。 ・波動の基本的な物理量を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・熱量保存や熱力学第1法則の式を扱える。 ・波動現象の意味を理解し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。
3学期	平面上を伝わる波 音の伝わり方と発音体の振動 物質と電気抵抗 交流と電磁波	波の重ね合わせの原理、干渉、定常波、波の反射について学ぶ。 波の反射・屈折の法則、波の回折現象について学ぶ。 音の速さ、反射、屈折、干渉について学ぶ。 弦の振動と気柱の振動について学ぶ。 摩擦電気と静電気力について学ぶ。 磁場中の電流にはたらく力について学ぶ。 電磁誘導現象について学ぶ。 交流について学ぶ。	【知識・技能】 ・波動の屈折や反射について理解することができる。 ・弦や気柱の振動について定常波の作図ができる。 ・基本的な電気現象について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・波動の重ね合わせについて現象を説明できる。 ・開口端補正などについて共鳴現象から計算できる。 ・電磁誘導等について正しく理解し説明ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。

成績評価方法	【知識・技能】 授業での取組や定期考查の基本的な出題などにおいて総合的に評価する。
	【思考・判断・表現】 授業での取組や定期考查の応用的な出題などにおいて総合的に評価する。
	【主体的に学習に取り組む態度】 授業での取組や授業中に行う特別課題、課題の提出状況などにおいて総合的に評価する。

教 科	理科	科 目	生物基礎	学年・類型	1 年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2 単位
使用教科書	高等学校 生物基礎(数研出版)								
副教材等	新課程二訂版 スクエア最新図説生物(第一学習社)、ニューグローバル 生物基礎(東京書籍)								
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら生物学の基礎となる基本的事象を、最近の知見を取り入れながら学習し、知識を身につける。 2 生物や生命現象への興味・関心・意欲を持って学習に取り組み、自然界の原理・原則を導き出す考え方を身につける。 3 目的意識をもって観察・実験に取り組み、科学的な自然観を養い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。 4 生物現象を学習することにより、自分自身や他者の命の営みを大切に、他の生物に対しても、生命を尊重する精神を養う。								
授業の進め方、 学習方法	1 自然現象への興味関心をもたせるとともに、なぜ、そのような現象がみられるのかを考えることに重きをもたせる。 2 基本的事項は教科書準拠のプリントを用い、生物図説やBYOD端末を利用した発展的内容を含めた授業とする。 3 実験により、既習内容の理解を深め、レポートにより、記述力・考察力を高める。 4 定期考査前や長期休業中に、問題演習を課し、既習内容の定着を図る。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と+B16共通性 第2節 エネルギーと代謝 第3節 呼吸と光合成 実験：顕微鏡観察の基本操作 実験：マイクロメーターによる測定	・地球上には多様な細胞からなる多様な生物が生息し、その生物たちにも共通性がみられることを理解する。 ・細胞の構造と働きを実験(顕微鏡の扱い方・マイクロメーターの扱い方・タマネギ細胞の観察)を通して学習し、原核生物・真核生物・単細胞生物・多細胞生物の特徴を理解する。 ・代謝には異化と同化があり、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解する。 ・光合成と呼吸の過程を酵素の働きにも触れて理解する。	【知識・技能】 高倍率での顕微鏡観察ができる。マイクロメーターを使い、測定ができる。 【思考・判断・表現】 図表を正しく読み取ることができる。実験レポートの考察内容で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む態度や実験や課題に対する取り組みで評価する。
	第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝現象とDNA 第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報の発現 実験：DNAの抽出 実験：体細胞分裂の観察	・メンデルによる遺伝子の存在の仮定から演習を通して遺伝子の働きについて考察する。 ・DNAの二重らせん構造を実験(DNAの抽出)や作業(DNAの模型の作成)を通して理解する。 ・細胞の分裂過程の各段階を実験(ニンニクの体細胞分裂)を通して観察し、それに伴う染色体の変化を学習し、理解する。 ・生体内のタンパク質は酵素などのさまざまな働きをしていることを実験(カタラーゼの働き)を通して理解する。 ・DNAの転写・翻訳の流れを理解し、遺伝子発現について実験(だ腺染色体の観察)を通して、理解する。	【知識・技能】 DNAの抽出操作の理解。体細胞分裂が観察できる。 【思考・判断・表現】 図表を正しく読み取ることができる。実験実験レポートの考察内容で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む態度や実験や課題に対する取り組みで評価する。
2 学期	第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節 第2節 体内環境の維持のしくみ 実験：血球の観察	・実験(血球の観察)を通し、体液の種類と恒常性について理解する。 ・ヘモグロビンによる酸素運搬を中心に、心臓の構造・血液循環の経路についても理解する。 ・神経系やホルモンの働きがどのように血糖量や体温の恒常性に関与しているかを理解する。 ・肝臓や腎臓の働きによって、体液の恒常性が保たれていることを理解する。	【知識・技能】 血球の違いや食作用を観察できる。 【思考・判断・表現】 図表を正しく読み取ることができる。実験実験レポートの考察内容で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む態度や実験や課題に対する取り組みで評価する。
	第3節 免疫のはたらき 第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 第2節 植生の分布とバイオーム	・免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を知り、自然免疫と獲得免疫のしくみを理解する。 ・予防接種や血清療法、アレルギーやエイズなど身近な免疫に関与する現象を理解する。 ・植物の生活形や植物と光の関係について、学習し考察する。 ・光の強さと光合成速度の関係を、グラフを通じて理解し、陽生植物・陰生植物の光合成速度の特徴を理解する。 ・乾性遷移のモデルについて、土壌の構造を理解し、土壌の形成や光環境の変化などとともに注目して理解する。	【知識・技能】 生物と環境のかかわりあいについて理解している。 【思考・判断・表現】 図表を正しく読み取ることができる。実験実験レポートの考察内容で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む態度や実験や課題に対する取り組みで評価する。
3 学期	第3節 生態系と生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全 実験：環境調査	・生物は、食物連鎖(食物網)によってつながっていることを理解する。 ・生態系内における炭素と窒素の循環を理解する。 ・生態ピラミッドや物質の生産と消費の関係を理解する。 ・生態系のバランスと変動について理解し、これに関与する現象や生物について理解する。 ・人間活動が生態系にさまざまな影響を与えていることを理解する。 ・『酸性雨』・『地球温暖化』・『富栄養化と生物濃縮』・『外来生物の移入と絶滅危惧種』などの生じるしくみを調べ、人間活動との関係や生態系に与える影響について理解する。	【知識・技能】 生態系の成り立ちと人間活動による影響について理解している。 【思考・判断・表現】 図表を正しく読み取ることができる。実験実験レポートの考察内容で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む態度や実験や課題に対する取り組みで評価する。

成績評価方法	【知識・技能】定期考査の基本的な出題や実験操作などで、総合的に判断する。 【思考・判断・表現】定期考査の応用的な出題・記述問題やレポートなどで、総合的に判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】出席状況や授業態度、実験や課題に対する取り組みなどで、総合的に判断する。
--------	---

教 科	理科	科 目	化学基礎	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	1単位
使用教科書	化学基礎（東京書籍）								
副教材等	フォトサイエンス化学図録(数研出版) ニューグローバル化学基礎＋化学(東京書籍)								
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質やその変化に注目し理解する。 2 科学的に探求するために必要となる観察や実験に関して基本的な知識や技能を身につける。 3 観察や実験を通して、科学的に探求しようとする力を養う。 4 化学の原理や法則を理解することで、科学的な考え方を養う。								
授業の進め方、学習方法	1 自作プリントを用いることにより発展的な内容も取り入れながら授業を行い、系統的に理解を深めていく。 2 小テストを取り入れることにより、知識の定着を図る。 3 集団での議論を取り入れるなど、授業への能動的な参加を促す。 4 定期考査毎に問題集のノート提出で課題に取り組ませ、定期考査後や長期休業中には復習に重点を置くことにより基礎力の定着を図る。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	1編 化学と人間生活	・身の回りの製品を構成する物質とその用途	【知識・技能】 純物質と混合物では性質が異なり、分離する方法があることや物質には三態が存在し、粒子の状態が異なることなどの理解で評価する。 【思考・判断・表現】 身の回りの化学物質がどのような目的で利用されているのかや、どのような反応を利用すれば元素の確認ができるかなどの判断で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に取り組む姿勢を問う問題を考査に入れて評価する課題に対する取り組みで評価する。
	1章 化学とは何か	・純物質と混合物 ・混合物の分離法	
	2章 物質の成分と構成元素	・元素とその確認	
	1節 物質の成分	・単体と化合物	
	2節 物質の構成元素	・粒子の熱運動と状態変化	
	3節 物質の三態	・粒子の熱運動	
2学期	2編 物質の構成	・原子の構造	【知識・技能】 原子の構造およびその構成粒子の性質や、イオンの性質と成り立ちおよびイオン結合についての理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 周期表で表すことにより、族と周期についてどのようなことが考えられるかなどの判断で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に取り組む姿勢を問う問題を考査に入れて評価する。課題に対する取り組みで評価する。授業に臨む態度や小テストに対する取り組みで評価する。
	1章 原子の構造と元素の周期表	・同位体とその利用	
	1節 原子の構造 2節 電子配置	・原子の電子配置	
	3節 元素の周期表	・周期表	
	2章 化学結合	・イオンの生成 ・イオンの分類	
	1節 イオンとイオン結合	・イオン半径 ・イオン結合とイオン結晶	
3学期	2節 分子と共有結合	・共有結合の成り立ち	【知識・技能】 共有結合の形成から分子の成り立ちと構造式や、自由電子の性質と金属の特徴などの理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 電気陰性度の差による結合の極性と分子の形状により分子の極性を判断できるかなどで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に取り組む姿勢を問う問題を考査に入れて評価する。課題に対する取り組みで評価する。授業に臨む態度や小テストに対する取り組みで評価する。身の周りの高分子化合物や合金について知ろうとする態度・課題などで評価する。
	3節 金属と金属結合	・共有結合の結晶	
	4節 化学結合と物質の分類	・化学結合と物質の分類	
	3編 物質の変化	・原子の相対質量	
	1章 物質質量と化学反応式	・原子量 ・分子量 ・式量	
	1節 原子量・分子量・式量	・アボガドロ数と物質質量	
3学期	2節 物質質量	・1 molの気体の体積	【知識・技能】 原子量・分子量・式量の値が示すものや、物質質量と気体の体積など、物質質量を中心とした量的関係の理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 元素の種類から結合を判断し、結合の種類と物質の性質の関連を考察できるかなどで判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に取り組む姿勢を問う問題を考査に入れて評価する。授業に臨む態度や課題・小テストに対する取り組みで評価する。
	3節 溶液の濃度	・溶液の濃度	
	4節 化学反応式の表し方	・化学反応式	
	5節 化学反応式の表す量的関係	・イオン反応式	
		・化学反応の表す量的関係	
		・反応物の過不足	
3学期		・化学の基本法則	【知識・技能】 濃度の調製や気体の発生などの実験についての器具の使用法、安全に正しく実験が行えるかの技能を判断する。化学式、化学反応式やイオン反応式が正しく表現できるかを判断する。 【思考・判断・表現】 反応式を用いた量的関係が理解できているかを判断する。物質の濃度の変換の取り組みなどで評価する。実験のレポートや原理の説明など表現力を判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 化学の基本法則について興味を持ち、歴史上での思考や法則の過程などについて考察できるかを判断する。 主体的に取り組む姿勢を問う問題を考査に入れて評価する。授業に臨む態度や課題・小テストに対する取り組みで評価する。

成績評価方法	【知識・技能】定期考査の基本的な出題などにおいて知識を、実験操作等で技能の習得を判断する。
	【思考・判断・表現】授業における発表内容やICT機器の活用、定期考査における応用的な出題・記述問題、実験に関するレポートなどにおいて判断する。
	【主体的に学習に取り組む態度】出席状況や授業態度、実験や課題に対する取り組みなどで判断する。

教 科	理科	科 目	化学基礎	学年・類型	2年文系	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	化学基礎 （東京書籍）(化基702)
副教材等	フォトサイエンス化学図録(数研出版) ニューグローバル化学基礎＋化学(東京書籍)

学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、日常生活における化学の果たしている役割を理解する。 2 酸・塩基の概念や反応を理解し、日常生活でのかかわりを理解する。 3 酸化・還元概念や反応を理解し、日常生活でのかかわりを理解する。 4 探究的な要素を取り入れることにより、学習内容を深め思考力や主体的に取り組む姿勢を高める。
授業の進め方、 学習方法	1 関心・意欲・態度を身に付けさせる…授業内容と科学的な事物・現象を関連させ、集団での議論など主体的に取り組むよう心掛ける。 2 思考・判断力を養う…化学的な事物・現象に問題を見出し、実験・観察を通し事象を論理的・分析的に考察し、問題を解決し、科学的に判断できるようにする。 3 実験を的確に行う力を表現力を養う…観察・実験の技能を習得し、それらを科学的に探究する方法を身に付けさせる、結果を的確に表現できるようにする。 4 小テストや定期考査毎に問題集のノート提出で課題に取り組みさせ、定期考査の見直しなど復習に重点を置くことにより基礎力の定着を図る。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	〈物質の変化〉 2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度とpH 3節 中和反応と塩 4節 中和滴定	・酸と塩基の定義 ・酸と塩基の価数と強弱 ・水の電離と水素イオン濃度・pH ・中和反応と塩の生成・塩の種類と液性 ・弱酸・弱塩基の遊離反応 ・中和滴定と滴定曲線	【知識・技能】 酸と塩基の定義や価数と強弱、塩の分類や性質、中和の量的関係を理解し、中和滴定における実験操作の技術習得などで評価する。 【思考・判断・表現】 電離度と酸・塩基の強弱、pH、弱酸の遊離に関する原理、滴定の原理などを考察できるかで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 酸・塩基の生活への関わりなどを知ろうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。
	3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元 2節 酸化剤と還元剤 3節 金属の酸化還元反応 4節 酸化還元反応の利用 終章 化学が拓く世界	・酸素・水素・電子・酸化数による酸化還元反応の定義 ・酸化剤と還元剤 ・酸化剤と還元剤の働きの強さ ・酸化剤と還元剤の量的関係 ・金属のイオン化傾向と反応性 ・電池と金属の精錬・身の回りの物質と利用	【知識・技能】 酸化還元反応の定義や酸化剤や還元剤の働きと量的関係、金属のイオン化傾向と反応、電池の原理の理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 酸化還元反応の電子のやり取りや量的関係について思考する力を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 酸化・還元、電池の利用など、化学反応が生活でどう利用されているかを知ろうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。
	1編 2章 物質の成分と構成元素 2編 1章 原子の構造と元素の周期表 2章 化学結合 3編 1章 物質と化学反応式	既習範囲の問題演習や実験観察を通じて理解を深める	【知識・技能】 問題演習で知識を評価する。実験観察を通じて技能を評価する。 【思考・判断・表現】 問題演習・実験を通じて元素の特性や量的関係を思考する力を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 化学的な現象を理解しよう、学ぼうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。
	2章 酸と塩基	既習範囲の問題演習や実験観察を通じて理解を深める	【知識・技能】 問題演習で知識を評価する。実験観察を通じて技能を評価する。 【思考・判断・表現】 問題演習・実験を通じて酸塩基の反応性や量的関係を思考する力を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 化学的な現象を理解しよう、学ぼうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。
	3章 酸化還元反応	既習範囲の問題演習や実験観察を通じて理解を深める	【知識・技能】 問題演習で知識を評価する。実験観察を通じて技能を評価する。 【思考・判断・表現】 問題演習・実験を通じて酸化還元反応の反応性や量的関係を思考する力を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 化学的な現象を理解しよう、学ぼうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。

成績評価方法	【知識・技能】定期考査の基本的な出題などにおいて知識を、実験操作等で技能の習得を判断する。
	【思考・判断・表現】授業における発表内容やICT機器の活用、定期考査における応用的な出題・記述問題、実験に関するレポートなどにおいて判断する。
	【主体的に学習に取り組む態度】出席状況や授業態度、実験や課題に対する取り組みなどで判断する。

教 科	理科	科 目	化学基礎・化学	学年・類型	2年理系	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
使用教科書	改訂 化学基礎、化学Vol.1理論編、化学Vol.2物質編 （東京書籍）								
副教材等	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) ニューグローバル化学基礎＋化学(東京書籍)								
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、日常生活における化学の果たしている役割を理解する。 2 酸・塩基の概念や反応を理解し、日常生活でのかかわりを理解する。 3 酸化・還元概念や反応を理解し、日常生活でのかかわりを理解する。 4 探究的な要素を取り入れることにより、学習内容を深め思考力や主体的に取り組む姿勢を高める。								
授業の進め方、 学習方法	1 関心・意欲・態度を身に付けさせる…授業内容と科学的な事物・現象を関連させ、集団での議論など主体的に取り組むよう心掛ける。 2 思考・判断力を養う…化学的な事物・現象に問題を見出し、実験・観察を通し事象を論理的・分析的に考察し、問題を解決し、科学的に判断できるようにする。 3 実験を的確に行う力を表現力を養う…観察・実験の技能を習得し、それらを科学的に探究する方法を身に付けさせる、結果を的確に表現できるようにする。 4 小テストや定期考査毎に問題集のノート提出で課題に取り組みさせ、定期考査の見直しなど復習に重点を置くことにより基礎力の定着を図る。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	<物質の変化> 2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度とpH 3節 中和反応と塩 4節 中和滴定	・酸と塩基の定義と性質 ・酸と塩基の強弱 ・水の電離と水素イオン濃度 ・水素イオン濃度とpH ・中和反応と塩の生成 ・塩の種類と塩の水溶液の性質 ・中和反応の量的関係 ・中和滴定	【知識・技能】 広い意味での酸と塩基の定義や酸と塩基の価数、水素イオンとpHの関係などを正確に理解しているかで評価する。 【思考・判断・表現】 電離度と酸・塩基の強弱の関係および反応性の違い、身の回りの物質のpHの大小などが判断できるかで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 pHの生活への関りなどを知ろうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。
	3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元 2節 酸化剤と還元剤 3節 金属の酸化還元反応 4節 酸化還元反応の利用 <化学:化学反応とエネルギー> 1節 電池 2節 電気分解	・酸化と還元 ・酸化還元反応と酸化数 ・酸化剤と還元剤 ・電子の授受と酸化還元反応 ・酸化剤と還元剤のはたらきの強さ ・酸化剤と還元剤の量的関係 ・金属のイオン化傾向 ・電池のしくみ ・実用電池 ・電気分解 ・電気分解の法則	【知識・技能】 酸化還元の定義や酸化数との関連、酸化剤や還元剤の働きと量的関係の、電池・電気分解の理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 酸塩基の反応と酸化還元反応の本質的な違いや、酸化還元反応の応用としての電池、および電気分解と名関係性を理解できているかで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 酸化剤や還元剤が生活でどう利用されているかを知ろうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。
2学期	<物質の状態>1章 物質の状態 1節 物質の三態 2節 気体・液体の状態変化 2章 気体の性質 1節 気体 2節 気体の状態方程式 3章 溶液の性質 1節 溶解	・物質の三態 ・気体・液体の状態変化 ・ボイル・シャルルの法則 ・気体の状態方程式・気体の分子量 ・混合気体と分圧 ・蒸気圧 ・理想気体と実在気体 ・溶解のしくみ ・固体の溶解度 ・結晶水の扱い ・溶液の濃度	【知識・技能】 三態の状態の違いやそれぞれの特徴を理解し、定量的な量的関係の理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 気体の温度や圧力との関係、理想気体の概念、固体や気体の水に対する東海製の違いや結晶水を持つ物質の溶解に関して判断できるかで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 温度の概念、また絶対温度はなぜ提唱されているのかなどを積極的に捉えようとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。
	<物質の状態>3章 溶液の性質 2節 希薄溶液の性質 3節 コロイド 4章 固体の構造 <化学:化学反応とエネルギー> 1章 化学反応と熱・光	・蒸気圧降下・沸点上昇・凝固点降下 ・浸透圧・分子量との関係 ・コロイド粒子とコロイド溶液の性質 ・コロイド溶液の性質 ・固体の構造 ・反応とエンタルピー変化 ・ヘスの法則 ・光とエネルギー	【知識・技能】 希薄溶液の性質やコロイド溶液の性質、エンタルピーの概念とヘスの法則を用いた量的関係の理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 溶質が溶媒に与える影響を理解し、溶液においてどのような特性が生じるのかを理解し、また結合エンタルピーや生成エンタルピーの反応エンタルピーとの関係性を正確にできるかで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 希薄溶液の性質を身の回りの現象として捉えようとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。
3学期	<化学反応の早さと平衡> 1章 化学反応の速さ 2章 化学平衡 3章 水溶液中の化学平衡 <無機化学> 1章 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物	・反応速度と触媒 ・可逆反応と化学平衡 ・平衡定数 ・ルシャトリエの原理 ・電離平衡 ・加水分解と緩衝液 ・溶解平衡 ・周期表と元素 ・非金属元素 ・気体の発生と捕集	【知識・技能】 反応速度と平衡定数との関係や平衡での量的関係、非金属元素の性質や気体の発生・捕集・乾燥の理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 平衡状態に対する正確な認識や、条件の変化に対する平衡の移動についてな判断。無機化合物の性質の理解で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 緩衝液や多くの無機化合物が生活の中でどのように活用されているのかを知ろうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。

成績評価方法	【知識・技能】定期考査の基本的な出題などにおいて知識を、実験操作等で技能の習得を判断する。
	【思考・判断・表現】授業における発表内容やICT機器の活用、定期考査における応用的な出題・記述問題、実験に関するレポートなどにおいて判断する。
	【主体的に学習に取り組む態度】出席状況や授業態度、実験や課題に対する取り組みなどで判断する。

教 科	理 科	科 目	物 理	学年・類型	2年理系	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
使用教科書	物理(数研出版)								
副教材等	改訂版リードα 物理(数研出版) 良問の風(河合出版)								
学習目標	さまざまな物理現象を取り扱い、観察、実験などを通して物理的に考察する能力と態度を身につける。 物理現象を説明するためのことば(物理量)を覚え、物理量と物理量の間にある関係(物理法則)を理解し、それらを使って物理現象を説明していく。								
授業の進め方、 学習方法	物理現象を理解するための物理量や物理法則の説明が授業の中心となる。また、理解を深めるために適宜、問題演習や実験などを行う。 提出課題としては、問題集(リードα 物理)の考查範囲の問題を考查ごとに解答する。問題集(良問の風)の問題を週ごとに範囲を決めて解答していく。授業では受け身にならず、自ら物理現象を説明できるように積極的に手と頭を働かせて取り組んでいかなければならない。 2年、3年と継続履修。興味関心に応じて選択すること。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	第3編 波 第2章 音の伝わり方 2.音のドップラー効果 第3章 光 1.光の性質 2.レンズと鏡	波源と観測者とが相対的に運動しているときには、観測者する振動数は波源本来の振動数とは異なることを理解する。音源が動く場合には、観測者の運動に関係なく波長が変化することを理解する。 光は電磁波の一種であることや、光の速さについて学ぶ。反射・屈折の法則が成りたつこと、全反射の機構を理解する。光の分散、散乱、偏光についても学ぶ。 レンズがつくる像を図および実験を通して理解する。また、写像公式との関係を理解する。球面鏡がつくる像は、レンズの場合と似た手順で求められることを学び、像の作図方法、写像公式を理解する。	【知識・技能】 ドップラー効果の原理を理解し、公式が使える。 光の進み方の作図ができ、像の位置を求めることができる。 【思考・判断・表現】 屈折の法則、全反射を理解する。 【主体的に学習に取り組む態度】 波動の一種である光波について自らの学びを主体的に考えられる。
	第3編 波 第3章 光 3.光の干渉と回折 第1編 力と運動 第2章 剛体 1.剛体にはたらく力のつりあい 2.剛体にはたらく力の合力と重心	ヤングの実験、薄膜による光の干渉などを題材に、光の干渉について理解する。 剛体にはたらく力の効果は、力の大きさと向きのほかに、作用線の位置により決まることを理解する。また、剛体にはたらく力がつりあうためには、剛体が並進運動と回転運動をし始めないことに留意する。 剛体にはたらく力の合力をさまざまな場合にに応じて求められるようにする。また、重心についても理解する。	【知識・技能】 光の干渉の原理を理解する。 力のモーメントを理解する。 【思考・判断・表現】 さまざまな光の干渉現象を理解し、物理量を求めることができる。 力のモーメントを用いて剛体のつり合いが説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 剛体の運動について自らの学びを主体的に考えられる。
2 学期	第1編 力と運動 第3章 運動量の保存 1.運動量と力積 2.運動量保存則 3.反発係数 第4章 円運動と万有引力 1.等速円運動 2.慣性力	運動の法則から、力積と運動量の関係、運動量保存則を理解する。反発係数は衝突直後と直前における2物体の相対速度の大きさの比で表されることを理解する。 等速円運動の速さ、角速度、回転数、周期などの語句を理解する。これらの間に成りたつ関係を学習し、向心加速度、向心力についても理解する。 ある物体を異なる立場(座標系)で観測するときには、異なった運動が観測され、異なった式が立てられる場合があることを認識させる。慣性力が働く場合について理解する。	【知識・技能】 等速円運動の諸要素を認識し、相互の関係を理解している。 【思考・判断・表現】 運動量と力積、運動量保存の法則を使用して、物体の運動を説明できる。 慣性力を使って運動を解釈できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 力学の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる。
	第1編 力と運動 第4章 円運動と万有引力 3.単振動 4.万有引力	等速円運動をする物体の直径方向への正射影が単振動であることを理解する。単振動は放物運動と並んで、正射影の運動を扱う重要な例である。物体にはたらく力が、常に振動の中心へ向かって引き戻す向きであり、その大きさが振動の中心からの距離に比例するとき、物体の運動は単振動であることを理解する。 質量をもつ物体間にはたらく万有引力について理解する。惑星の運動を物理的に理解する。	【知識・技能】 単振動の運動を理解している。 万有引力の法則を理解している。 【思考・判断・表現】 単振動について、種々の問題を正しく解くことができる。 万有引力について、種々の問題を正しく解くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 力学の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる。
3 学期	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1.気体の法則 2.気体分子の運動 3.気体の状態変化	ボイル・シャルルの法則、理想気体の状態方程式を学ぶ。 気体分子の運動を力学的に扱って気体の圧力を表す式を導く。この式と理想気体の状態方程式とから、気体分子の運動エネルギーの平均値が絶対温度に比例することを導く。 内部エネルギーが絶対温度に比例することを理解する。熱力学第一法則を理解する。熱力学第一法則の式を用いて定積変化、定圧変化、等温変化、断熱変化を理解する。	【知識・技能】 熱サイクルから気体の状態を計算できる。 【思考・判断・表現】 気体の状態を、状態方程式から求めることができる。 気体の圧力を分子運動から導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 熱力学の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる。

成績評価方法	【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・定期考查や授業に対する取り組み状況から総合的に判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・考查課題、長期休業中の課題 ・授業の取り組み(授業態度、出席状況、学習活動への参加状況) などから総合的に評価する
--------	--

教 科	理科	科 目	化学基礎	学年・類型	3年文系	履修形態	全員履修	授業時数	1単位
-----	----	-----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	高等学校 化学基礎(東京書籍)
副教材等	ニューグローバル化学基礎＋化学(東京書籍)、四訂版サイエンスビュー化学総合資料(実教出版)、チェック&演習化学基礎(数研出版)・共通テスト対策問題集

学習目標	これまでに学んできた化学基礎を総復習しながら、共通テストで高得点がとれるような学力を養う。
授業の進め方、 学習方法	過去のセンター試験・共通テストの問題を厳選した問題集を用いて、今までに習ったことを、再び深く学習させる。結果だけを求めるのではなく、結果にいたるまでの過程を深く考えさせる。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	第Ⅰ章 物質の構成	1 物質の成分と構成元素 2 原子の構造と周期表	【知識・技能】 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、定期考査ごとの課題の取り組みで総合的に判断する。
	第Ⅰ章 物質の構成 第Ⅱ章 物質の変化	3 化学結合 4 物質量と濃度	【知識・技能】 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、定期考査ごとの課題の取り組みで総合的に判断する。
2学期	第Ⅱ章 物質の変化	5 化学反応式 6 酸と塩基 7 酸化還元反応	【知識・技能】 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、定期考査ごとの課題の取り組みで総合的に判断する。
		身の回りの化学 実験操作	【知識・技能】 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、定期考査ごとの課題の取り組みで総合的に判断する。
3学期		センター直前チェック 予想模擬テスト	【知識・技能】 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、定期考査ごとの課題の取り組みで総合的に判断する。

成績評価方法	【知識・技能】 授業への取り組み、観察・実験に対する態度、定期考査で総合的に判断する。 【思考・判断・表現】 発展的内容、グラフ・図表の読み取り、定期考査で総合的に判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、定期考査ごとの課題の取り組みで総合的に判断する。
--------	--

教 科	理科	科 目	化学	学年・類型	3年理系	履修形態	選択履修	授業時数	4単位
-----	----	-----	----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	「化学 Vol.2 物質編」(化学702)								
副教材等	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) ニューグローバル化学基礎＋化学(東京書籍)								

学習目標	①化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。 ②化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身に付ける。また、物質の構成粒子を観察、実験などを通して探究し、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。 ③無機化合物や有機化合物の性質や変化を観察、実験などを通して探究し、物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。								
授業の進め方、学習方法	①関心・意欲・態度を身に付けさせる。…科学的な事物・現象に関心や探究心を持たせ、主体的にそれらを探究させるように心掛ける。 ②思考・判断力を養う。…化学的な事物・現象の中に問題を見出し、実験・観察を行うことで、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断できるようにする。 ③実験を的確に行う力を表現力を養う。…観察・実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付けさす。また、結果を的確に表現できるようにする。 ④知識・理解を定着させる。…観察・実験を通して基本的な概念や原理・法則に理解を深めさせると同時に、問題集を解き、提出させることでより定着させる。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	第4編 無機化合物 2章 14族・15族の単体と化合物 3章 典型金属元素の単体と化合物 4章 遷移元素の単体と化合物	・14族元素の単体や化合物の性質を理解する。 ・15族元素の単体や化合物の性質を理解する。 ・アルカリ金属の性質について確認する。 ・アルカリ土類金属の単体の性質について、周期表を元に整理して理解する。 ・カルシウムの化合物についての性質や用途をまとめ理解する。 ・アルミニウムや亜鉛の単体が両性金属であることを確認し、その反応と用途について比較しながら理解する。 ・鉄、銅、銀の単体とその化合物について性質や用途をまとめ理解する。 ・クロム、マンガンの化合物について性質や用途をまとめ理解する。 ・工業的製法について背景や特徴を理解する。	【知識・技能】 ・非金属元素や金属元素の単体・化合物の性質や反応について、周期表と関連づけながら理解し、知識を身につけている。 ・典型元素と遷移元素の特徴を正確に把握できている。 【思考・判断・表現】 ・無機物質の性質や反応などについて、周期表と関連づけて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・無機物質に関する性質や反応に関する事物・現象に関心をもち、それらに関する基本的な概念や法則を意欲的に探究しようとする。 また、観察・実験を行い探究しようとする
	5章 金属イオンの分離と確認 第5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 2章 炭化水素 3章 アルコールと関連化合物	・沈殿反応や炎色反応を用い複数の金属イオンの混合溶液から各金属イオンを分離し、その種類を確認することを系統立てて行う方法について理解する。 ・有機化合物が炭素を中心とする化合物であり、種類が極めて多いことを理解するとともに有機化合物の特徴を無機化合物と比較して理解する。 ・炭化水素の分類やその他の有機化合物の官能基について表し方を確認する。 ・構造式の決定方法を確認する。 ・アルカン、アルケン、アルキンおよび環状の炭化水素についてその構造と性質を理解する ・アルコールの構造とさまざまな分類方法、およびその反応と性質について理解する ・エーテルの構造および性質についてアルコールと比較して理解する ・アルデヒドの構造とその性質について理解する ・ケトン構造および性質・反応についてアルデヒドと比較して理解する ・カルボン酸の構造とその性質について他の有機化合物と関連づけて理解する ・エステル構造とその性質について他の有機化合物と関連づけて理解する	【知識・技能】 ・炭化水素の分類とその反応性の関係や構造異性体の関係を理解する。 ・炭化水素の確認や組成式・分子式・構造式の決定について理解している。 ・観察、実験の過程や結果から生じる問題や発見した事項について、自らの考えを導き出した。新しい課題を設定することができる。 【思考・判断・表現】 ・炭化水素、官能基をもつ有機化合物の性質や反応性が構造に特徴づけられることを見出し、構造異性体、鏡像異性体などを論理的に考察し、説明することができる。 ・構造式によって、その化合物の性質や反応性について推論ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・有機化合物に関する性質や反応に関する事物・現象に関心をもち、それらを日常生活と関連させて探究しようとする。
2学期	4章 芳香族化合物	・油脂についてその構造と性質を理解する。 ・ベンゼンの構造について、アルカンやアルケンの炭素間結合と比較するとともにその性質や構造による特性を理解する。 ・酸素を含む芳香族化合物についてその性質と反応を関連づけて理解する ・フェノール類とアルコールとの性質や反応性の違いについて理解する。 ・有機化合物の合成経路について理解する	【知識・技能】 ・芳香族化合物の分類とその反応性の関係や異性体、配向性の関係を理解している。 ・芳香族化合物の性質が置換基により特徴づけられることを具体的な物質で理解し、さらに芳香族化合物相互の関連性について理解している。 【思考・判断・表現】 ・ベンゼン、置換基をもつ芳香族化合物の性質や反応性が構造に特徴づけられることを見出し、異性体、配向性などを論理的に考察し、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・有機化合物に関する性質や反応に関する事物・現象に関心をもち、その構造と性質や反応性の関係について意欲的に探究しようとする。
	6編 高分子化合物 1章 高分子化合物とは何か 2章 天然高分子化合物 3章 合成高分子化合物	・高分子化合物の性質や反応性において、無機物質や低分子の有機化合物とは異なる特徴を認識する ・天然高分子化合物の構造・性質・反応性について、単量体の官能基の性質から複数の重合反応の違いを見いだし、論理的に理解させる。 ・天然高分子化合物の性質や反応性について、糖類、アミノ酸とタンパク質、酵素、核酸等を通して理解し、天然高分子化合物相互の相違と関連性についての理解させる。 ・合成高分子化合物の構造・性質・反応性について、単量体の官能基のはたらきとの関連性を見いだし理解させる。 ・合成高分子化合物の合成反応や性質・反応性について、合成繊維、プラスチック、ゴム等の用途別の代表的な合成高分子化合物について理解し、相互の相違と関連性についての知識を身に付ける ・高分子化合物の特徴や反応性について、日常生活に関連付けて理解している。	【知識・技能】 ・天然高分子化合物、合成高分子化合物の構造や性質について理解し、知識を身につけている。 ・高分子族化合物の性質や反応について、観察、実験の過程や結果から生じる問題や発見した事項について、自らの考えを導き出した。 【思考・判断・表現】 ・高分子化合物の性質や反応性が、その構造および結合の状態に特徴づけられる面があることを見出し、いくつかの天然高分子化合物、合成高分子化合物について具体的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 高分子化合物に関する性質や反応に関する事物・現象に関心をもち、その構造と性質や反応性の関係について意欲的に探究しようとする。また、観察・実験を行い探究しようとする。
3学期		大学入試共通テスト、大学2次試験演習(総合問題)	【知識・技能】 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む姿勢や、授業中の発問、取り組み、考査課題の取り組み等で評価する。

成績評価方法	【知識・技能】定期考査の基本的な出題などにおいて知識を、実験操作等で技能の習得を判断する。
	【思考・判断・表現】授業における発表内容やICT機器の活用、定期考査における応用的な出題・記述問題、実験に関するレポートなどにおいて判断する。
	【主体的に学習に取り組む態度】出席状況や授業態度、実験や課題に対する取り組み、化学反応式を正確に書く取り組みなどで判断する。

教 科	理科	科 目	物理	学年・類型	3年理系	履修形態	選択履修	授業時数	4単位
使用教科書	物理(数研出版)								
副教材等	新課程リードα 物理(数研出版) 良問の風(河合出版)								
学習目標	さまざまな物理現象を取り扱い、観察、実験などを通して物理的に考察する能力と態度を身につける。 物理現象を説明するためのことば(物理量)を覚え、物理量と物理量の間にある関係(物理法則)を理解し、それらを使って物理現象を説明していく。								
授業の進め方、 学習方法	物理現象を理解するための物理量や物理法則の説明が授業の中心となる。また、理解を深めるために適宜、問題演習や実験などを行う。 提出課題としては、問題集(リードα 物理、良問の風)の考查範囲の問題を考查ごとに解答する。 授業では受け身にならず、自ら物理現象を説明できるように積極的に手と頭を働かせて取り組んでいかなければならない。 2年、3年と継続履修。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	第4編 電気と磁気 第1章 電場 1.静電気力 2.電場 3.電位 4.物質と電場 5.コンデンサー	電荷間にはたらく力の大きさについてのクーロンの法則を理解させる。電荷のまわりにはたらく電場は、ベクトルであることを理解させ、電気力線によって表されることを理解させる。静電気力による位置エネルギーが電位であることを理解させる。電場と電位との関係を理解させる。電場の中に物体を置くと、物体の表面には電荷が現れるが、物体が導体か不導体かにより、現象が異なることを理解させる。 既習事項と関連させながらコンデンサーを理解させる。一様な電場内の電場と電位差との関係などから、コンデンサーの極板に蓄えられる電気量が電位差に比例することが導かれることを示し、電気容量を理解させる。極板間に挿入された誘電体のたはらき、および誘電率、比誘電率を理解させる。	【知識・技能】 電気分野で扱う物理量を理解できる クーロンの法則を活用できる コンデンサーの諸公式を活用できる 【思考・判断・表現】 電気の基本的な物理量と公式から電気現象を説明できる コンデンサーの働きを理解し、各物理量の計算ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 電磁気学の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる
	第4編 電気と磁気 第2章 電流 1.オームの法則 2.直流回路 3.半導体 第3章 電流と磁場 1.磁場 2.電流のつくる磁場 3.電流が磁場から受ける力 4.ローレンツ力	導体を流れる電流の大きさが電圧に比例することを示し、電気抵抗を理解させる。さらに、導体の抵抗率は、温度上昇に伴い大きくなることを理解させる。キルヒホッフの法則をきちんと理解させる。起電力・端子電圧・電池の内部抵抗の意味を理解させ、それらの間にある関係式をしっかりと把握させる。磁場について定義をし、さらに磁力線の説明へと進めていく。直線電流、円形電流、ソレノイドがつくる磁場について、各場合の電流・磁場の関係を理解させる。電流が磁場から受ける力について理解させ、その力の向きをしっかりと把握させる。平行電流が及ぼしあう力についてその向きと大きさを理解させる。運動する荷電粒子が磁場から受ける力(ローレンツ力)について説明する。	【知識・技能】 キルヒホッフの法則を理解できる 磁気分野で扱う物理量を理解できる 電流と磁場の関係を理解できる 【思考・判断・表現】 複雑な回路をキルヒホッフの法則を用いて解くことができる 磁気学の基本的な物理量と公式から磁気現象を説明できる 【主体的に学習に取り組む態度】 電磁気学の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる
2 学期	第4編 電気と磁気 第4章 電磁誘導と電磁波 1.電磁誘導の法則 2.自己誘導と相互誘導 3.交流の発生 4.交流回路 5.電磁波	磁場を横切る導線に生じる誘導起電力について理解させる。その際、ファデーの電磁誘導の法則、磁場によるローレンツ力など、異なる面から考えさせるようにする。コイルに流れる電流が変化すると誘導起電力が生じ、その大きさは単位時間当たりの電流の変化量に比例することを理解させる。 交流の発生のしくみと、交流電圧(の瞬時値)の表記、交流の実効値についてもその意味をしっかりと理解させる。抵抗に直列につないだコイルやコンデンサーに加わる電圧の位相について理解させる。コイルやコンデンサーのリアクタンスを理解させる。交流回路のインピーダンスについても扱う。 電磁波の発生のしくみについて理解させる。電磁波は周波数の大小により、そのふるまいが異なり、名称も異なることを説明する。	【知識・技能】 電磁誘導の原理を理解できる 各端子の交流電流と交流電圧の関係を理解できる 波長による電磁波の違いを理解できる 【思考・判断・表現】 電磁気学の基本的な物理量と公式を用いて、交流現象を理解し、計算することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 電磁気学の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる
	第5編 原子 第1章 電子と光 1.電子 2.光の粒子性 3.X線 4.粒子の波動性 第2章 原子と原子核 1.原子の構造とエネルギー準位 2.原子核 3.放射線とその性質 4.核反応と核エネルギー 5.素粒子	陰極線の性質を理解させる。トムソンの実験とミリカンの実験から、電子の比電荷等がどのように得られたかを理解させる。光電効果の現象が定性的にも定量的にも説明できることを学習させる。X線の発生、X線回折、コンプトン効果を理解させる。光子についてもエネルギー保存、運動量保存の式が理解できるようにする。光の粒子性と対比しながら、電子に波動性があることを理解させる。 ボーアの水素原子模型について説明し、水素原子のエネルギー準位を理解させる。主な放射線の種類とそれらの本体についても説明する。崩壊により原子核の質量数や原子番号がどのように変化するかを理解させる。半減期について理解させる。原子核反応を理解させる。	【知識・技能】 原子に関する諸現象の知識が定着している 原子分野の現象にかかわる知識を定性的に理解できる 【思考・判断・表現】 原子の関する知識を前提に、X線や原子に関する計算を解くことができる 【主体的に学習に取り組む態度】 原子の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる
3 学期		大学入試共通テスト、大学2次試験演習(総合問題)	【知識・技能】 すべての分野の各物理量を、正確に説明することができる すべての分野で使われる公式を正確に使用することができる 【思考・判断・表現】 各物理量と公式をもとに、物理現象を定性的かつ定量的に解くことができる 【主体的に学習に取り組む態度】 物理学全般の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる

成績評価方法	【知識・技能】・【思考・判断・表現】 ・定期考査や授業に対する取り組み状況から総合的に判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・定期考査、考査課題、長期休業中の課題、授業の取り組み(授業態度、出席状況、学習活動への参加状況)などから総合的に評価する。
--------	--

教 科	理科	科 目	生物	学年・類型	3年理系	履修形態	選択履修	授業時数	4単位
-----	----	-----	----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	生物(数研出版)
副教材等	新課程リードα生物(数研出版)、新課程版スクエア最新図説生物(第一学習社)、2025生物重要問題集(数研出版)

学習目標	1 1・2学年で学習した生物の基本的な事象を発展させて、近年の研究・知見を織り交ぜながら学習し、知識を身につける。 2 興味・関心・意欲を持って学習に取り組み、自然界の原理・原則を導き出す考え方を身につけ、学習した上で生じる疑問を探究する姿勢を身につける。 3 観察・実験を通して科学的な自然観を養う。 4 生物現象を学習することにより、自分自身や他者の命の営みを大切に、他の生物に対しても、生命を尊重する精神を養う。
授業の進め方、 学習方法	1 プリントと図説を用いて授業を進め、自然現象への興味や疑問を抱きながら学習に取り組む。 2 プリントが終わるごとに各自で学習事項のチェックを行い、1時間ごとに基本的知識の定着を図る。 3 単元が終わるごとに観察・実験を行い、基本的な実験機器の操作や観察の技能を習得し、レポート提出を通して表現力を身につける。 4 定期考査前ごとに、問題演習を中心に取り組み、読解力・考察力を身につける。

圖說

学習計画

学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	第4章 遺伝情報の発現と発生 第4節 発生と遺伝子発現 第5節 遺伝子を扱う技術 第5章 動物の反応と行動 第1節 刺激の受容	・カエルを例にした発生過程のしくみとヒトの発生過程の特徴 ・遺伝子組換え技術、PCR法など基本的なバイオテクノロジー技術の特徴。 ・視覚器を中心とした受容器のしくみ	【知識・技能】 遺伝子発現・調節、受容器に関する基本的知識等で評価する。 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 発生やバイオテクノロジー、感覚に関する考察等で評価する。 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む姿勢や、授業中の発問、発展的内容への学習意欲、考査課題の取り組み等で評価する。
	第5章 動物の反応と行動 第1節 刺激の受容 第2節 ニューロンとその興奮 第3節 情報の統合 第4節 刺激への反応 第5節 動物の行動 第6章 植物の環境応答 第1節 植物の生活と植物ホルモン	・聴覚器を中心とした受容器のしくみ ・ニューロンの基本構造と興奮の伝導・伝達 ・神経系のしくみ ・筋肉を中心とした効果器のしくみ ・動物の行動とニューロンとの関連 ・植物の環境応答と植物ホルモン	【知識・技能】 受容器と効果器、植物に関する基本的知識等で評価する。 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 受容器、神経系や動物の行動に関する考察等で評価する。 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む姿勢や、授業中の発問、発展的内容への学習意欲、考査課題の取り組み等で評価する。
	第6章 植物の環境応答 第2節 発芽の調節 第3節 成長の調節 第4節 器官の分化と花芽形成の調節 第5節 環境の変化に対する応答 第6節 配偶子形成と受精	・植物の発芽・成長の調節 ・植物の発芽・成長の調節 ・花芽形成の調節 ・水分の調節、病害や傷害に対する応答 ・植物の配偶子形成と重複受精	【知識・技能】 植物の成長に関する基本的知識等で評価する。 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 植物の反応や調節に関する考察等で評価する。 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む姿勢や、授業中の発問、発展的内容への学習意欲、考査課題の取り組み等で評価する。
	第7章 生物群集と生態系 第1節 個体群の構造と性質 第2節 個体群内の個体間の関係 第3節 異なる種の個体群間の関係 第4節 生態系の物質生産と物質循環 第5節 生態系と人間生活 生物・生物基礎の二次試験対策演習 及び生物の共通テスト対策演習	・個体群や生物群集の特徴 ・同種個体群の特徴 ・異種個体群の特徴 ・生態系における物質生産とバイオーム ・生物多様性の意義 生物・生物基礎の二次試験対策として、近年の入試傾向をおさえながら、問題集や自作プリントを使用しながら演習を行う。	【知識・技能】 個体群内の関係や生態系に関する基本的知識等で評価する。 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 同・異種個体群、生態系に関する考察等で評価する。 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む姿勢や、授業中の発問、発展的内容への学習意欲、考査課題の取り組み等で評価する。
	生物・生物基礎の二次試験対策演習 及び生物の共通テスト対策演習	共通テスト前:共通テスト対策として、模擬試験で実践力をつける。 共通テスト後:生物・生物基礎の二次試験対策として、各自の志望大学に合わせた過去問および模擬試験で実践力をつける。	【知識・技能】 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む姿勢や、授業中の発問、取り組み、考査課題の取り組み等で評価する。
	3学期		

成績評価方法	【知識・技能】 授業への取り組み、観察・実験に対する理解等で総合的に判断する。
	【思考・判断・表現】 発展的内容、グラフ・図表の読み取り、授業中の議論内容等で総合的に判断する。
	【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、探究的活動や議論への参加姿勢、考査課題の取り組み等で総合的に判断する。

教 科	理 科	科 目	総合物理基礎	学年・類型	3年文系	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
使用教科書	物理基礎(数研出版)								
副教材等	新課程 リードα 物理基礎(数研出版)								
学習目標	物理基礎で学習した内容を復習し、演習を積むことにより、自然界における物理現象についての理解を深める。 また、物理的に考える論理的思考や事象へのアプローチの仕方を深め、共通テストに適應する力も身につける。								
授業の進め方、 学習方法	物理基礎の内容復習の説明を受け、自らポイントを確認しながら演習を行う。授業内では互いに復習ポイントを確認しながら行い、理解を深め合うため、発表を積極的に行う。授業内での演習では、問題に対する考え方や解法のポイントなどが説明できるようにしていく。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	静電気 電気で使われる量 オームの法則 磁場 モーターが回転する原理 発電機の構造と発電の原理	・摩擦電気と静電気力について学ぶ ・電気の諸量について学ぶ。 ・オームの法則について学ぶ。 ・磁場と磁場中の電流にはたらく力について学ぶ。 ・モーターについて学ぶ。 ・電磁誘導現象について学ぶ。 ・交流について学ぶ。 ・電波とは何かを学ぶ。	【知識・技能】 電磁気分野で扱う物理量を理解できる 電磁気分野で扱う公式を理解できる 【思考・判断・表現】 電磁気分野で扱う物理量と公式を用いて、電磁気現象を説明できる 【主体的に学習に取り組む態度】 電磁気学の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる。
	速度・加速度 等加速度運動 落体の運動 力の性質 力のつり合い いろいろな力	・速度と速度の合成、相対速度について学ぶ。 ・x-tグラフ、v-tグラフについて学ぶ。 ・等加速度直線運動の3公式について学ぶ。 ・落体の運動が等加速度運動であることを学ぶ。 ・物体に働く力である、重力・垂直抗力・張力・弾性力の性質について学ぶ。物理法則である、作用反作用の法則を学ぶ。 ・静止している物体に働く力のつり合いについて学ぶ。	【知識・技能】 力学分野で扱う物理量を理解できる 力学分野で扱う公式を理解できる 【思考・判断・表現】 力学分野で扱う物理量と公式を用いて、力学現象を説明できる 【主体的に学習に取り組む態度】 力学の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる。
2 学期	運動の法則 力のする仕事 力学的エネルギー 力学的エネルギー保存則 熱と温度 熱と仕事	・さまざまな現象について、運動方程式の使い方を学ぶ。 ・さまざまな力のする仕事について学ぶ。 ・仕事の原理について学ぶ。仕事率について学ぶ。 ・運動エネルギー、位置エネルギー、弾性エネルギーについて学ぶ。力学的エネルギー保存の法則について学ぶ。 ・セルシウス温度と絶対温度について学ぶ。 ・熱量保存の法則と熱容量、比熱の関係を学ぶ。 ・熱力学第1法則について学ぶ。	【知識・技能】 力学・熱力学分野で扱う物理量を理解できる 力学・熱力学分野で扱う公式を理解できる 【思考・判断・表現】 力学・熱力学分野で扱う物理量と公式を用いて、力学・熱力学現象を説明できる 【主体的に学習に取り組む態度】 力学・熱力学の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる。
	波の基本 波の重ね合わせ 波の反射・屈折・回折 音波 発音体の振動 共振と共鳴	・縦波と横波、正弦波の式、位相について学ぶ。 ・波の重ね合わせの原理、干渉、定常波、波の反射について学ぶ。 ・波の反射・屈折の法則、波の回折現象について学ぶ。 ・音の速さ、反射、屈折、干渉について学ぶ。 ・弦の振動と気柱の振動について学ぶ。 ・気柱の共鳴現象を学ぶ。	【知識・技能】 波動分野で扱う物理量を理解できる 波動分野で扱う公式を理解できる 【思考・判断・表現】 波動分野で扱う物理量と公式を用いて、波動現象を説明できる 【主体的に学習に取り組む態度】 波動の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる。
3 学期	共通テスト等演習	・総合的な演習を行う。	【知識・技能】 すべての分野の各物理量を、正確に説明することができる すべての分野で使われる公式を正確に使用することができる 【思考・判断・表現】 各物理量と公式をもとに、物理現象を定性的かつ定量的に解くことができる 【主体的に学習に取り組む態度】 物理学全般の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる。

成績評価方法	【知識・技能】・【思考・判断・表現】 ・定期考査や授業に対する取り組み状況から総合的に判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・考査課題、長期休業中の課題 ・授業の取り組み(授業態度、出席状況、学習活動への参加状況)などから総合的に評価する
--------	--

教 科	理科	科 目	総合生物基礎	学年・類型	3年文系	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	--------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	啓林館 高等学校 生物基礎
副教材等	数研出版 新課程リードα 数研出版 大学入学共通テスト対策生物基礎

学習目標	1 1学年で学習した内容を復習しつつ、それを発展させて幅広い知識を身につける。 2 難化傾向にある共通テストに対応できる実力がつくように、自然界の原理・原則を導き出す考え方を身につける。 3 身近な生物現象と自分とのつながりを意識しつつ興味・関心・意欲を持って学習し、科学的な自然観を養う。
授業の進め方、 学習方法	1 教科書・プリントを用いて授業を進め、自然現象への興味や疑問を抱きながら学習に取り組む。 2 授業と並行してリードα生物基礎の基本的事項の復習を、夏までに終わらせるようにする。 3 2学期からは問題演習(標準演習→実践演習)を中心に取り組み、読解力・考察力を身につける。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	基本的事項の復習 ①生物の特徴 ②遺伝子とその働き ③神経系と内分泌による調節	図説や問題集を利用して、基本的事項や重要語句の確認をする。	【知識・技能】 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、定期考査ごとの課題の取り組みで総合的に判断する。
	基本的事項の復習 ④免疫 ⑤植生と遷移 標準演習	チェック&演習生物基礎を使い、標準問題で実力を養う。	【知識・技能】 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、定期考査ごとの課題の取り組みで総合的に判断する。
2学期	標準演習	共通テスト対策実力完成直前演習生物基礎を使い、50分で2回分の演習を行う。	【知識・技能】 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、定期考査ごとの課題の取り組みで総合的に判断する。
	標準演習	共通テスト対策実力完成直前演習生物基礎を使い、50分で2回分の演習を行う。	【知識・技能】 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、定期考査ごとの課題の取り組みで総合的に判断する。
3学期	実践演習	共通テスト対策実力完成直前演習生物基礎を使い、50分で2回分の演習を行う。	【知識・技能】 定期考査の観点別成績で判断する。 【思考・判断・表現】 定期考査の観点別成績で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、定期考査ごとの課題の取り組みで総合的に判断する。

成績評価方法	【知識・技能】 基本的な知識の定着、観察・実験の手順などを、定期考査で総合的に判断する。 【思考・判断・表現】 発展的内容、グラフ・図表の読み取りなどを、定期考査で総合的に判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、定期考査ごとの課題の取り組みなどを、総合的に判断する。
--------	---

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅠ	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
使用教科書	ELEMENT English CommunicationⅠ								
副教材等	英単語ターゲット1900、NHK語学講座『ニュースで学ぶ現代英語』								
学習目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。								
授業の進め方、 学習方法	[C] ホームルーム単位での一斉授業。スピーチ、プレゼンテーション、パラグラフライティング等の活動を取り入れ、発信能力の育成を目指す。ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫することで生徒が発話する機会を増やすとともに、他者と協働する力を育成する。理解や学習内容の定着をはかるため、随時、問題演習も取り入れる。ワークブックや参考書等の副教材は家庭での復習に利用するとともに、適宜参照させ、定期考査時も考査範囲に計画的に含め、自学を促す。 [C10] 1クラスを2グループに分けた少人数展開。『論理表現』シラバスも参照。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	Lesson 1 Intercultural Relationships	シドモアが抱き続けた夢 日米友好の桜の秘話	【知識・技能】 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要、要点を捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いようとしている。
	Lesson 2 Love beyond Species	ライオンと人間の絆 200万人が見た感動の実話	
	Lesson 3 Contributing to Our Planet	子どもでも世界を変えられる バリ島姉妹の奮闘記	
	Lesson 4 Messages for World Peace	広島・長崎の二重被爆者 山口さんの平和への思い	
2学期	Lesson 5 Respecting Each Other	世紀の誤審 過ちを許す優しさの物語	
	Lesson 6 Language and Culture	ことばは心の辞書 角野栄子さんのスピーチ	
	Lesson 7 Technology and Discoveries	私たちの生活を支える セレンディビティー	
	Lesson 8 Standing Up for Human Rights	南アフリカの歴史を変えた マンデラとラグビー	
3学期	Further Reading 1 Toward Sustainable Development Goals	SDGsと若者の関わり方 10代少女のスピーチ	
	Further Reading 2 Pictures without Shadows	描き続ける喜び 支え続けた夫婦の愛	

成績評価方法	《学年の評価方法》 ①【知識・技能】、②【思考・判断・表現】、③【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点について、この表に記した各単元の評価基準をもとに、 a. 言語活動に取り組む態度 / b. 課題等の提出 / c. 定期考査・プレゼンテーション などの評価方法を用いて、各学期の成績を総合的に判断して、年間の評価とする。
--------	---

教 科	外国語	科 目	論理・表現 I	学年・類型	1 年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2 単位
使用教科書	CROWN Logic and Expression I								
副教材等	DUALSCOPE English Grammar in 36 Stages, デュアルスコープ総合英語								
学習目標	中学校において育成したコミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、Speak (Interaction)「話すこと[やり取り]」、Speak (Presentation)「話すこと[発表]」及びWrite「書くこと」の三つの領域を中心とした発信能力の育成を強化する。特に、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、1つの段落を書くことなどを通して、論理の構成や展開を工夫して、話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようになることを目標とする。また、「英語の特徴やきまりに関する事項」において、「論理の構成や展開及び表現などに関する事項」を扱う。								
授業の進め方、学習方法	・[CIO] 1クラスを2グループに分けた、少人数編成授業。定期考査毎にグループを入れ替える。 ・スピーチ、プレゼンテーション、パラグラフライティング等の活動を取り入れ、発信能力の育成を目指す。 ・ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫することで生徒が発話する機会を増やすとともに、他者と協働する力を育成する。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	[CROWN Logic and Expression]	年間を通し、CIOの少人数グループと連携しながら、主にテキスト中の以下のテーマについて、討論やプレゼンテーションを行う。 L4 Environmental Problems L5 Volunteer Work L7 Our Greatest Invention L8 Japanese Hidden Treasures L9 City or Countryside? L10 Will AI improve our life? L11 Are Zoos necessary?	【知識・技能】 ・英語表現に必要な、基礎的な英文法を身に着けている。 ・様々な場面で必要となる、提携の英語表現を身に着けている。 【思考・判断・表現】 ・左で例示した社会問題について、深く学び、他人の意見に耳を傾けながら、自らの意見を表現することができる。 ・学んだ知識を、実際の英語材料の中で、使いこなすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・知識・技能を自ら高める取り組みを続けることができる。 ・プレゼンテーションやディベート・ディスカッションにおいて、意欲的に取り組むことができる。
2 学期	[DUALSCOPE English Grammar in 36 Stages]	1 中間:L 1～11 助動詞(3)まで 1 期末:L12～22 分詞(3)まで 2 中間:L23～33 話法(2)まで 2 期末:L34～	
3 学期			

成績評価方法	【《学年の評価方法》 ①【知識・技能】、②【思考・判断・表現】、③【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点について、この表に記した各単元の評価基準をもとに、 a. 言語活動に取り組む態度 / b. 課題等の提出 / c. 定期考査 などの評価方法を用いて、各学期の成績を総合的に判断して、年間の評価とする。
--------	---

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅡ(理)	学年・類型	2年理系	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
-----	-----	-----	-----------------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	CROWN II					
副教材等	Cutting Edge Green	Active Reader Upper-Intermediate	Keys to Listening 3	POWER STAGE	NHKラジオ講座『ニュースで学ぶ「現代英語	

学習目標	「英語コミュニケーションⅠ」の学習を踏まえ、5つの領域別の言語活動及び複数の領域を効果的に関連付けた統合的な活動を通して、5つの領域の総合的な学習を行う。
授業の進め方、 学習方法	英文についての理解を深め、英文内容や内容についての意見を表現することを学ぶ。 英文で用いられている語彙・表現を使いこなせるよう、音読練習等を通して復習を行う。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	1. Lost in Translation 2. One Book Can Empower a Child Cutting Edge 1,2 Active Reader 1-3 Keys to Listening 1-6	翻訳が難しい言葉についての文章を読み、言葉の豊かさについて考える。 アジアの国々の子どもたちへの絵本を届ける活動について知り、意見交換する。	【知識・技能】 主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
	3. Accessible Japan 4. Crossing the Border Cutting Edge 3-6 Active Reader 4-8 Keys to Listening 7-13	障害者にとって暮らしやすい社会を目指す活動家の活動や考えについて、理解する。 「国境なき医師団」に参加した医師の経験や考え方について考えを深める。	【知識・技能】 主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
2学期	5. Mental Toughness 6. Walking in Gaudi's Footsteps 7. Why Biomimicry? Cutting Edge 7-10 Active Reader 9-13 Keys to Listening 14-20	メンタルタフネスについて理解し、自分の生活への活用について意見を交換する。 海外で活躍する彫刻家の考え方を理解し、自分の将来や職業観について考える。 人間と自然との共生について、バイオミミクリーを通して考え理解を深める。	【知識・技能】 主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
	8. Invisible No Longer 9. Nudges Cutting Edge 11-15 Active Reader 14-20	コートジボワールの農園の実情や女性の権利向上のための活動について考えを深める。 人間の行動を後押しする「ナッジ」の仕組みや危険性について理解する。	【知識・技能】 主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
3学期	10. Are We Alone? Cutting Edge 16-18 Active Reader 21-24	地球外生命体の存在可能性について、考えを深め意見交換をする。	【知識・技能】 主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価

成績評価方法	【知識・技能】 主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
--------	--

教 科	外国語	科 目	論理・表現Ⅱ	学年・類型	2年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
使用教科書	EARTHRISE II Advanced								
副教材等	サクセス英作文 Approach Smart Reader Approach ライティングメソッド 入試必携英作文								
学習目標	「論理・表現Ⅰ」の学習内容を踏まえ、三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」を中心とした発信能力の育成を強化することを目指す。								
授業の進め方、 学習方法	指定された範囲を予習して授業に臨む。 授業でさまざまな表現方法を学ぶ。 英語で表現できる幅を広げられるよう、表現や語彙の定着を志す。 さまざまな話題に関して、その目的に応じた表現方法で発信できるようにする。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	Part1 Lesson1,2	正しい時制を使う、義務・忠告・助言・推量・確信・後悔を表す、希望を伝える	【知識・技能】 主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
	サクセス英作文 Lesson 1-5	さまざまな質問をする	
	Smart Reader Lesson1-10	AI時代における人間の役割について意見を述べる	
	ライティングメソッド Lesson1,2	日本の水産資源について意見を述べる	
2学期	Part1 Lesson3,4	国際交流・ボランティアに関する表現	【知識・技能】 主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
	サクセス英作文 Lesson 6-10	将来に関する表現 受動態、不定詞・動名詞、分詞、比較、形式主語・目的語	
	Smart Reader Lesson11-20	子どもの貧困問題について意見を述べる	
	ライティングメソッド Lesson3,4	地球温暖化の日本への影響について考える	
3学期	Part1 Lesson 5 Part2 Lesson1	感情表現、助言や忠告	【知識・技能】 主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
	サクセス英作文 Lesson11-16	時に関する表現、条件・仮定を表す、人の行動を促す、関係詞、否定表現	
	Smart Reader Lesson 21-28	子育てに必要な支援について意見を述べる	
	ライティングメソッド Lesson5,6	地方の医師不足問題について考える	
4学期	Part 2 Lesson2,3	助言・忠告・勧誘・依頼・提案	【知識・技能】 主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
	入試必携英作文 Lesson1-5		
	ライティングメソッド Lesson7,8	大学教育の無償化に関して意見を述べる	
		再生可能エネルギーの普及について考える	
5学期	Part 2 Lesson4,5	自分の立場を表明する、意見を述べる	【知識・技能】 主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
	入試必携英作文 Lesson6-10		
	ライティングメソッド Lesson9,10	女性管理職について意見を述べる	
		地域活性化策について考える	

成績評価方法	【知識・技能】 主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
--------	---

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅢ	学年・類型	3年全員	履修形態	全員履修	授業時数	4単位
-----	-----	-----	--------------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	Heartening English Communication III
副教材等	Cutting Edge Orange, SKYWARD, 英單語LEAP

学習目標	「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の学習を踏まえ、5つの領域別の言語活動及び複数の領域を効果的に関連付けた統合的な活動を通して、5つの領域の総合的な学習を行う。
授業の進め方、 学習方法	指定された範囲を予習して授業に臨む。 授業で英文についての理解を深め、英文内容や内容についての意見を表現することを学ぶ。 英文で用いられている語彙・表現を使いこなせるよう、音読練習等を通して復習を行う。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	Heartening L1-3 Cutting Edge L1-3 SKYWARD L1-4		【知識・技能】主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】提出課題・小テストの結果などを総合的に判断して評価
	Heartening L4-7 Cutting Edge L4-8 SKYWARD L5-10		【知識・技能】主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】提出課題・小テストの結果などを総合的に判断して評価
2 学期	Heartening L8-10 Cutting Edge L9-13 SKYWARD L11-15		【知識・技能】主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】提出課題・小テストの結果などを総合的に判断して評価
	Cutting Edge L14-17 SKYWARD L16-20		【知識・技能】主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】提出課題・小テストの結果などを総合的に判断して評価。
3 学期	特別授業を予定		【知識・技能】主に定期考査により評価 【思考・判断・表現】主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】課題提出・小テストの結果などを総合的に判断して評価

成績評価方法	定期考査・提出課題・小テスト等を総合的に判断して行う。
--------	-----------------------------

教 科	外国語	科 目	論理・表現Ⅲ	学年・類型	3年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	-----	-----	--------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	Vision Quest Logicand Expression Ⅲ
副教材等	入試必携英作文

学習目標	「論理・表現Ⅰ・Ⅱ」の学習内容を踏まえ、三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」を中心とした発信能力の育成を強化することを目指す。
授業の進め方、 学習方法	・指定された範囲を予習して授業に臨む。 ・授業でさまざまな表現方法を学ぶ。 ・復習として、配布される解答・解説も活用し、英語で表現できる幅を広げる。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	Vision Quest L1～3 必携英作文 L15～18 (Exercise A)		【知識・技能】【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
	Vision Quest L4～L7 必携英作文 L1～ L6 (Exercise B)		
2学期	Vision Quest L8～L10 必携英作文 L7～ L11 (Exercise B)		【知識・技能】【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
	必携英作文 L12～18		
3学期	特別授業を予定		【知識・技能】【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価

成績評価方法	定期考査・小テスト・提出課題を総合的に判断して行う。
--------	----------------------------

教 科	芸 術	科 目	音 楽 I	学年・類型	1 年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	2 単位
-----	-----	-----	-------	-------	--------	------	------	------	------

使用教科書	教育芸術社 MOUSA 1
副教材等	なし

学 習 目 標	1 音楽を愛好し、音楽に対する興味関心を高める。主体的に学習に取り組むことができる。 2 感性を高め、音楽の美しさを感じ取って、創造的な音楽活動を工夫することができる。 3 自発的な表現の力、技能を身につけ、それを活かして創造的に表現することができる。 4 多様な音楽への理解を深め、それぞれの持つ音楽の良さを感じ取りながら鑑賞することができる。
授業の進め方、学習方法	知識技能を高めるために、1学期は音楽理論が習得できるよう学習を進めます。 表現領域では、歌唱、器楽などに意欲的に取り組めるよう、個々のレベルに合わせた課題、時間設定します。 鑑賞では、ワークシートなどと用いて理解の深化を図ります。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	歌唱Ⅰ 外国の歌曲	発声の基礎を身につけ、高らかに歌う イタリア語、ドイツ語の発音を学び、曲に応じた表現を工夫する。 ・O sole mio ・Caro mio ben ・のぼら	【知識・技能】 独唱、合唱についての歌唱技術の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 歌う姿勢、歌唱の基本を理解し、工夫して表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的、協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
	歌唱Ⅱ ハーモニー作り 混声四部合唱	混声四部合唱の基礎 ・カデンツ ・Happy birthday 本校の校歌、歌詞をしっかりと理解し、3年間いつでも歌えるように覚える	【主体的に学習に取り組む態度】 主体的、協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
	読譜 4分の3、4分の4拍子のリズム 創作表現 音楽理論	読譜の基礎である、リズム譜が読めるようになる。 リズムアンサンブルの発表する。 楽典の基礎を学び、読譜の基本を学ぶ ・音名、調名、コードネーム、音程	【知識・技能】 リズム、音楽理論を理解し、読譜の能力を身につけている。 【思考・判断・表現】 リズム、音楽理論の基礎力を持ち、表現技術がある。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的、協働的に音楽理論の学習活動に取り組もうとしている。
	1学期のまとめ	歌唱のテストを行う。 音楽理論の確認を期末考査で行う。リズムの習熟度の応じたテストを行う。	
2 学期	歌唱Ⅲ 合唱	正確な音程感を持って、ハーモニーとバランスの工夫しながら合唱する。 ・おながく ・ぼくはぼく	【知識・技能】 読譜の知識を持ち、様々な音楽への理解がある。 【思考・判断・表現】 ハーモニーの美しさを感じ取り、表現を工夫しながら、合唱やアンサンブルに取り組んでいる。
	創作表現 読譜 8分の6拍子のリズム 鑑賞Ⅰ 音楽史	混声四部合唱をグループごとに工夫して演奏する 8分の6のリズム譜が読めるよう練習する。 各時代の音楽家の楽曲を鑑賞し、音楽の歴史を学ぶ。	【主体的に学習に取り組む態度】 主体的、協働的に学習活動に取り組もうとしている。
	器楽 ギターの実習 和楽器(三線)の弾き歌い 鑑賞Ⅱ 歌劇鑑賞	ギター演奏の基礎を学ぶ 美しい音色が出せるよう奏法を工夫する。 調絃や勘所の押さえ方など、三線の正しい奏法を身につけ、曲を演奏する。 総合芸術について学ぶ カルメンの鑑賞 楽曲の背景や歌劇の特色を理解して鑑賞する。	【知識・技能】 楽器の奏法を理解し、技能を習得している 【思考・判断・表現】 様々な知識を使って音楽の表現の工夫をしている 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に、協働的に器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている
	2学期のまとめ	合唱やギター実技のテスト、鑑賞曲のレポート提出等を実施する。	
3 学期	世界の音楽	世界の諸民族の音楽について学び、鑑賞する。	【知識・技能】 世界の音楽、日本の音楽について理解している。 演奏発表で身につけた技能を発揮できる。
	演奏発表	1年間の成果のまとめとして、個人またはグループで演奏を企画する。 奏発表でお互いに聴き合い、演奏する側、友達の演奏を聴く側の楽しみを味わう。 個人で選択した分野で、個々の能力に応じた演奏表現を工夫して発表する。	【思考・判断・表現】 自らのイメージをもって表現を創意工夫している。
	1年間のまとめ		【主体的に学習に取り組む態度】 主体的、協働的に自主的な学習活動に取り組もうとしている。

成績評価方法	【知識・技能】 音楽理論の筆記テストで理解度を、それぞれの単元で、実技による確認テストを行い評価します。 【思考・判断・表現】 独唱、合唱、器楽などの演奏への意欲、演奏の工夫、表現力を評価します。 【主体的に学習に取り組む態度】 毎時間の取り組み姿勢、グループ活動の協力姿勢や貢献度、提出物、試験への取り組みによって評価します。
--------	---

教 科	芸術	科 目	書道Ⅰ	学年・類型	1年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	-----	-------	-------	------	------	------	-----

使用教科書	東京書籍
副教材等	

学習目標	・中学校国語科書写との接続を図り、書道の基礎となる書写能力を高める。 ・書道の幅広い活動を通して、書に興味・関心を持ち、感性を豊かにし、生涯にわたって書を愛好する心情を育てる。 ・書表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。
授業の進め方、 学習方法	・作品制作、レポートやノートの提出を行う。 ・全日本高等学校書道コンクール(12月中旬)に選択者全員出品を予定している。 ※詳細は10月下旬、授業時に要項を配布し、説明を行う。 (授業時の作品を出品することにより、全国での各自のレベルの確認と作品制作への向上心や達成感を養うことを目的としている。)

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	一 はじめに	・文字を正しく整え読みやすく書く書写能力の基礎・基本を学習する。	【知識・技能】 「書写」と「書道」との関連について理解している。
	1 書写から書道へ	・「国語科書写」と「芸術科書道」との関連を学習する。	用具・用材の特徴と表現効果との関りについて理解している。
	2 姿勢と執筆法	・文字を書くときの姿勢や筆の持ち方を理解し、運筆法を学習する。	【思考・判断・表現】 書のよさや美しさを感じ、表現や構成方法を工夫している。
	3 用具・用材	・筆、墨、硯、紙などの用具・用材の特性を学習する。	【主体的に学習に取り組む態度】 正しく整えて書く書写と美の表現を理解し、書の幅広い表現学習に取り組もうとしている。
1学期	4 書の表現方法を学ぶ	・用筆や運筆による表現の違いや構成方法を理解し、学習する。 ・日本特有の文字（ひらがな、カタカナ）の字源を学習する。	
	二 漢字の書	・楷書の特徴を理解し、基本用筆を学習する。	【知識・技能】 書体や書風と用筆・運筆との関りについて理解している。
	1 書体の移り変わり	・唐時代の作品を臨書、鑑賞を行い、多様な書表現と技法を学習する。	古典に基づく基本的な用筆・運筆、線質・字形や構成を生かした表現の技法を身に付けている。
	2 楷書の古典を学ぶ	唐の四大家（虞世南、歐陽詢、褚遂良、顔真卿） ・北魏時代の作品を臨書、鑑賞を行い、多様な書表現と技法を学習する。 「牛橛造像記」「鄭義下碑」	【思考・判断・表現】 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形・全体の構成について構想し工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 それぞれの古典作品の表現を理解し、効果的臨書学習に取り組もうとしている。
	※ 暑中見舞い	・はがきの書き方、用途や知識を学習する。	
2学期	3 行書の古典を学ぶ	・行書の特徴を理解し、基本用筆を学習する。	【知識・技能】 書体や書風と用筆・運筆との関りについて理解している。
	4 草書の古典を学ぶ	・「蘭亭序」作品を臨書、鑑賞を行い、多様な書表現と技法を学習する。 ・草書の特徴を理解し、基本用筆を学習する。	古典に基づく基本的な用筆・運筆、線質・字形や構成を生かした表現の技法を身に付けている。
	5 隷書の古典を学ぶ	・「書譜」作品を臨書、鑑賞を行い、書表現と技法を学習する。 ・隷書の特徴を理解し、基本用筆を学習する。	【思考・判断・表現】 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形・全体の構成について構想し工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 それぞれの古典作品の表現を理解し、効果的臨書学習に取り組もうとしている。
	6 篆書の古典を学ぶ	・篆書の特徴を理解し、基本用筆を学習する。 ・「泰山刻石」作品を臨書、鑑賞を行い、書表現と技法を学習する。	【知識・技能】 「ひらがな」の字源や成立と日本の美意識を理解している。 仮名の基本用筆の技法を身に付けるとともに古典鑑賞による表現美を理解している。
2学期	三 仮名の書	・「ひらがな」48文字の字源や成立過程を学習する。	【思考・判断・表現】 用筆・運筆、字形・作品構成について分析し、仮名の美について理解し、作品制作時に工夫している。
	1 仮名の成立を学ぶ	・仮名の基本用筆を理解し、「ひらがな」48文字を学習する。	【主体的に学習に取り組む態度】 仮名作品の構成美を理解し、臨書学習に取り組もうとしている。
	2 仮名の基本を学ぶ	・「蓬萊切」作品を臨書、鑑賞を行い、書表現と技法を学習する。	
	※ 年賀状（寒中見舞い）	・はがきの書き方、用途や知識を学習する。	
3学期	四 漢字仮名交じりの書	・素材となる詩文の内容を理解し、表現方法を学習する。	【知識・技能】 「漢字仮名交じりの書」の書表現と効果的作品制作過程を理解している。
	1 漢字仮名交じりの書の表現を学ぶ	・創作過程を理解し、書体や字形を工夫して作品制作を学習する。	構成の効果的作品制作や用具・用材の特徴を生かした表現の技法を身に付けている。
	五 暮らしの中の書	・目的に応じた形式や好きな言葉を撰文し、意欲的に創作を体験する。	【思考・判断・表現】 素材となる詩文を自作もしくは撰文し、作品の効果的な工夫をしている。
	1 創作作品制作	・用筆・運筆、字形・余白の美など、作品構成について分析し、作品制作時に工夫している。	【主体的に学習に取り組む態度】 制作意図を明確にし、効果的な作品制作に取り組もうとしている。
	※ 篆刻	・落款印の制作を学習する。	
	※ マナー講座	・所作を含め一般的なマナーを学習する。	

成績評価方法	【知識・技能】用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関りについて理解している。 【思考・判断・表現】 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形・全体の構成について構想し工夫している。 書のよさや美しさを感じ、表現や構成方法を工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 書の表現および鑑賞の幅広い活動や効果的な作品制作に取り組もうとしている。 以下の内容で上記の評価規準を総合的に判断する。 ・作品制作(清書提出) ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・感想レポート、作品制作自己評価プリント、ノート
--------	--

教 科	芸術	科 目	美術 I	学年・類型	1年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	------	-------	-------	------	------	------	-----

使用教科書	光村図書 美術1
副教材等	なし

学習目標	美術の幅広い創造活動な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
授業の進め方、 学習方法	A表現 (1)絵画・彫刻 (2)デザイン (3)映像メディア表現 作品制作を通じ、材料・用具の特性への理解を深め、創意工夫し感性豊かに表現する。 B鑑賞 課題や作品毎の鑑賞やワークシート作成を通して、美術への関心・意欲を促すとともに、鑑賞の能力を培い、作品への理解を深める。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	オリエンテーション 日本の伝統工芸「折り紙」 デザイン 「ゼンタングルを用いて 学校案内の表紙絵を デザインする」	学習の意義、内容、心構え 鶴と烏をそれぞれ白と黒の紙で折って表現する。 太さの異なる黒色のペンだけでゼンタングルという技法を使い 校章や校舎などを取り入れ、自由にデザインし描く。 色鉛筆で着色してもよい。 最優秀作品は学校案内のパンフレットの表紙絵を飾る。	【知識・技能】 紙の特性を理解して丁寧に折る。 条件の通り、図柄や模様を正確に模写する。 【思考・判断・表現】 折り図を見ながら、完成イメージを想像して表現する。 絵や文字が引き立つようにバランスよく効果的に表現する。 ゼンタングルのよさを見つけ、自分なりにアレンジを加えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本の文化のよさを味わっている。資料や情報を集めている。 道具を使い分け、様々な描き方を工夫し丁寧に描いている。
	絵画 「モダンテクニックから 見えてきた心の風景を描く」	国内外で活躍した作家の作品を鑑賞し、作家や歴史的背景、抽象と具象絵画の表現について学ぶ。過去の生徒作品も鑑賞する。アクリルガッシュ絵具とビニール袋などを使って、デカルコマニーなどのモダンテクニックの技法を用いて、自由に描く。その後、作品をじっくり観察し、見えてきた心の風景を画面に描く。	【知識・技能】 作品のよさを感じたり、展示場所との関連性や必然性を考えるなど、作者の表現の意図を読み取っている。絵具の特性を理解し、形や色、筆の動きや強さの与える印象について知る。 【思考・判断・表現】 自らのドローイングから発想した印象や感情を、形や色、構図などの効果を考え、構想を練り表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 美術に対する考え方に関心をもち、情報や資料を集めようとしている。
	練習課題「切り絵」	型紙制作をする前に、切り絵を使いデザインナイフの練習をする。 日本の伝統工芸(染織)作品と身近に使用している染織作品を鑑賞する。	
2学期	夏休みの課題 「アート作品にふれる」 デザイン(工芸) 「道具をテーマに エコバッグの型染をする」	夏休みの期間、美術館やギャラリーへ行き、アート作品を鑑賞し、 展示場所・作品の内容・感想などをワークシートを記入し提出する。 スケッチをもとに構想したデザインを型紙に転写する。デザインナイフでデザインした型紙を切り抜き、型を完成させる。バッグに型を自由に配置し、染料とブラシで染める。金と銀色は、専用フィルムとバインダー液をアイロンで貼り合わせる。完成後、タイトルと感想を記入する。	【知識・技能】 日本の伝統的な表現の特質や様式を考え、色に対する理解を深める。試作品から染料と顔料の違いを知り、型染のおもしろさをみつけデザインを考える。 【思考・判断・表現】 モチーフ形、質感、明暗など細部まで表現している。素材や用途、美しさの調和を考え、染色技法を工夫して表現制作している。造形用途としてテクスチャーの重要性について理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 身の回りの道具に興味をもち、デザインや機能美をみつける。デザインの表現活動に計画的に取り組んでいる。
	彫刻 粘土による塑像 「テーマに沿って 鉛筆キャップを作る」 鑑賞 「作品をカメラで撮る」	テーマについてと情報を収集し、それを参考に、想像上の生物を生み出す。 鉛筆キャップとして使えるようにする、またカプセルケースに入る大きさで作る。 ワークシートやアイデアスケッチを参考にしながら、石粉粘土の特性を生かし、 形や質感を塑像し、彫刻刀や紙やすりで成形して、アクリル絵具で着色する。 完成した作品は校内の好きな場所に飾り、カメラで写真を撮り、作品と一緒に展示する。 他の生徒の作品を鑑賞し、他者の作品の思いや表現の工夫を感じ取る。	【知識・技能】 参考作品や生徒作品をみて、課題内容を把握し、その多様性を理解する。 【思考・判断・表現】 制作手順や道具を工夫し、形色にこだわり、独創的な表現している。素材の特性をうまく生かして制作している。 【主体的に学習に取り組む態度】 テーマについて情報を収集し、魅力を感じている。必要な道具、材料を準備している。 作品と制作工程、作家の考えなどから魅力を世界観を感じ取り、言葉にする。
3学期	デザイン 「お菓子のパッケージを デザインする」	実際に市販されているお菓子のパッケージデザインから、人に伝えるための図柄や色、言葉やフォントの工夫について、調査、分析する。 調査、分析をもとにコンセプトとターゲットを設定し、デザインをする。 展開図をアートポスト紙に製図し、デザインを考えアクリルガッシュ絵具で着色し組み立てて完成させる。 制作過程で工夫したところを伝え合い、 他の生徒の作品を鑑賞し、他者の作品の思いや表現の工夫を感じ取る。	【知識・技能】 生活や社会を豊かにするデザインの働きについて知り、目的や意図に応じて視覚的な表現方法を工夫している。 【思考・判断・表現】 紙のパッケージの構造を理解し、既存のデザインをもとに創造的な構想を練っている。またコンセプトとターゲットに合った表現である。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近なパッケージデザインに関心をもっている。 資料を集め、情報を整理し、表現に役立たせている。 鑑賞から、有名な作家の作品を見て、新しい発見をしている。
	鑑賞 「キネティックアート」	作品の解説書と感想を記入、作品を展示鑑賞し批評する。 DVD「テオ・ヤンセン ストランドビースト」とミニ模型を観て、ワークシートに記入。	

成績評価方法	【知識・技能】 造形の要素や特徴、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。意図に応じて材料や用具を準備し、特性を生かして活用する。表現方法を創意工夫し、主題を追及して創造的に表現している。 【思考・判断・表現】 自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や創造などから主題を生成している。表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。
--------	--

教 科	家庭	科 目	家庭基礎	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる(第一学習社)
副教材等	生活ハンドブック(第一学習社)

学習目標	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を想像する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するするなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 ・様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。	
授業の進め方、学習方法	・実習・体験学習を行いやすいように2時間連続の形態で授業を行い、考察・記録・感想・今後の課題をまとめ、さまざまな視点から考えられる力を養う。 ・ワークシートの最後に学習事項の確認、単元終了時の確認プリント、調理実習や基礎的な実技の確認により知識・技能を習得し生活の質の向上を目指す。 ・自作のプリントを用いて授業を進め、持続可能な社会を実現するためにできることを考察し表現する力を身につける。 ・夏期休暇には、ホームプロジェクトに取り組み、自己の生活の課題を見つけ解決を目指して計画を立て、実施、検証を行い、課題解決力を身につける。	

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	【1】これからの生き方と家族	①生涯の生活設計 ・生涯発達する自分 ・青年期を生きる ・キャリアの形成 ・ワーク・ライフ・バランスを求めて ②家族・家庭と社会のかかわり ・家族・家庭・世帯 ・家族・家庭の働き ・パートナーと出会う ・結婚と変化する家族 ・家族に関する法律	【知識・技能】 人生の各ライフステージの特徴と課題や社会状況を習得する。 【思考・判断・表現】 自分や、人の一生についての考えを表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 現在の自分のこと、将来の生活設計に積極的に取り組む。
	【2】次世代をはぐくむ	①子どもの発達 ・次世代をはぐくむ ・命のはじまり ・乳幼児の心と体の発達 ②子どもの生活 ・親と子のかかわり ・乳幼児の生活と安全 ・子どもの成長と遊び ③子育て支援と福祉 ・地域社会と子育て支援 ・未来を担う子どもの権利	【知識・技能】 子どもの心身の発達や生活についての知識、子どもとの接し方についての知識を習得する。 【思考・判断・表現】 子どもとふれあう体験学習での課題や社会で子育てをする意義や現在の子育ての環境について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・子どもの世界や生命の尊さ、子どもをとりまく状況についての学習に積極的に臨む。 ・子どもとふれあう体験学習や、子どものためのおもちゃづくりについての学習に積極的に取り組む。
	【3】衣生活をつくる	①人の一生と被服 ・私たちの衣生活 ・被服の機能 ・被服の選び方 ②被服材料と管理 ・被服の素材 ・洗濯方法、しくみと表示 ・被服の手入れと保管 ③これからの衣生活 ・衣文化の継承と創造 ・持続可能な衣生活	【知識・技能】 ・衣服材料の性能と特徴の知識、計画的な衣生活を営む知識を習得する。 ・基礎縫いなどの縫製技術を習得する。 【思考・判断・表現】 エシカルな衣生活について実践的な行動を表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 基礎縫いの確認のための実習や、学習の取り組みに積極的に臨む。
2 学期	【4】住生活をつくる	①人の一生と住まい ・私たちと住まい ・平面図の活用 ・長く住み続けるために ・生涯を見通した住まいの工夫 ②住生活の計画と選択 ・快適で健康な住まい ・安全で安心な住まい ・持続可能な住まい ・住まいと地域社会のかかわり	【知識・技能】 地域の特性を生かした住まいの役割、日本独特の住まいの特徴、住まいの機能・役割、健康的な住まい、住まいの安全対策などに関する知識を習得する。 【思考・判断・表現】 ・現代のライフスタイルやライフステージに応じた住空間の設計の関係や住環境について間取り図を作成し、考察する。 ・安全な住まいづくりや、快適な住環境のために、周りの環境とも関係していることを考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 住まいの機能、住空間の計画や住環境について積極的に学習に臨む。
	【5】食生活をつくる	①人の一生と食事 ・私たちと食事 ・健康に配慮した食生活 ・食生活の変化 ・持続可能な食生活 ②食生活の安全 ・食中毒の種類と予防法 ③栄養と食品 ・人体と栄養 ・炭水化物 ・脂質 ・たんばく質 ・無機質 ・ビタミン ・嗜好食品と健康増進のための食品 ・食品の選択と保存	【知識・技能】 ・栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を習得する。 ・食中毒の予防法や、食品添加物についての知識を習得する。 ・栄養・食品・調理に関する基礎的な知識、日常の食事づくりに必要な調理技術を習得する。 【思考・判断・表現】 食中毒予防、食料問題、現在の日本の食生活における課題解決の方法について考察する。 ・食品選択、栄養計算や献立作成をする。 ・調理実習において、衛生面や効率を考えて作業を計画立案する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食中毒予防の方法、食料問題について臨む学習に積極的に取り組む。 ・栄養・食品・調理実習に積極的に臨む。
	【6】ホームプロジェクト	生活の現状について調べ、各自が家庭できることを考えて実践する。	【知識・技能】 各自の生活について現状について記述する。 【思考・判断・表現】 調べた現状を客観的に判断し、それをもとに家庭で解決につながることを計画、実践、成果の自己評価し、それをもとに今後も続けて行ける課題を論理的に指摘する。 【主体的に取り組む態度】 提出されたレポート、発表し、その後のディスカッションに積極的に臨む。

教 科	家 庭	科 目	家庭基礎	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
使用教科書	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる(第一学習社)								
副教材等	生活ハンドブック(第一学習社)								
学習目標	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を想像する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するするなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 ・様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。								
授業の進め方、学習方法	・実習・体験学習を行いやすいように2時間連続の形態で授業を行い、考察・記録・感想・今後の課題をまとめ、さまざまな視点から考えられる力を養う。 ・ワークシートの最後に学習事項の確認、単元終了時の確認プリント、調理実習や基礎的な実技の確認により知識・技能を習得し生活の質の向上を目指す。 ・自作のプリントを用いて授業を進め、持続可能な社会を実現するためにできることを考察し表現する力を身につける。 ・夏期休暇には、ホームプロジェクトに取り組み、自己の生活の課題を見つけ解決を目指して計画を立て、実施、検証を行い、課題解決力を身につける。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
3学期	【7】充実した生涯へ 【8】ともに生きる	・超高齢社会を生きる ・人生の中で高齢期をとらえる ・高齢期の生活 ・加齢社会を支える ・充実した高齢期へ ・社会保障制度と社会的連帯 ・人の多様性と社会参加	【知識・技能】 ・高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴、高齢者と接し方を習得する。 ・社会保障制度の仕組みを習得する。 【思考・判断・表現】 高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立を支援することについて考察する。 【主体的に取り組む態度】 福祉や介護について学習に積極的に臨む。
	【9】経済生活をつくる 【10】経済的に自立する	①私たちの暮らしと経済 ・人生とお金 ・収入と支出のバランス ・将来の経済生活を考える ②消費者問題を考える ・契約とは ・消費者問題はなぜ起こるのか ・多様化する支払方法とリスク防止 ・消費者の自立と行政の支援 ③持続可能な社会をめざして ・消費生活と持続可能な社会 ・消費者市民社会をめざして	【知識・技能】 契約、消費者の権利と責任、現代の消費生活の課題、家庭生活と資源・環境との関係についての知識を習得する。 【思考・判断・表現】 ・消費行動と環境とのかかわりについて、生活と関連させながら課題をみつけ、解決の方向性を表現する。 ・環境に関する現状から、生活におけるより良い消費行動について表現する。 ・生活設計と将来の働き方や生き方についての考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分が一消費者であることを自覚し、物・サービスの購入のあり方や、消費行動、消費と環境とのかかわりについて積極的に学習に臨む。

成績評価方法	【知識・技能】 定期考査での知識の習得、実習操作、実技テトでの技能の習得、実習でので判断する。 【思考・判断・表現】 実習・体験学習などのレポート、定期考査でのグラフや表などの資料の読み取りや応用的な内容、授業中の議論内容、ワークシートの考察から判断する。 ホームプロジェクト 【主体的に学習に取り組む態度】 出席状況や、授業・実習・体験学習などに取り組む姿勢で判断する。
--------	--

教 科	保健体育	科 目	保健	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	1単位
-----	------	-----	----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	現代高等学校保健体育(大修館)
副教材等	なし

学習目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 ①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 ②健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 ③生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。
授業の進め方、 学習方法	教科書や、パワーポイントを使用して、それぞれの単元の内容を講義していく。授業時のレポートやノートの提出がある。単元の内容に関連した時事問題を教材として扱うこともある。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康	・私たちが生きている現代社会の健康水準や健康について学ぶ。さらに個人の行動と社会の活動が私たちの健康にどのようにかわっているかについても学ぶ。 ・健康を保持増進し、がんや生活習慣病を予防していくには、食事・運動・休養・喫煙・飲酒といった生活習慣を適切なものにしていく必要があることや薬物乱用と健康についても学ぶ。	【知識・技能】 それぞれの単元において、健康を保持増進するには、適切な生活行動を選択し、実践すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解し、個人生活及び社会生活の健康や安全について課題解決に役立つ知識を身につけているか。
2学期	現代社会と健康 9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患からの回復 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	・薬物の乱用が心身の健康や社会におよぼす影響について理解する。 ・うつ病や総合失調症などの精神疾患の特性や原因、また予防、回復について学ぶ。 ・コロナ、結核、腸管出血性大腸菌感染症やエイズ他、性感染症など、近年、感染症の新たな問題が起こっていること、およびその予防には社会的な対策とともに個人の適切な行動が必要であることを理解する。感染症とその予防といった問題についても学ぶ。 ・意志決定・行動選択の重要性や影響する要因、必要なことを理解する。	【思考・判断・表現】 それぞれの単元において健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や体験、資料や仲間の意見や考え方などを参考にしたりして、課題の設定や解決方法を考え判断できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 それぞれの単元において健康の保持増進に必要な事柄について、関心を持ち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したり、課題をについて調べたりして、意欲的に学習しようとしているか。
3学期	安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	・わが国の交通事故の現状を知るとともに、事故の原因と対策、および交通社会で必要とされる資質と責任について学ぶ。 ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会環境を作るためには、一人一人が応急手当の手順や方法を身に付け、自ら進んで行う態度を養うことが必要であることを理解する。	

成績評価方法	【知識・技能】 定期考査、授業の観察など 【思考・判断・表現】 定期考査、レポートやノート提出など 【主体的に学習に取り組む態度】 発表など 上記より、平常の学習活動全般から得られる資料に基づき、教科「保健」の目標及び内容に沿って多面的・総合的に行う。
--------	--

教 科	保健体育	科 目	保健	学年・類型	2年全員	履修形態	全員履修	授業時数	1単位
-----	------	-----	----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	現代高等保健体育(大修館)
副教材等	なし

学習目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 ①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 ②健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 ③生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。
授業の進め方 学習方法	教科書や、パワーポイントを使用して、それぞれの単元の内容を講義していく。授業時のレポートやノートの提出がある。 単元の内容に関連した時事問題を教材として扱うこともある。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	3 生涯を通じる健康 ①ライフステージと健康 ②思春期と健康 ③性意識と性行動の選択 ④妊娠・出産と健康 ⑤避妊法と人工妊娠中絶 ⑥結婚生活と健康 ⑦中高年期と健康	・生涯を通じて健康に生きていくために、現在、私たちが生きて いく上でどのような健康問題があるのか、またそれらにどのように対処していけばよいのかを学ぶ。 ・性意識や性的欲求は男女で異なることを理解し、異性を尊重する態度を身につける。 ・性に関する正しい情報を選び、自分の意志と判断で行動することを理解する。 ・妊娠中や出産後の健康管理の重要性や配慮すべきことについて理解を深める。 ・望まない妊娠をしないことを学ぶ。 ・加齢にともない、心身が変化することを形態面および機能面から理解できるようにする。 ・わが国の世界一の高齢化の早さの現状を知り、高齢者のための社会的取り組みについて学習する。	3 生涯を通じる健康 【知識・技能】 生涯の各段階における健康課題や保健・医療機関の活用などについて理解し、課題解決に役立つ知識を身につけているか。 【思考・判断・表現】 生涯の各段階における健康の課題や自己管理の重要性、保健・医療の機関の活用について、自分の学習や経験を元にしたり、資料や仲間の意見や考えなどを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考え、判断できるか。
2学期	3 生涯を通じる健康 ⑧働くことと健康 ⑨労働災害と健康 ⑩健康的な職業生活 4 健康を支える環境づくり ①大気汚染と健康 ②水質汚濁・土壌汚染と健康 ③環境と健康に関わる対策 ④ごみの処理と上下水道の整備 ⑤食品の安全性	・働くことの意義と健康とのかかわり及び働き方や働く人の健康問題の変化について理解できるようにする。 ・労働災害の種類とその原因についてや労働災害を防止するために必要なことを学習する。 ・職場がおこなう健康に関する取り組みや余暇を積極的にとることの意義についての理解を深める。 ・大気汚染の原因と健康への影響と健康問題について学習する。 ・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響について学習する。 ・環境汚染による健康被害を防ぐ方法や産業廃棄物の処理について理解を深める。 ・ごみの処理の現状やその課題、上下水道のしくみと健康にかかわる課題について理解を深める。 ・食品の安全性と健康とのかかわりや今日の課題について学習する。	【主体的に学習に取り組む態度】 生涯の各段階における健康の課題に応じた自己の健康管理の必要性及び保健・医療機関の活用について関心を持ち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したり、課題について調べたりして、意欲的に学習しようとしているか。 4 健康を支える環境づくり 【知識・技能】 学校や地域、労働の環境を健康に適したものにするこ、食品の安全性を確保する必要があることを理解し、課題解決に役立つ知識を身につけているか。 【思考・判断・表現】 環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について、自分の学習や経験をもとにしたり、資料や仲間の意見や考え方を参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考え、判断できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 環境と健康、環境と食品の健康、労働と健康について関心を持ち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したり、課題について調べたりして、意欲的に学習しようとしているか。
3学期	4 健康を支える環境づくり ⑥食品衛生にかかわる活動 ⑦保健サービスとその活用 ⑧医療サービスとその活用 ⑨医薬品の制度とその活用 ⑩さまざまな保健活動や社会的対策 ⑪健康に関する環境づくりと社会参加	・食品の安全性を確保するための行政や製造者、個人の役割について学習する。 ・保健行政の役割や保健サービスについて理解を深める。 ・わが国における医療保険や医療機関の役割について学習する。 ・医薬品の正しい使用法や安全性を守る取り組みについての理解を深める。 ・国際機関・民間機関などの保健活動や社会的対策について学習する。 ・健康の保持増進のための環境づくりについての理解を深める。	

成績評価方法	【知識・技能】 定期考査、授業の観察など 【思考・判断・表現】 定期考査、レポートやノート提出など 【主体的に学習に取り組む態度】 発表など 上記より、平常の学習活動全般から得られる資料に基づき、教科「保健」の目標及び内容に沿って多面的・総合的に行う。
--------	--

教 科	保健体育	科 目	体 育	学年・類型	1 年全員	履修形態	全員履修	授業時数	3 単位
-----	------	-----	-----	-------	-------	------	------	------	------

使用教科書	なし
副教材等	ステップアップ高校スポーツ(大修館)

学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ①運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。 ②生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力するなどの意欲を育て、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
授業の進め方、学習方法	生徒が運動領域・種目の選択を行う選択制授業を展開している。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	I ソフトボール（男） ハンドボール（女） バドミントン(男女) 卓球（男女） 柔道（男女）	●柔道 武道の歴史・礼法・受け身(各種)・体さばき 「技」(固め・投げ・寝技)・打ち込み・かかり練習 乱取・試合 など ●ダンス 基本的な運動要素(走る・伸びる・縮む・ジャンプ・ターン・転がる)・リズムダンス・イメージダンス(即興) 創作ダンス・発表会の企画、運営 ●バレーボール パス・サーブ・レシーブ・スパイク ゲーム運営(戦術)など ●ソフトボール スローイング・キャッチング・バッティング・フットワーク ゲーム運営(戦術) など ●ハンドボール ドリブル・シュート(ジャンプ・ステップ)・各種パス 各種フォーメーション(戦術) など ●テニス サーブ・ボレー・ストローク・ハーフコートラリー ミニゲーム(シングルス・ダブルス) など ●卓球 フォアハンド・バックハンド・ストローク・サーブ シングルスゲーム・ダブルスゲーム など ●水泳 クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ クイックターン・メドレー など ●器械運動 マット運動(回転系・巧技系)・演技の構成など ●バドミントン ストローク(オーバーヘッド・サイドアーム・アンダーアーム) サービス(ロング・ショート)・フライト(ハイクリア・ドロップ・スマッシュ・ドライブなど)・簡易ゲーム・ゲーム など ●サッカー 各種トラップ・各種パス・各種シュート・3対1、4対1、5対5のミニゲーム、ゲーム など ●バスケットボール ドリブル・シュート(ジャンプ・レイアップ)・各種パス 各種フォーメーション(戦術) など ●陸上競技 ハードル走(50m) ハードリング・インターバル・50m・記録測定 など ●ラグビー(タグラグビー) 各種パス、1対1、2対1、サインプレー、ミニゲームなど	
	II 水泳（男女） 器械運動（男女） 陸上競技（男女） ダンス（男女）		
2 学期	III ソフトボール（女） ハンドボール（男） バスケットボール(女) バレーボール（男） テニス（男女）		【知識・技能】 ・各種目それぞれの特性を理解し、言語技術を活用して説明することができる。 ・競技方法やルールについて理解しているか。 ・技能を実践の場において総合的に発揮することができる。 【思考・判断・表現】 ・各種目それぞれについての特性を理解し、それぞれの課題に応じて練習できているか。 ・実践の場において成果をだすための的確な判断ができているか 【主体的に学習に取り組む態度】 - 各種目それぞれについての関心を持ち、意欲的に取り組む態度が身についているか。
	IV サッカー（男） ラグビー（女） バスケットボール(男) バレーボール（女） テニス（男女）		
3 学期	V サッカー（女） ラグビー（男） バドミントン（男女） 卓球（男女） 柔道（男女）		

成績評価方法	【知識・技能】 能力を最大限に発揮し運動を行っているか。それぞれの運動種目の技能を身につけることができるか。 それぞれの運動種目の特性、ルールを理解し行動することができるか。 【思考・判断・表現】 的確に状況を判断し、互いに協力して安全に運動を行うことができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 各運動に意欲を持って取り組んでいるか。積極的に取り組んでいるか。 上記の観点より、学習活動、技能テスト、課題レポート(学習ノート含む)を総合的に評価します。
--------	---

教 科	保健体育	科 目	体 育	学年・類型	2年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	------	-----	-----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	なし
副教材等	ステップアップ高校スポーツ(大修館)

学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ①運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。 ②生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力するなどの意欲を育て、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
授業の進め方、学習方法	生徒が運動領域・種目の選択を行う選択制授業を展開している。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	I ソフトボール (女) バスケットボール (男) ラグビー (女) バレーボール (男) テニス (男女)	●柔道 武道の歴史・礼法・受け身(各種)・体さばき 「技」(固め・投げ・寝技)・打ち込み・かかり練習 乱取・試合 など ●ダンス 基本的な運動要素(走る・伸びる・縮む・ジャンプ・ターン・転がる)・リズムダンス・イメージダンス(即興) 創作ダンス・発表会の企画、運営 ●ソフトボール スローイング・キャッチング・バッティング・フットワーク ゲーム運営(戦術) など ●ハンドボール ドリブル・シュート(ジャンプ・ステップ)・各種パス 各種フォーメーション(戦術) など	
	II 水泳 (男女) 器械運動 (男女) 陸上競技 (男女) ダンス (男女) 柔道 (男女)		
2学期	III バドミントン (女) 卓球 (男女) テニス (女) ソフトボール (男) ハンドボール (男)	●テニス サーブ・ボレー・ストローク・ハーフコートラリー ミニゲーム(シングルス・ダブルス) など ●卓球 フォアハンド・バックハンド・ストローク・サーブ シングルスゲーム・ダブルスゲーム など ●水泳 クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・パタフライ クイックターン・メドレー など ●器械運動 マット運動(回転系・巧技系)・演技の構成など ●バドミントン ストローク(オーバーヘッド・サイドアーム・アンダーアーム)サーブ(ロング・ショート)・フライト(ハイクリア・ドロップ・スマッシュ・ドライブなど)・簡易ゲーム・ゲーム など ●バレーボール パス・サーブ・レシーブ・スパイク ゲーム運営(戦術)など ●サッカー 各種トラップ・各種パス・各種シュート・3対1、4対1、5対5のミニゲーム、ゲーム など ●バスケットボール ドリブル・シュート(ジャンプ・レイアップ)・各種パス 各種フォーメーション(戦術) など	【知識・技能】 ・各種目それぞれの特性を理解し、言語技術を活用して説明することができるか。 ・競技方法やルールについて理解しているか。 ・技能を実践の場において総合的に発揮することができるか。 【思考・判断・表現】 ・各種目それぞれについての特性を理解し、それぞれの課題に応じて練習できているか。 ・実践の場において成果をだすための的確な判断ができているか 【主体的に学習に取り組む態度】 各種目それぞれについての関心を持ち、意欲的に取り組む態度が身についているか。
	IV バドミントン (男) テニス (男) 卓球 (男女) ハンドボール (女) サッカー (女)		
3学期	V バレーボール (女) 卓球 (男女) バスケットボール (女) サッカー (男) ラグビー (男)	●陸上競技 ハードル走、跳躍(走幅跳、走高跳)、投擲(円盤投) ●ラグビー(タグラグビー) 各種パス、1対1、2対1、サインプレー、ミニゲームなど	

成績評価方法	【知識・技能】 能力を最大限に発揮し運動を行っているか。それぞれの運動種目の技能を身につけることができるか。 それぞれの運動種目の特性、ルールを理解し行動することができるか。 【思考・判断・表現】 的確に状況を判断し、互いに協力して安全に運動を行うことができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 各運動に意欲を持って取り組んでいるか。積極的に取り組んでいるか。 上記の観点より、学習活動、技能テスト、課題レポート(学習ノート含む)を総合的に評価します。
--------	---

教 科	保健体育	科 目	体 育	学年・類型	3年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	------	-----	-----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	なし
副教材等	ステップアップ高校スポーツ(大修館)

学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ①運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。 ②生涯にわたって運動を継続するための課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む態度や、互いに協力する意欲を育て、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。
授業の進め方、学習方法	生徒が運動領域・種目の選択を行う選択制授業を展開している。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	Ⅰ ハンドボール (男女) サッカー (男女) テニス (男女) 卓球 (男女) バドミントン (男女)	●バレーボール パス・サーブ・レシーブ・スパイク ゲーム運営(戦術)など ●ソフトボール スローイング・キャッチング・バッティング・フットワーク ゲーム運営(戦術) など ●ハンドボール ドリブル・シュート(ジャンプ・ステップ)・各種パス 各種フォーメーション(戦術) など ●テニス サーブ・ボレー・ストローク・ハーフコートラリー ミニゲーム(シングルス・ダブルス) など ●卓球 フォアハンド・バックハンド・ストローク・サーブ シングルスゲーム・ダブルスゲーム など ●バドミントン ストローク(オーバーヘッド・サイドアーム・アンダーアーム) サービス(ロング・ショート)・フライト(ハイクリア・ドロップ・スマッシュ・ドライブなど)・簡易ゲーム・ゲーム など ●サッカー 各種トラップ・各種パス・各種シュート・3対1、4対1、5対5のミニゲーム、ゲーム など ●バスケットボール ドリブル・シュート(ジャンプ・レイアップ)・各種パス 各種フォーメーション(戦術) など ●陸上競技 長距離走	【知識・技能】 ・各種目それぞれの特性を理解し、言語技術を活用して説明することができる。 ・競技方法やルールについて理解しているか。 ・技能を実践の場において総合的に発揮することができる。 【思考・判断・表現】 ・各種目それぞれについての特性を理解し、それぞれの課題に応じて練習できているか。 ・実践の場において成果をだすための的確な判断ができているか 【主体的に学習に取り組む態度】 ・各種目それぞれについての関心を持ち、意欲的に取り組む態度が身についているか。
	Ⅱ バレーボール (男女) 卓球 (男女) ソフトボール (男女) バスケットボール (男女)		
2学期	Ⅲ バレーボール (男女) テニス (男女) 卓球 (男女) サッカー (男女) バスケットボール (男女)		
	Ⅲ 持久走		
3学期			

成績評価方法	【知識・技能】 能力を最大限に発揮し運動を行っているか。それぞれの運動種目の技能を身につけることができるか。 それぞれの運動種目の特性、ルールを理解し行動することができるか。 【思考・判断・表現】 的確に状況を判断し、互いに協力して安全に運動を行うことができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 各運動に意欲を持って取り組んでいるか。積極的に取り組んでいるか。 上記の観点より、学習活動、技能テスト、課題レポート(学習ノート含む)を総合的に評価します。
--------	---

教 科	情 報	科 目	情 報 I	学年・類型	2 年 全 員	履修形態	全員履修	授業時数	2 単位
使用教科書	高等学校情報 I（数研出版）								
副教材等	新課程高等学校情報 I サポートノート（数研出版）								
学習目標	(1)効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。								
授業の進め方、 学習方法	教科書の各編・各章ごとの理解を深めるとともに、問題の捉え方、解決のために情報機器・技術を活用する力を身に付けていく。問題に向き合い自己の思考を深めるとともに、他者とのコミュニケーションの中で理解、思考を深めていく能力を身に付ける。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	第1編 情報社会の問題解決 第1章 情報とメディア 第2章 情報社会における法とセキュリティ 第3章 情報技術が社会に及ぼす影響	・情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。 ・問題解決の目的や状況に応じて、情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考える。 ・情報社会でよりよく生きるために、情報に関する法規・制度や情報社会における個人の責任、情報モラルにもとづいた行動について理解する。 ・著作権などの知的財産権の保護の必要性とともに、そのために必要な法規及び個人の責任について理解する。 ・情報社会の問題点をふまえ、情報セキュリティの重要性を理解させるとともに、ユーザ認証やアクセス制御などの技術、セキュリティ対策の方法を理解する。	【知識・技能】 情報や情報メディアの特性をふまえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身につけている。 【思考・判断・表現】 情報に関する法規や制度およびマナーの意義、情報社会において個人のはたす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的にとらえ、考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。
	第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第1章 情報のデジタル表現 第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 第3章 情報デザイン	・情報のデジタル化の基礎的な知識と技術として、ビットの概念、2進法による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解する。 ・デジタル情報のデータ圧縮の原理と具体例について学習する。 ・情報伝達のメディアの性質を科学的に理解させるとともに、情報をわかりやすく表現し効率的に伝達するために、適切な情報機器やメディアを選択し利用する方法を身に付ける。 ・情報デザインの考え方や方法を表現する技能を身に付ける。	【知識・技能】 メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷もふまえて科学的に理解している。 【思考・判断・表現】 コンピュータで扱われる情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行うおうとしている。
2 学期	第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ 第2章 プログラミング 第3章 モデル化とシミュレーション	・コンピュータや外部装置の基本的なしくみや特徴を学習する。 ・OSやアプリケーションプログラムなどのソフトウェアの基本的な機能を理解する。 ・コンピュータで扱われる数や情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考える。 ・問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を身に付ける。 ・アルゴリズムを考え、プログラミングを行う過程において、それらを評価し改善していく力を身に付ける。 ・目的に応じたモデル化やシミュレーションを行い、その結果をふまえて問題を適切に解決する方法を考える。	【知識・技能】 プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法を理解し、技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現、プログラミングにより、その過程を評価し改善している。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な問題を解決するプログラムをもとに、評価、改善することを通して、情報社会に主体的に参画しようとしている。
	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ 第2章 データベース 第3章 データの分析	・情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルの役割について学習する。 ・通信の信頼性や情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解する。 ・データベースの概念及びデータベース管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて学習する。 ・データを表現・蓄積するためのデータの形式に関する知識と、データの収集、整理、分析する方法について理解する。 ・データの収集、整理、分析の方法や、その結果を表す方法を適切に選択するとともに、それらについて評価し改善する力を身に付ける。	【知識・技能】 情報通信ネットワークのしくみ、プロトコルの役割および情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解している。 【思考・判断・表現】 目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法について考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。
3 学期	巻末実習 総合問題	・単元ごとの問題・課題を横断的、総合的に考察する視点を身に付ける。 ・個別の情報技術、理論を複合的に利用する技術について理解する。	【知識・技能】 分析するために必要なプログラムやアルゴリズムを理解し、技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 課題に応じたデータの分析を判断、選択し利用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報機器や技術と社会の問題とを有機的に結び付け、考察しようとしている。

成績評価方法	【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】 授業内で考察する課題についての取り組み、定期考査等をもとに総合的に評価する。
--------	---

教 科	理数	科 目	理数探究基礎	学年・類型	1年特色類型以外	履修形態	全員履修	授業時数	1単位
使用教科書	数研出版「理数探究基礎」								
副教材等	なし								
学習目標	2学年で取り組む探究活動にむけて、7つのテーマを設定し、3時間ごとの講義および実習をおこなう。								
授業の進め方、 学習方法	2学年で取り組む探究活動にむけて、7つのテーマを設定し、3時間ごとの講義および実習をおこなう。 それぞれのテーマがミニ探究活動となっており、実践を通じて探究活動の要諦をつかむ。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	I. テーマの設定 仮説を立てる	①ブレインストーミングの取り組み方 ・ブレインストーミングの手法と環境について ・マインドマップをもちいた課題設定と解決方法の模索 ・成果発表 ②先行研究へのあたり方、文献調査 ・興味のある分野の研究をCiNiiで検索する ・研究の手法をCiNii等を用いて学ぶ ・調べた内容を発表する	別添のルーブリックによる
	II. 実験・観察・調査に関する 基本操作 計画を立てる	③はかる ・測定値、有効数字、単位の理解 ・金属ワッシャーの密度測定、物質の同定 ④観察と実験計画 ・共通性と多様性に着目した植物観察 ～花とは何か？～ ・生物試料の違いによる酵素活性の定量比較の実験計画作成 ・実験計画に沿った実験実施、および実験内容の考察	
2学期	III. 結果の分析	⑤データの代表値・分散と標準偏差 ・データの整理(度数分布・ヒストグラム) ・データの代表値(平均値・中央値・最頻値) ・分散と標準偏差・データの相関	
	3学期	⑥「データ整理」実習 ・データから必要なものを取り出す ・PCをもちいたデータ処理	
IV. 成果を発表する		⑦口頭発表スライドのつくり方 ・パワーポイントの使い方 ・見やすいスライドとはなにか ・実践発表	

成績評価方法	各テーマにおける取り組み状況、およびパフォーマンス課題を別添のルーブリックに照らし、観点別に評価をおこなう。 通知表による評価のフィードバックは学年末におこなう。
--------	--

理数探究基礎ルーブリック

	A	B	C
知識・技能	講座で取り組んだ知識や技能が、十分に身についた	講座で取り組んだ知識や技能が、十分ではないが身についた	講座で取り組んだ知識や技能が、身についたとは言えない
思考・判断・表現	講座で取り組んだ内容を用いて、適切に思考・判断・表現できる	講座で取り組んだ内容を用いて、十分ではないが一定程度、思考・判断・表現できる	講座で取り組んだ内容を用いて、思考・判断・表現できるとは言えない
主体性	講座で実施された内容に、主体性をもって取り組んでいた	講座で実施された内容に、十分ではないものの意思をもって取り組んでいた	講座で実施された内容への取り組みの際、意識が感じられなかった

教 科	理数	科 目	理数探究基礎(探究入門)	学年・類型	1年特色類型	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
使用教科書	数研出版「理数探究基礎」								
副教材等	なし								
学習目標	探究活動を行うにあたって、適切な課題や問いをみつける力を養い、その研究をすすめる様々な手段を学び、成果を世界に向けて発信する力を身につける。最終的には、2年次より行う探究活動のために適切な課題設定を行う。								
授業の進め方、 学習方法	目的に応じた外部講師の講義を受け、そのフィードバック授業を受ける。講義の後には内容のまとめとそれぞれの講義に応じた課題を行い、身につけるべき力を自覚することで、探究活動の要諦をつかむ。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	序論 探究を始める前に		【知識・技能】 授業に対する取り組み状況、授業ごとに提出する課題のうち、知識・技能に関するものにより評価を行う。 【思考・判断・表現】 授業に対する取り組み状況、授業ごとに提出する課題のうち、思考・表現・判断に関するものにより評価を行う。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に対する取り組み状況、授業ごとに提出する課題のうち、主体的に学習に取り組む態度に関するものにより評価を行う。
	第1章 科学とは	・探究が開く世界への扉	
	第2章 探究するうえでの心構え	・探究テーマについて考える ・外部講師「英語パブリック・スピーチとプレゼンテーションの技法」 ・外部講師「心の社会・文化依存症」 ・外部講師「科学史ってなんだろう」	
	第1編 探究の流れ		
	第1章 テーマの設定	・レポートの書き方レクチャー	
	第2章 仮説を立てる	・探究テーマについて考える	
	第3章 計画を立てる	ブレインストーミング、マインドマップを用いた課題設定と解決方法	
	第4章 結果の分析	ディスカッションの進め方、トゥーミンモデルについて	
	第5章 成果をまとめる	・外部講師「アントレプレナーシップと課題の見つけ方」	
	第6章 成果を発表する		
2学期	第2編 探究に用いる技能と実践例		
	第1章 実験・観察・調査に関する基本操作	・外部講師「心理アプローチによるイノベーション創出とベンチャー起業」	
	第2章 探究の実践例	・外部講師「Be Smart Kobe プロジェクト」 ・外部講師「森林防災で政策提言を考えるワークショップ」 ・外部施設訪問「理化学研究所」 ・外部施設訪問「国際フロンティア産業メッセ」 ・大学訪問「京都大学研究室訪問研修」 ・大学訪問「大阪大学工学部研究室訪問研修」	
	第3編 探究に必要なその他の知識		
	第1章 統計学	・外部講師「統計学入門」	
3学期	第2章 インターネットでの情報収集	・外部講師「レジリエンスを高めよう」	
	第3章 英語での発表	・外部講師「探究を始めるにあたって」	

成績評価方法	【知識・技能】授業に対する取り組み状況、授業ごとに提出する課題のうち、知識・技能に関するものを点数化し、評価を行う。 【思考・判断・表現】授業に対する取り組み状況、授業ごとに提出する課題のうち、思考・表現・判断に関するものを点数化し、評価を行う。 【主体的に学習に取り組む態度】授業に対する取り組み状況、授業ごとに提出する課題のうち、主体的に学習に取り組む態度に関するものを点数化し、評価を行う。
--------	---

教 科	探 究	科 目	探 究	学年・類型	2年特色類型	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
使用教科書	なし								
副教材等	課題研究メソッド(啓林館)等								
学習目標	アカデミックな内容を論理的に伝えるプレゼンテーションの技法を身につける。 検証可能な問いを立てることができるようになる。仮説の検証のために適切な手法を選択できるようになる。 結果について論理的な分析ができるようになる。								
授業の進め方, 学習方法	A)数回(グループ・個人)のプレゼンテーションを準備しながら、アカデミックな英語プレゼンテーションに必要な要素を理解し、身につけていく。 B)3～5名のグループで、それぞれの班ごとにテーマを見つけ、課題研究に取り組む。 授業ごとの目標や、やるべきことをメンバーで共有しながら進める。 必要に応じて研究者や専門家の指導を受ける。 定期的に外部助言者の指摘は受けるが、基本的に自分たちで実験や調査の計画を立てて実施する。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	構想発表会 A) Current Social Problems B) 研究計画 予備実験 先行研究調査 実験・調査活動	これから行う課題研究の計画について発表し、助言指導を受ける 現代社会が抱える様々な課題について賛否を論理的に示し、その解決策を、具体例を挙げつつ発表する 学期末にインタビューテストを行う 予備実験や先行研究の調査等を進めて仮説を精緻化する テーマについて必要な基礎学習や情報収集を行う	【知識・技能】 検証可能な仮説を立てることができているか。 先行研究を理解しているか。 【思考・判断・表現】 検証可能な実験デザインができているか。 論理的かつ独創性のある取組ができているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 適切に情報を取捨選択できているか。 研究に自ら精力的に取り組めているか。
2 学期	中間発表会 A) Graphs and Numbers B) 外部での発表会	研究の構想と見通し、さらには進捗状況を報告し、助言指導を受ける 各種外部成果発表会への出展に向けて「グラフ・発表要旨・ポスターの作成方法」「研究手順をわかりやすく説明する方法」を演習形式で学習する 学期末に個人プレゼンテーションを行う 外部学会、コンテスト等での発表に向けて、研究を進める 各種発表会に応じてポスターやプレゼンテーションの作成を行う ・外部講師「論理的な文章の書き方」 ・外部講師「科学的に因果関係を知る方法」	
3 学期	A) 3MT B) 成果発表会に向けて 探究成果発表会	1年間のまとめとして3MTを実施する 探究成果発表会に向けて、成果をポスターとプレゼンテーションにまとめる ・外部講師「自然科学の伝え方」 研究の成果について発表し、助言指導を受ける	

成績評価方法	A)インタビュー・プレゼンテーションのパフォーマンスを観点別に評価する。 B)日々の振り返りと発表内容を観点別に評価する。探究内容はルーブリックを用いて評価する。
--------	--

教 科	探究	科 目	総合探究	学年・類型	2年特色類型以外	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	------	-------	----------	------	------	------	-----

使用教科書	
副教材等	課題研究のメソッド, 探究ナビ等

学習目標	①課題の解決に必要な知識及び技能を身に付ける。 ②現状を正しく把握し、探究の意義や価値を理解する。 ③課題の解決に向けて調査・分析する力を身に付ける。 ④論理的にまとめ・表現する力を身に付ける。 ⑤自ら情報を発信し、理解と共感を得る力を身に付ける。
授業の進め方, 学習方法	3～4名のグループで課題研究を行う。 ①課題研究を行うために探究のテーマを決定する。 ②課題を解決するための調査・分析を行う。 ③探究の成果をスライドまたはポスターにまとめ発表する。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	研究テーマの決定	これから行う探究活動の「テーマ」を決定するために、各班探究していきたいキーワードについて情報収集を行う。また、先行研究や先行事例を調査する方法を学び、実践する。担当者との面談を繰り返しながら探究活動の「テーマ」を決定する。	【知識・技能】 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、現状を正しく把握し、探究の意義や価値を理解している。 【思考・判断・表現】 課題の解決に向けて調査・分析する力とともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 探究課題に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、自ら情報を発信し、理解と共感を得ようとしている。
	研究計画書の作成	探究する「テーマ」について、今後どのように探究活動を進めていくのかを計画する。探究活動で実施する調査について、実施する際の注意事項や実施方法を学ぶ。	
	研究計画発表会	これから行う探究活動についての計画を発表し、各班で意見交換を行う。	
2学期	探究活動	1学期に決定した探究活動の「テーマ」について、探究活動を行う。アンケート調査、インタビュー調査、現地調査・参与観察、実験について事前準備を十分に行い実施する。	
	中間発表会に向けて	プレゼンテーションの方法や、資料のまとめ方、引用の方法などを学ぶ。	
	中間発表会	探究活動の進捗状況をスライドを用いて発表する。さらには探究活動の今後の構想と見通しも報告し、指導助言をうける。また各班で意見交換を行い今後の探究活動に活かす。	
3学期	探究活動	引き続き探究活動を行う。	
	「総合的な探究の時間」まとめ	1年間を通して探究成果をA4用紙1枚で簡易な文章にまとめる。	
	最終成果発表会に向けて	講演会を実施し、ポスターの作成の方法や発表方法について学ぶ。	
	最終成果発表会	1年間を通しての探究成果をポスターにまとめて発表する。	

成績評価方法	【知識・技能】 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、現状を正しく把握し、探究の意義や価値を理解している。 【思考・判断・表現】 課題の解決に向けて調査・分析する力とともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 探究課題に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、自ら情報を発信し、理解と共感を得ようとしている。 各項目についてA, B, Cの三段階で年間を通して評価する。
--------	---

教 科	探究	科 目	人文数理探究	学年・類型	3年特色類型	履修形態	全員履修	授業時数	1単位
-----	----	-----	--------	-------	--------	------	------	------	-----

使用教科書	なし
副教材等	なし

学習目標	探究の成果について ①要旨をまとめることができる。 ②論理的に日本語で表現し、論文作成やポスター作製のルールに沿った記述ができる。 ③英語で表現することができる。 ④わかりやすい英語で専門知識のない人にも伝わるようにプレゼンすることができる。
授業の進め方、 学習方法	基礎知識についての講義、ワークシートの完成、ロールプレイ、原稿作成と添削、音声指導、個別指導、発表など

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	英語ポスターの発表準備	英語ポスターのフォーマットを理解している 英語でアブストラクトを書くことができる 現状分析や研究背景について英語で説明できる 研究手法について英語で説明できる 結果と考察について英語で説明できる 展望について英語で説明できる	【知識・技能】 ポスターのフォーマットを理解し、適切に作成できている。 【思考・判断・表現】 結果や草津について、英語で説明ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 わかりやすく英語で発信するために工夫し、デリバリー面で配慮ができている。
	英語プレゼンテーションの発表準備	英語のプレゼンで気を付けるべきことを理解している 聴衆に配慮し、伝えるべき情報を取捨選択できる 聴衆を集中力を保つことができる わかりやすい英語で伝えることができる わかりやすい英語で伝えることができるスライドを作成することができる ストーリー化し巧みな構成を計画できる	【知識・技能】 英語プレゼンテーションの必要事項を理解できている。 【思考・判断・表現】 徹取に理解できるわかりやすい英語での表現ができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 発表に臨む際の原稿の暗記や身振り手振りなどの工夫がされている。
2学期	論文集作成 ポスター（日・英）の最終版の作成 論文執筆作業	論文のフォーマットと引用ルールの理解 グラフや表のルール 記述の仕方	【知識・技能】 論文のフォーマットと引用ルールを理解している。 【思考・判断・表現】 実験手法に基づいた適切なグラフの活用ができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 表現を工夫し、期日までに校正を実施することができる。
	論文校正作業	出稿	【知識・技能】 論文のフォーマットと引用ルールを理解している。 【思考・判断・表現】 実験手法に基づいた適切なグラフの活用ができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 表現を工夫し、期日までに校正を実施することができる。
3学期		校正作業	【知識・技能】 論文のフォーマットと引用ルールを理解している。 【思考・判断・表現】 実験手法に基づいた適切なグラフの活用ができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 表現を工夫し、期日までに校正を実施することができる。

成績評価方法	【知識・技能】 提出された原稿とポスター、プレゼンテーションにより総合的に評価する。 【思考・判断・表現】 提出された原稿とポスター、プレゼンテーションにより総合的に評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 提出された原稿とポスター、プレゼンテーションにより総合的に評価する。
--------	--

教 科	探究	科 目	選択探究	学年・類型	3年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	1単位
使用教科書	なし								
副教材等	なし								

学習目標	探究の成果について ①要旨をまとめることができる。 ②論理的に日本語で表現し、論文作成のルールに沿った記述ができる。 ③英語で適切に研究要旨を表現することができる。 ④専門知識のない人にも、わかりやすく伝わるようにプレゼンすることができる。
授業の進め方、 学習方法	基礎知識についての講義、ワークシートの完成、原稿作成と添削、個別指導、発表など

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	課題研究の洗練と深化	テーマを深掘りする方法 研究計画書の作成方法 論文の調べ方 論文の全体的な構成方法	【知識・技能】 論文のフォーマットと引用ルールを理解している。 【思考・判断・表現】 実験手法に基づいた適切なグラフの活用ができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 表現を工夫し、期日までに校正を実施することができる。
	論文作成の実際	研究要旨の作成（日本語・英語） 論文の構成 研究指導	【知識・技能】 論文のフォーマットと引用ルールを理解している。 【思考・判断・表現】 実験手法に基づいた適切なグラフの活用ができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 表現を工夫し、期日までに校正を実施することができる。
2学期	論文の校正・研究指導	研究指導 論文校正	【知識・技能】 論文のフォーマットと引用ルールを理解している。 【思考・判断・表現】 実験手法に基づいた適切なグラフの活用ができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 表現を工夫し、期日までに校正を実施することができる。
	論文の校正・研究指導	研究指導 論文校正	【知識・技能】 論文のフォーマットと引用ルールを理解している。 【思考・判断・表現】 実験手法に基づいた適切なグラフの活用ができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 表現を工夫し、期日までに校正を実施することができる。
3学期	論文の校正・研究指導	論文校正	【知識・技能】 論文のフォーマットと引用ルールを理解している。 【思考・判断・表現】 実験手法に基づいた適切なグラフの活用ができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 表現を工夫し、期日までに校正を実施することができる。

成績評価方法	【知識・技能】 本校所定のルーブリックにより、提出された論文・計画書・研究概要により総合的に評価する。 【思考・判断・表現】 本校所定のルーブリックにより、提出された論文・計画書・研究概要により総合的に評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 本校所定のルーブリックにより、提出された論文・計画書・研究概要により総合的に評価する。
--------	--